

令和4年度 全国学力・学習状況調査 福岡県学力調査

調査結果報告書

国語

算数・数学

理科

福岡県義務教育の重点テーマ

日々の小さな挑戦

未来を見据えた変化は、他者からもたらされるものでも、一朝一夕に実現できるものでもない。
一人ひとりが当事者となり、課題や葛藤と向き合って、「日々の小さな挑戦」を続けることで、はじめて成し遂げられる。

令和4年度

変化の芽を伸ばす

令和3年度

子どもの力を信じて

令和2年度

向上の勢いをつける

平成31・令和元年度

浸透・徹底

平成30年度

山を動かす

平成27～29年度



令和4年12月
福岡県教育委員会

■ 報告書作成・活用についての基本的な考え方

この報告書は本県の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的として作成しています。また、全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえています。

※ Webページへの掲載

本報告書は、以下のWebページで閲覧することができます。

① 福岡県庁ホームページ

URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/2132105/>

(トップページ→組織から探す→福岡県教育委員会→義務教育課→新着情報)



② 福岡県教育庁教育振興部義務教育課各種資料のページ

URL: <http://gimu.fku.ed.jp/Default1.aspx>



要 旨

「全国学力・学習状況調査」は、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に行われています。福岡県では、「福岡県学力調査」を行うことで、小学校5年生から中学校3年生まで児童生徒一人一人の学習状況等を追跡把握し、切れ目ない指導や支援に役立てることを大切にしています。

令和4年度全国学力・学習状況調査の教科に関する調査では、「国語」、「算数・数学」に加え「理科」の調査が行われました。6つの教科区分のうち、小学校国語、小学校算数、中学校国語の3つが全国平均以上の結果であり、毎年行われている国語、算数・数学において、小学校では、全国平均水準を堅調に維持しており、中学校では、全国平均水準が定着しつつあります。

調査開始時（平成19年度）からの各地区の経年推移では、総じて、標準化得点の上昇傾向と最大・最小の差の縮小傾向がうかがえます。また、中学校数学は、他の教科区分と比較すると、生徒の学力差、学校間差、地区間差が拡がりやすいことが考えられ、小学校段階からの重点的な指導や支援がさらに求められます。

全ての児童生徒に「確かな学力」を育成していくには、児童生徒の学力・学習状況を丁寧に見ていくことが重要です。そのため、標準化得点による分析に加えて、教科区分ごとの正答数の分布を層として分析することは、指導方法の改善や支援の見通しを立てる上での参考になります。

福岡県には、学年が上がるにしたがってC層・D層の児童生徒が増え、結果として標準化得点の下がる地区が複数存在します。児童生徒の学力向上を考える上では、学年間・学校間の連携や協力による義務教育9年間を見通した指導や支援が重要です。

特に、小学校高学年においては、中学校以上の抽象的で高度な学習を見通し、系統的な指導による中学校への円滑な接続を大切にし、自律的に学べる力を育てる必要があります。

また、福岡県では、これまで「書く活動」を大切にしてきました。学校の取組により無解答率は全国平均よりも低い傾向となり、粘り強く問題に取り組んでいる児童生徒が増えていることは大きな成果となっています。一方、無解答率の減少が、正答率の上昇に結び付いていないことから、今後は、「質」（条件に合った適切さ）を意識した「書く活動」が大切だと考えています。

児童生徒質問紙調査から分かる全国的な傾向として、基本的な生活習慣等は、教科の正答率への影響が大きい傾向にあります。特に、平日のテレビゲームやSNS、動画視聴時間の長時間化傾向には注意が必要です。また、自分のよさを自覚しながら粘り強くやり遂げようとする児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向にあります。

福岡県の傾向として、授業改善に関する取組状況では、全国と比較して肯定的な回答の割合が低い傾向にあります。今後は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組む活動や自分の考えを深めたり、広げたりする話し合う活動の一層の充実が求められます。また、ICTを活用した学習状況では、全国と比較して活用機会が低い傾向にあり、地区間や校種間で活用機会に差が見られます。今後は、児童生徒がICTを活用する機会を増やしていく中で、教科の特質に応じた効果的な活用を探っていくような取組が求められます。

学校質問紙調査における福岡県の傾向として、学校運営では、PDCAサイクルの確立について全国と比較して肯定的な回答をしている学校が多い傾向にあり、検証改善の取組が推進されています。生徒指導等では、授業中の落ち着きや児童生徒を褒める取組について、地区間や校種間での差が表れやすい傾向にあります。

このような中、小学校事例校や中学校拠点校の取組から、成果を上げるポイントを整理することができました。本報告書が、児童生徒の「行きたい学校・会いたい仲間・参加したい学び」に資する、各学校の「日々の小さな挑戦」の参考となり、学力向上の確かな取組の推進につながることを願っています。



I 調査の概要



1

- 1 調査の目的
- 2 調査対象の学年
- 3 調査の方式
- 4 調査日
- 5 調査の内容
- 6 調査問題の設問数及び問題形式
- 7 調査日(4月19日)に調査を実施した公立学校数・児童生徒数

全国学力・学習状況調査は、何のために行われているの？
令和4年度は具体的にどんな調査が行われたの？

II 調査結果の概要



3

- 1 調査結果の概況
- 2 教科に関する調査の結果
- 3 標準化得点と学力層(四分位)の推移
- 4 児童生徒の無解答の状況(地区別)
- 5 県全体の平均正答率度数分布(市町村単位)

どんな結果でどんな特徴があるの？
分析の仕方にはどんな方法があるの？

【書き込み活用ページ①】教科に関する調査結果の整理

III 各教科の調査結果



17

- 1 小学校国語
- 2 小学校算数
- 3 小学校理科
- 4 中学校国語
- 5 中学校数学
- 6 中学校理科

教科区分によってどんな傾向があるの？
どんな問題が得意で、どんな問題が苦手なの？

IV 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析

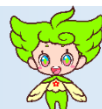


29

- 基本的な生活習慣等
- 挑戦心、達成感、自己有用感等
- 学習習慣、学習環境等
- ICTを活用した学習状況
- 授業改善に関する取組状況
- 教科の興味関心や理解度

児童生徒質問紙にはどんな項目があるの？
注目すべき質問項目はどんな質問？

V 学校質問紙に関する調査結果と分析



30

- 学校運営
- 生徒指導等
- 授業改善に関する取組状況
- 家庭・地域との連携

学校質問紙にはどんな項目があるの？
注目すべき質問項目はどんな質問？

【書き込み活用ページ②】質問紙調査結果の整理

VI 成果を上げている事例の紹介<小学校>

33



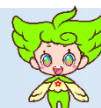
■ 小5から小6にかけて標準化得点が大きく上昇した学校の取組

- ・ A小学校 (小学校6年生 5学級 約140名)
- ・ B小学校 (小学校6年生 2学級 約 50名)
- ・ C小学校 (小学校6年生 3学級 約 90名)
- ・ D小学校 (小学校6年生 3学級 約 80名)
- ・ E小学校 (小学校6年生 3学級 約 80名)
- ・ F小学校 (小学校6年生 2学級 約 60名)

小学校ではどんな取組が
成果につながっているの？

VII 成果を上げている事例の紹介<中学校>

40



■ 学力向上推進拠点校の取組

- ・ 志免町立志免東中学校 (全校18学級 約500名)
- ・ 芦屋町立芦屋中学校 (全校12学級 約320名)
- ・ 大刀洗町立大刀洗中学校 (全校20学級 約410名)
- ・ 大川市立大川桐薫中学校 (全校13学級 約350名)
- ・ 嘉麻市立山田中学校 (全校 9学級 約170名)
- ・ 築上町立椎田中学校 (全校 9学級 約210名)

中学校ではどんな取組が
成果につながっているの？

【書き込み活用ページ③】学校の取組の整理

VIII 令和4年度福岡県学力調査

48



- 1 調査の概要
- 2 調査結果の概要
- 3 各学年の調査結果

どんな結果でどんな特徴があるの？

IX 資料

60



- 1 各教科結果の市町村別の状況
- 2 児童生徒質問紙の回答状況
- 3 学校質問紙の回答状況
- 4 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の比較
- 5 小学校と中学校の質問紙回答状況の比較

質問紙調査からどんなことが分かるの？

X まとめと今後の取組

85



- 1 まとめ
- 2 今後の取組

これまでの取組からどんな成果があったの？
また、どんな課題が明らかとなっているの？

令和4年度全国学力・学習状況調査

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象の学年

- ・小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の方式

文部科学省による悉皆方式の調査として実施

4 調査日

令和4年4月19日（火）

5 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（調査時間：各教科小学校は45分間、中学校は50分間）
国語、算数・数学、理科の3教科に関する調査
- (2) 児童生徒質問紙調査（調査時間：20分程度）
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- (3) 学校質問紙調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

6 調査問題の設問数及び問題形式

教科	小学校調査			中学校調査		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
設問数	14問	16問	17問	14問	14問	21問
選択式	8問	6問	11問	6問	4問	15問
短答式	3問	6問	3問	5問	5問	1問
記述式	3問	4問	3問	3問	5問	5問

7 調査日(4月19日)に調査を実施した公立学校数・児童生徒数

小学校調査	学校数 (校)	児童数 (人)		
		国語	算数	理科
全国 (公立)	18,671	965,308	965,431	965,761
福岡県 (公立)	713	42,554	42,575	42,614
福岡教育事務所	119	9,859	9,860	9,878
北九州教育事務所	46	1,792	1,795	1,794
北筑後教育事務所	79	4,200	4,206	4,209
南筑後教育事務所	88	3,137	3,140	3,140
筑豊教育事務所	56	2,391	2,401	2,401
京築教育事務所	47	1,567	1,569	1,567
指定都市	272	19,594	19,590	19,611
県立学校	6	14	14	14

中学校調査	学校数 (校)	生徒数 (人)		
		国語	数学	理科
全国 (公立)	9,348	891,820	891,913	892,585
福岡県 (公立)	343	39,373	39,372	39,379
福岡教育事務所	57	9,106	9,095	9,098
北九州教育事務所	19	1,771	1,772	1,774
北筑後教育事務所	34	3,669	3,668	3,665
南筑後教育事務所	35	2,758	2,760	2,763
筑豊教育事務所	33	2,188	2,189	2,193
京築教育事務所	20	1,374	1,376	1,375
指定都市	134	18,041	18,046	18,047
県立学校	11	466	466	464

本調査は、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、**継続的な検証改善サイクルを確立することを目的**に行われ、今年度は、「国語」、「算数・数学」に加え「理科」の調査が行われました。

また、福岡県全体を各地区等に分けて表すと、学校数や児童生徒数等には違いがあります。そのため、他地区(他校)の取組を参考にしながらも、各地区(学校)における**丁寧な実態分析に基づいた取組の推進が重要**です。



Ⅱ 調査結果の概要

1 調査結果の概況

		小学校(公立)			中学校(公立)		
		平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率	平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率
国語	福岡県	9.2	100.0	66	9.7	100.0	69
	全国	9.2 / 14	(100.0)	66	9.7 / 14	(100.0)	69
算数 数学	福岡県	10.1	100.0	63	7.0	97.2	50
	全国	10.1 / 16	(100.0)	63	7.2 / 14	(100.0)	51
理科	福岡県	10.7	99.1	63	10.2	98.1	49
	全国	10.8 / 17	(100.0)	63	10.4 / 21	(100.0)	49

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。

標準化得点：全国の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点のこと。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。

2 教科に関する調査の結果

- 国語は、小学校、中学校ともに全国平均以上であった。
- 算数・数学は、小学校で全国平均以上であり、中学校で全国平均を下回った。
- 理科は、小学校、中学校ともに全国平均を下回った。



6つの教科区分のうち、3つが全国平均以上でした。
毎年行われている国語、算数・数学において、**小学校では、全国平均水準を堅調に維持**
しています。中学校では、全国平均水準が定着しつつあります。

3 標準化得点と学力層(四分位)の推移

※ 平成31(令和元)年度からA・B問題が統合されたため、H19～H30は参考。

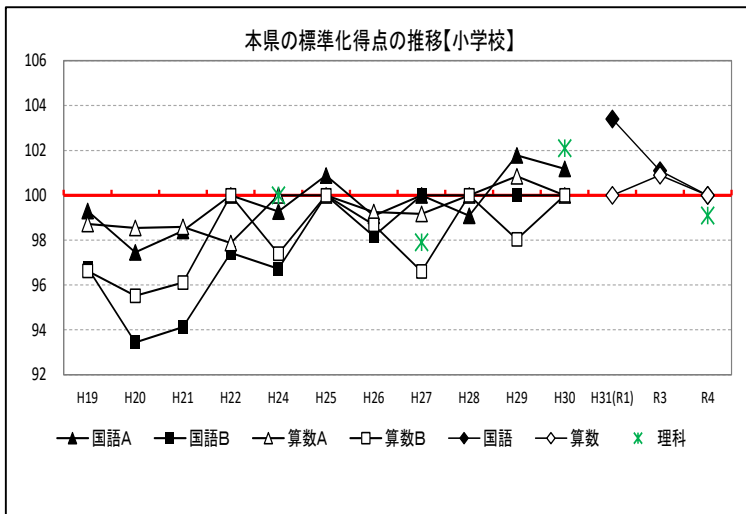
※ 理科は3回に1回で調査を実施。(前回は平成30年度)

(1) 本県の標準化得点の推移

<小学校>

- 前回との比較では、国語は1.1、算数は0.9、理科は3.0ポイント下降した。
- 経年での比較では、国語は5回、算数は4回連続して全国平均以上の結果だった。

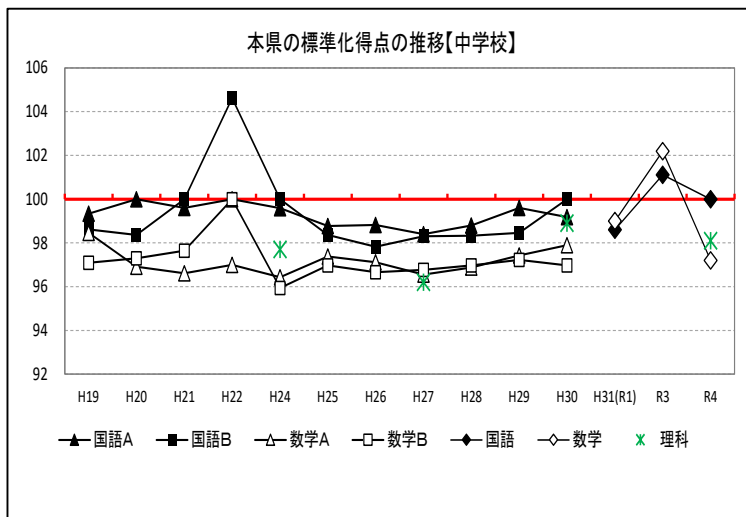
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
H19	99.3	96.8	98.7	96.6	
H20	97.5	93.4	98.5	95.5	
H21	98.4	94.1	98.6	96.1	
H22	100.0	97.4	97.9	100.0	
H24	99.3	96.7	100.0	97.4	100.0
H25	100.9	100.0	100.0	100.0	
H26	99.1	98.2	99.2	98.7	
H27	100.0	100.0	99.2	96.6	97.9
H28	99.1	100.0	100.0	100.0	
H29	101.8	100.0	100.8	98.0	
H30	101.2	100.0	100.0	100.0	102.1
	国語		算数		
H31(R1)	103.4		100.0		
R2	未実施				
R3	101.1		100.9		
R4	100.0		100.0		99.1



<中学校>

- 前回との比較では、国語は1.1、数学は5.0、理科は0.8ポイント下降した。
- 経年での比較では、国語は2回連続して全国平均以上の結果だった。

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
H19	99.3	98.6	98.5	97.1	
H20	100.0	98.4	96.9	97.3	
H21	99.6	100.0	96.6	97.6	
H22	100.0	104.6	97.0	100.0	
H24	99.6	100.0	96.4	95.9	97.7
H25	98.8	98.4	97.4	97.0	
H26	98.8	97.8	97.1	96.7	
H27	98.4	98.3	96.6	96.8	96.2
H28	98.8	98.3	96.9	97.0	
H29	99.6	98.5	97.4	97.2	
H30	99.2	100.0	97.9	97.0	98.9
	国語		数学		
H31(R1)	98.6		99.0		
R2	未実施				
R3	101.1		102.2		
R4	100.0		97.2		98.1



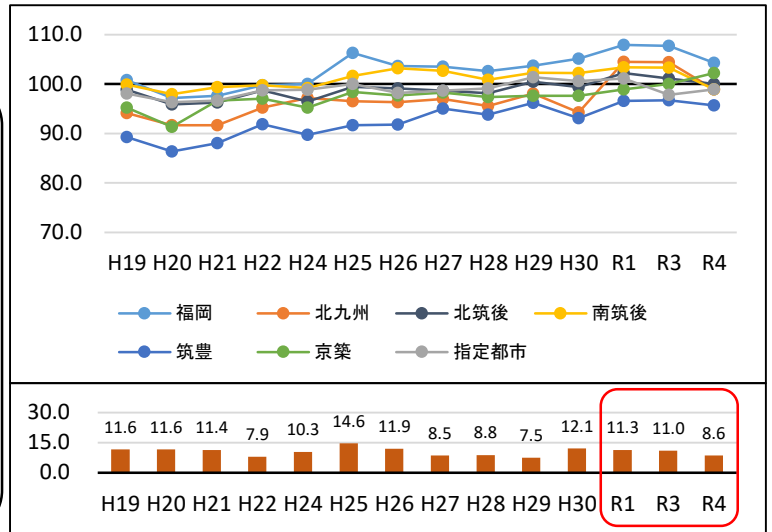
(2) 教科ごとの地区別標準化得点と地区間差の推移

※ 折れ線グラフ（地区別標準化得点）のH19～H30は、A・B問題の平均値。

※ 棒グラフの数値は、7つの地区間の最大・最小の差。

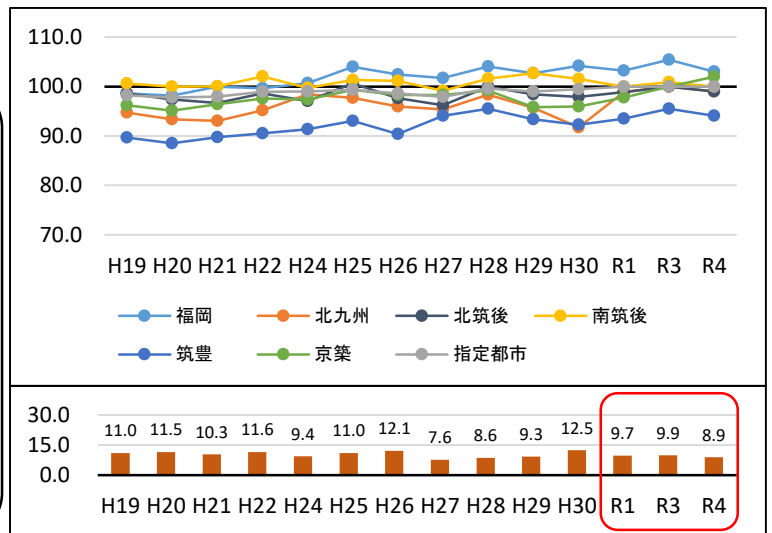
<小学校国語>

- 7地区中3地区が全国平均以上であった。
- 前回との比較では、7地区中2地区で上昇した。
- 7地区間の最大・最小の差は、A・B問題が一体化された形式に変更になった令和元年度以降、最小であった。



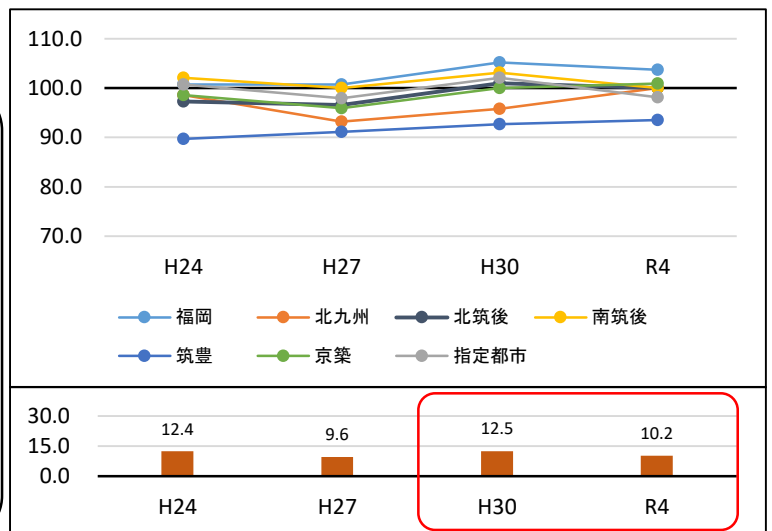
<小学校算数>

- 7地区中4地区が全国平均以上であった。
- 前回との比較では、7地区中1地区で上昇した。
- 7地区間の最大・最小の差は、A・B問題が一体化された形式に変更になった令和元年度以降、最小であった。



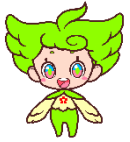
<小学校理科>

- 7地区中5地区が全国平均以上であった。
- 前回との比較では、7地区中3地区で上昇した。
- 7地区間の最大・最小の差は、前回よりも減少した。



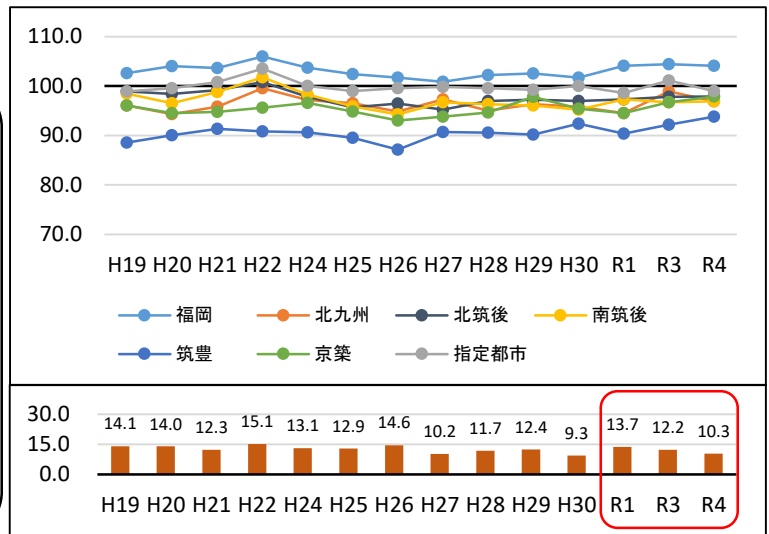
調査開始時からの経年推移では、総じて、標準化得点の向上傾向がうかがえます。
 また、地区間の状況を見ると、最大値が向上しつつも地区間差(最大・最小の差)は縮小傾向がうかがえます。

中学校数学は、他の教科区分に比べ地区間差が大きく、生徒の学力差が拡がりやすいことが考えられ、小学校段階からの算数の重点的な指導や支援が求められます。



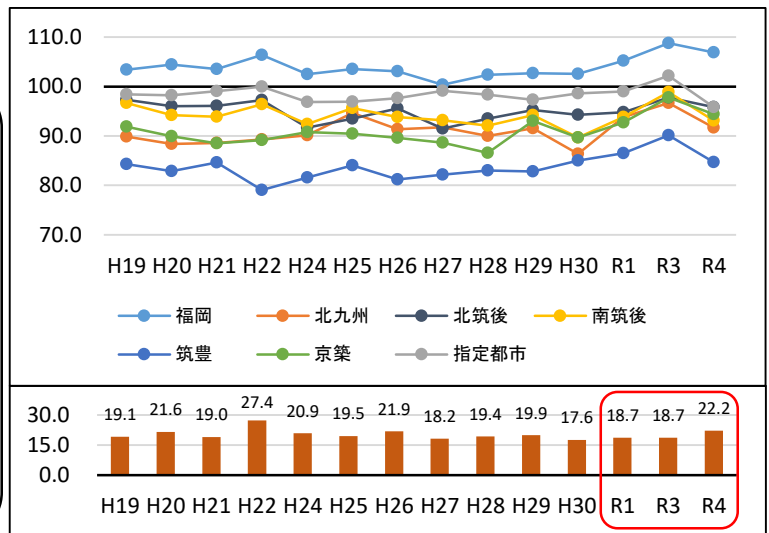
<中学校国語>

- 7地区中1地区が全国平均以上であった。
- 前回との比較では、7地区中4地区で上昇した。
- 7地区間の最大・最小の差は、A・B問題が一体化された形式に変更になった令和元年度以降、最小であった。



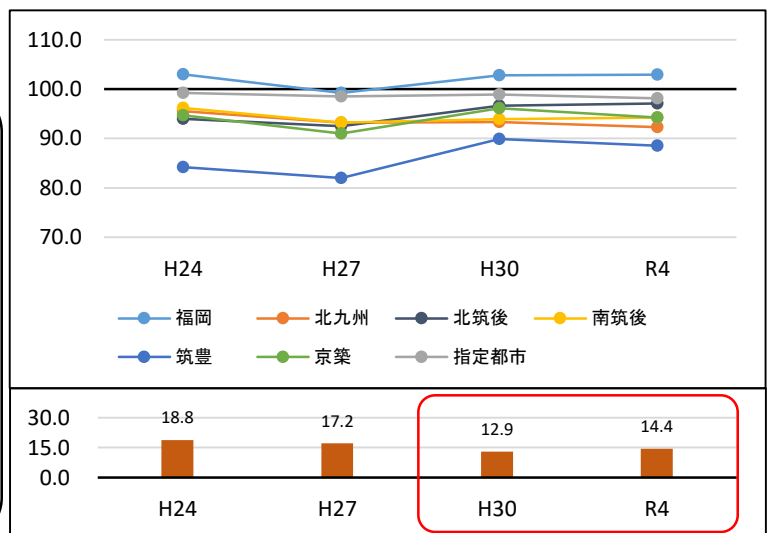
<中学校数学>

- 7地区中1地区が全国平均以上であった。
- 前回との比較では、全ての地区で下降した。
- 7地区間の最大・最小の差は、A・B問題が一体化された形式に変更になった令和元年度以降、最大であった。



<中学校理科>

- 7地区中1地区が全国平均以上であった。
- 前回との比較では、7地区中3地区で上昇した。
- 7地区間の最大・最小の差は、前回よりも増加した。



(3) 本県の学力層(四分位)の結果

ア 学力層(四分位)とは

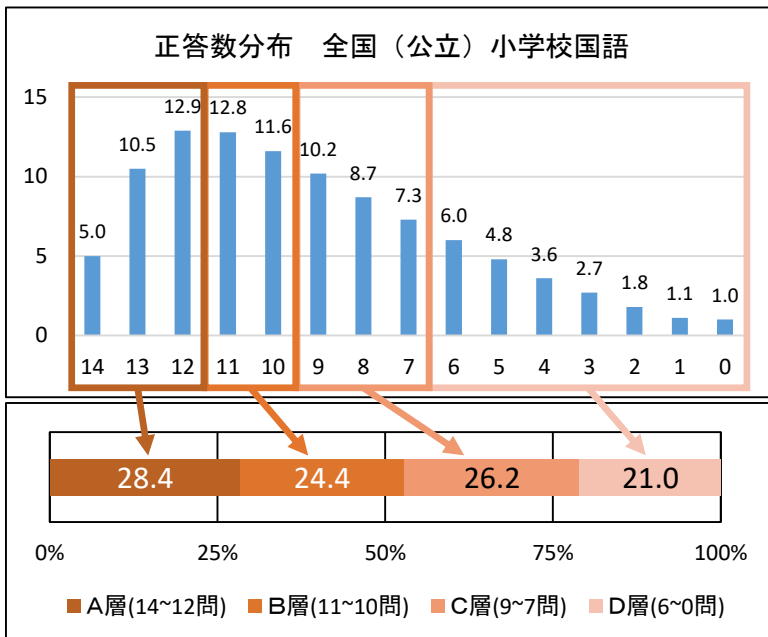
各正答数の児童生徒の割合の合計について、正答数が多い方から順に25%、50%、75%を基準として区切り、それぞれA層、B層、C層、D層としたもの。

(例) 令和4年度全国学力・学習状況調査(小学校国語) 【全国(公立)の結果】

正答数分布グラフは、横軸に正答数、縦軸に割合を表している。

正答数の割合を積算していき、25%、50%、75%を超えた正答数が各層の区切りとなる。

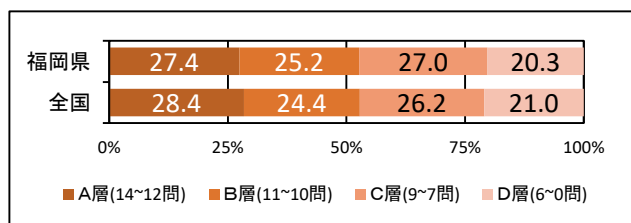
学力層(四分位)の区切りとなる25%、50%、75%を含む正答数の人数は全て、上位の層に含まれるため、各層はきれいに25%ずつにならず、前後する。



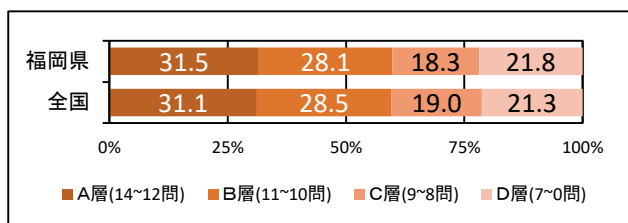
イ 本年度の本県と全国の学力層(四分位)の結果

全国の学力層(四分位)と同じ区切りで本県の学力層(四分位)を算出し比較する。
(※各層の四捨五入の影響で、各層の合計が100%とならないことがある)

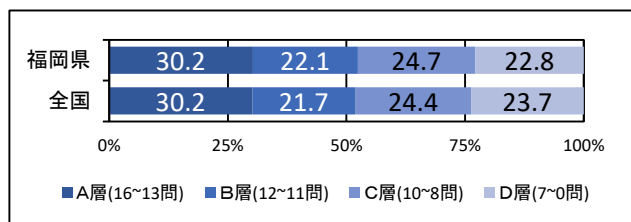
【小学校国語】



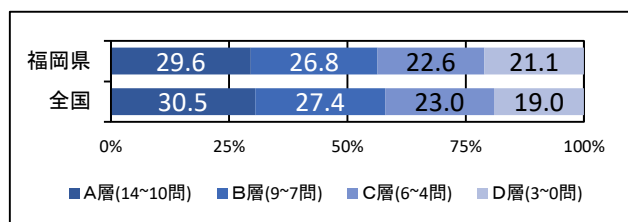
【中学校国語】



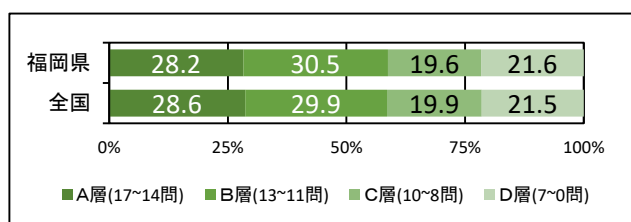
【小学校算数】



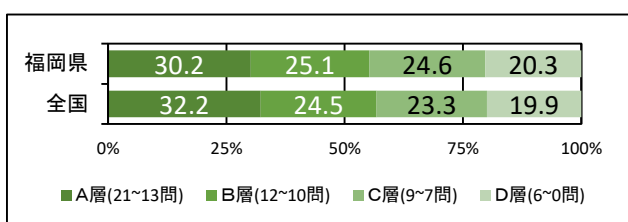
【中学校数学】



【小学校理科】



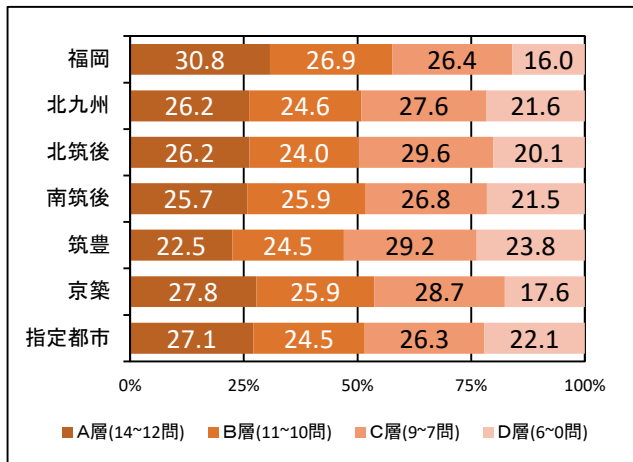
【中学校理科】



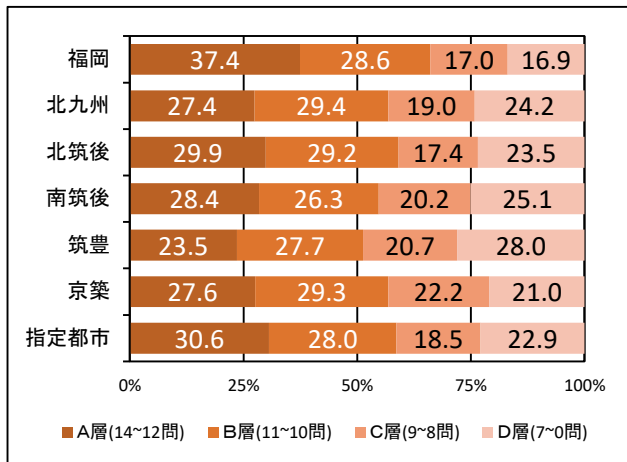
ウ 本年度の各地区の学力層(四分位)の結果

全国の学力層(四分位)と同じ区切りで各地区の学力層(四分位)を算出し比較する。
 (※各層の四捨五入の影響で、各層の合計が100%とならないことがある)

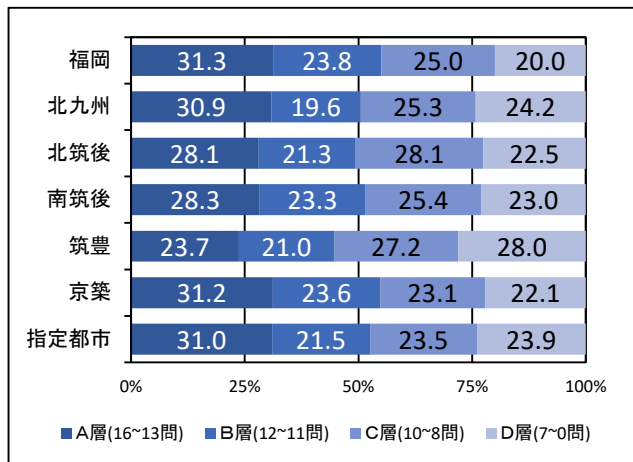
【小学校国語】



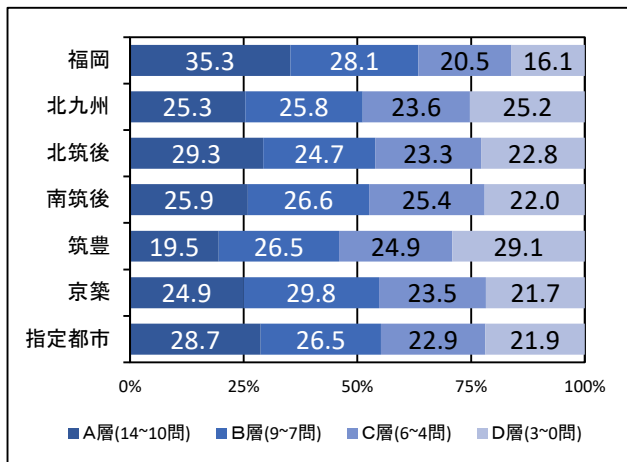
【中学校国語】



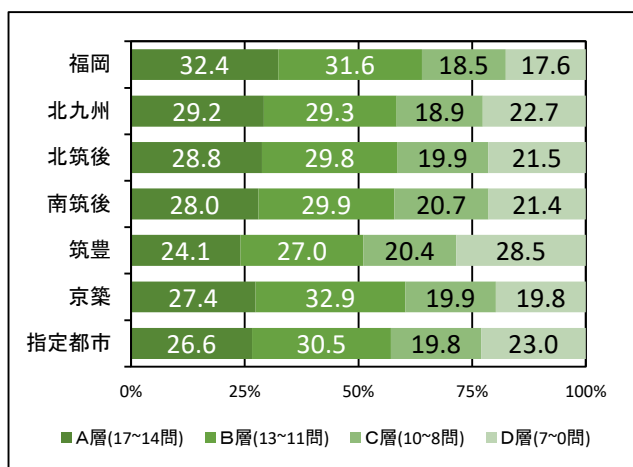
【小学校算数】



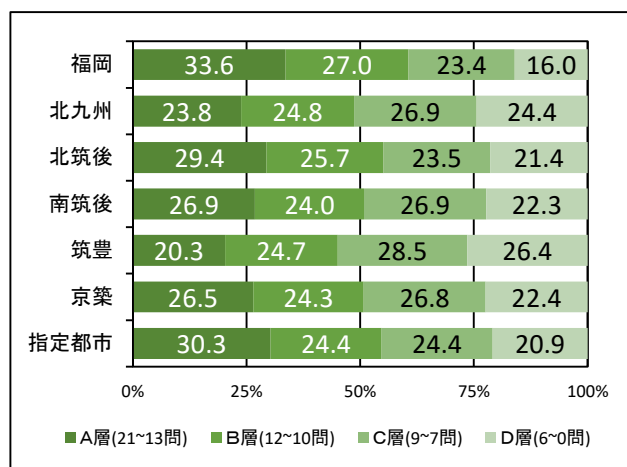
【中学校数学】



【小学校理科】



【中学校理科】



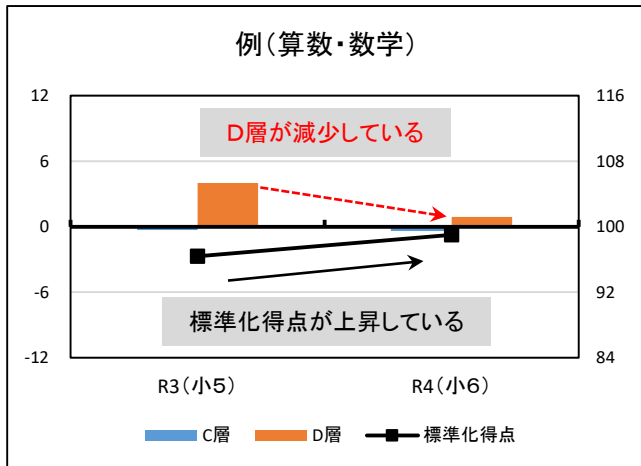
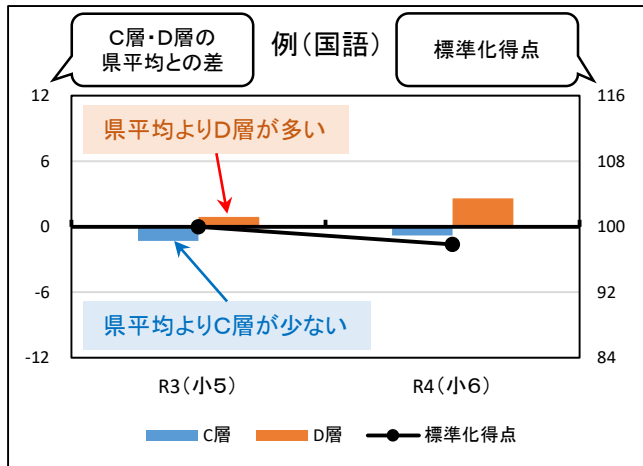
全ての児童生徒に学力を育成していくには、**集団における学力の状況を丁寧に見ていくことが重要です。**そのため、教科区分ごとの正答数の分布を層として分析することは、教科区分における**指導方法の改善や支援の見通しを立てる上での参考**になります。



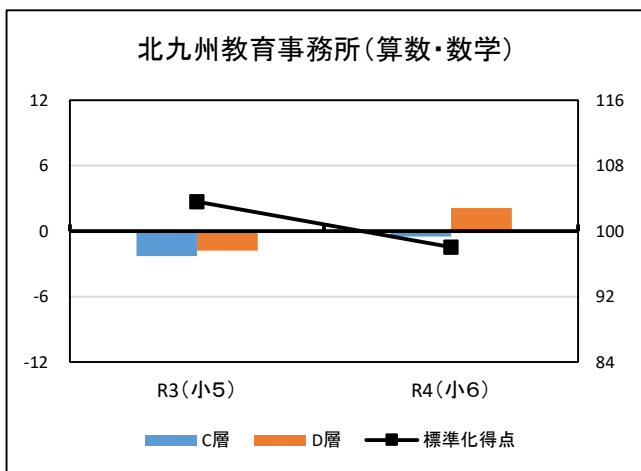
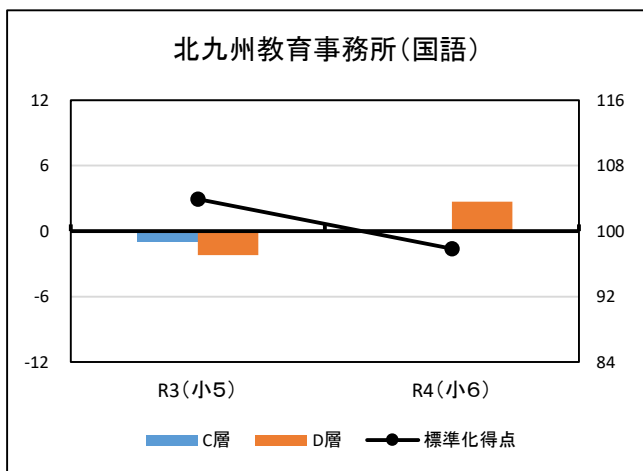
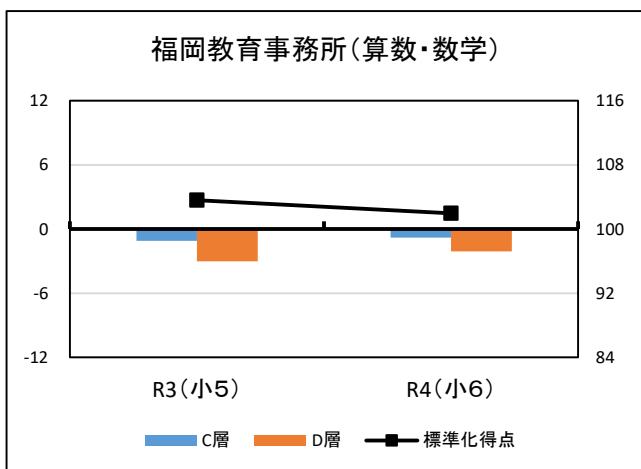
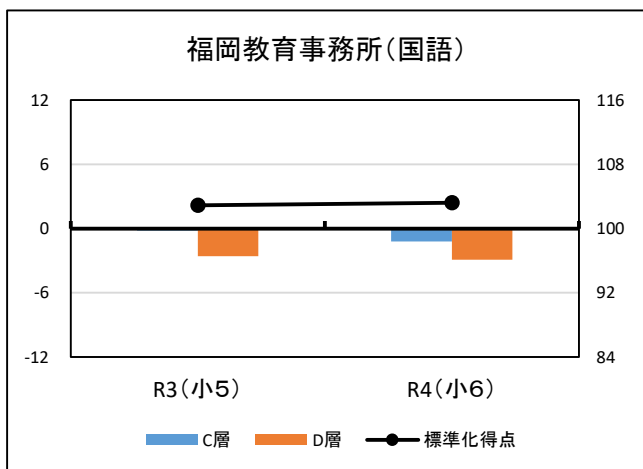
(4) 同一集団の学力層(C層・D層)の県平均との差と標準化得点の推移



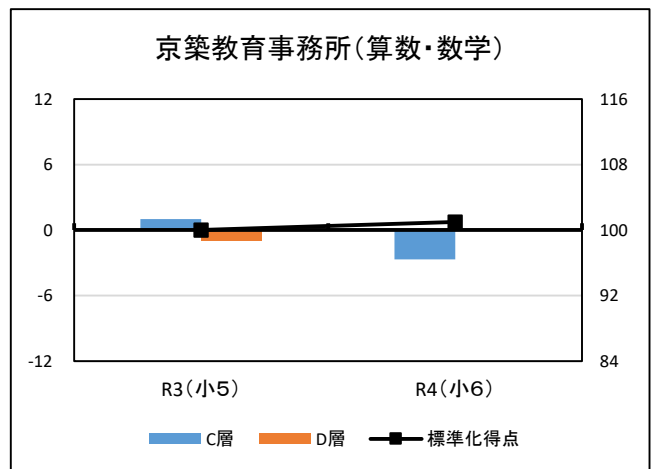
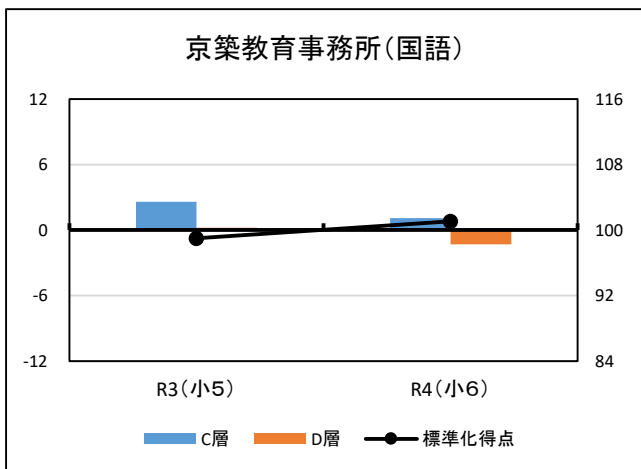
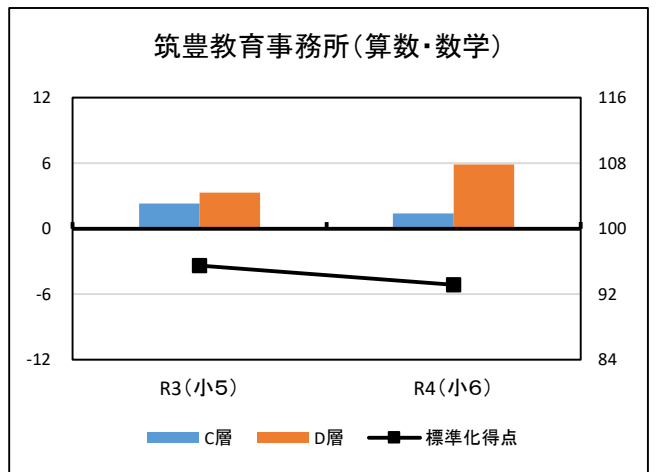
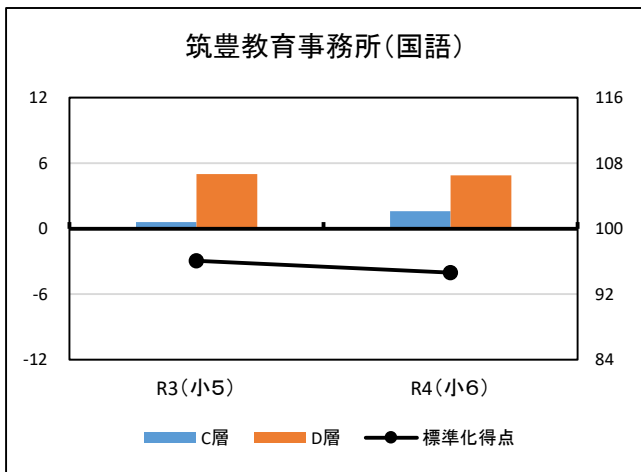
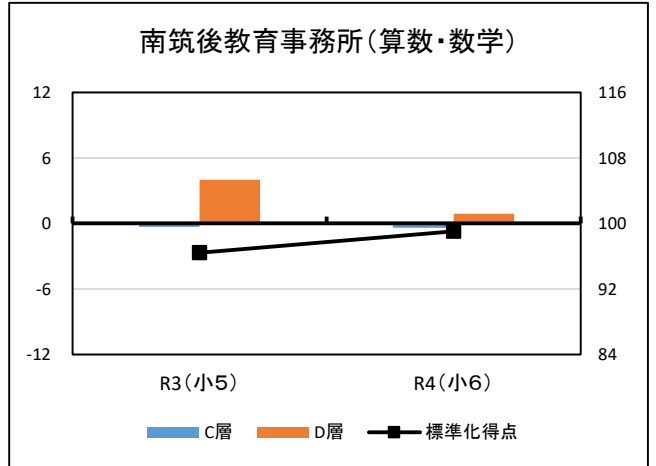
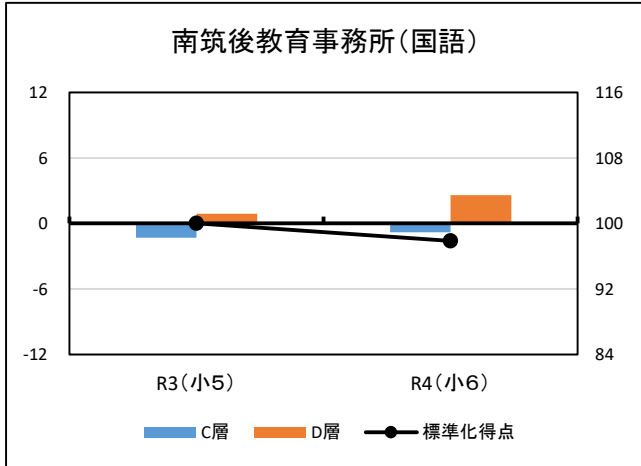
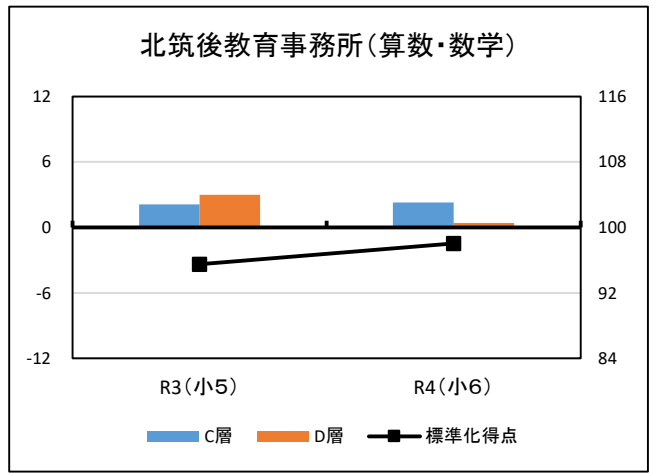
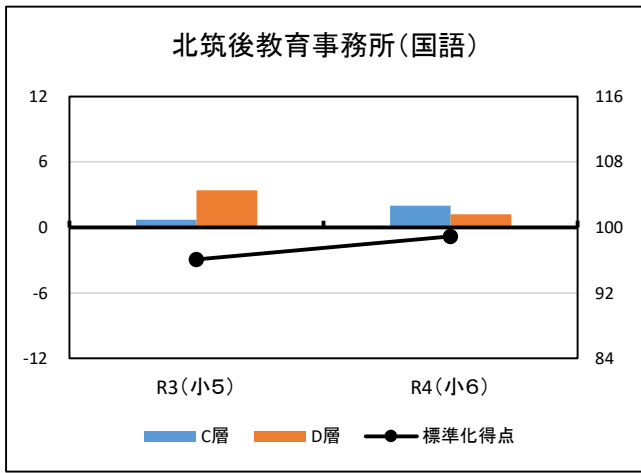
下の図は、指定都市を除く各教育事務所における学力層（C層・D層）の県平均との差の推移を棒グラフで表し、標準化得点の推移を折れ線グラフで表している（左の縦軸は各教育事務所における学力層（C層・D層）の県平均との差、右の縦軸は標準化得点）。



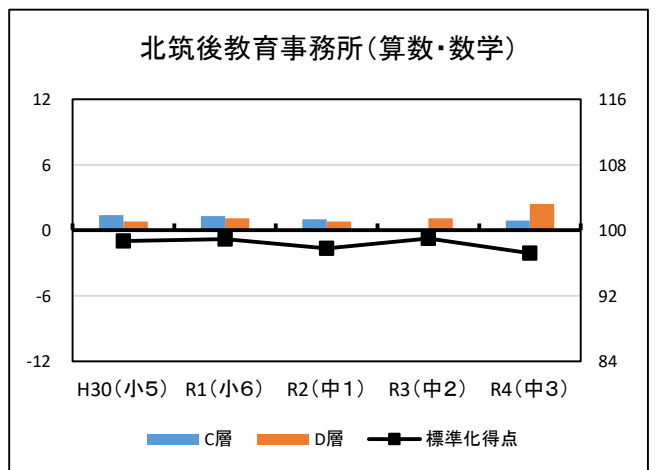
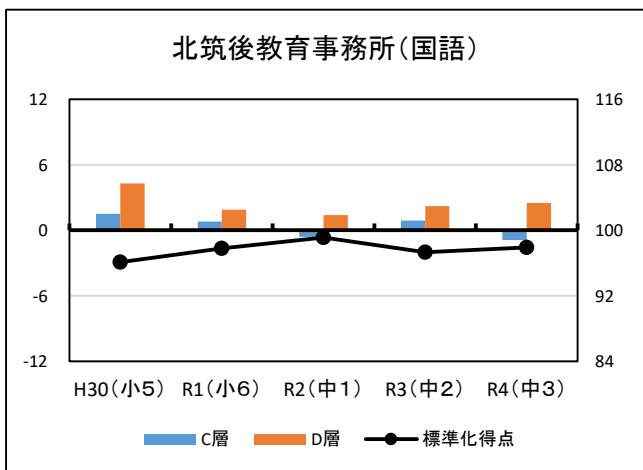
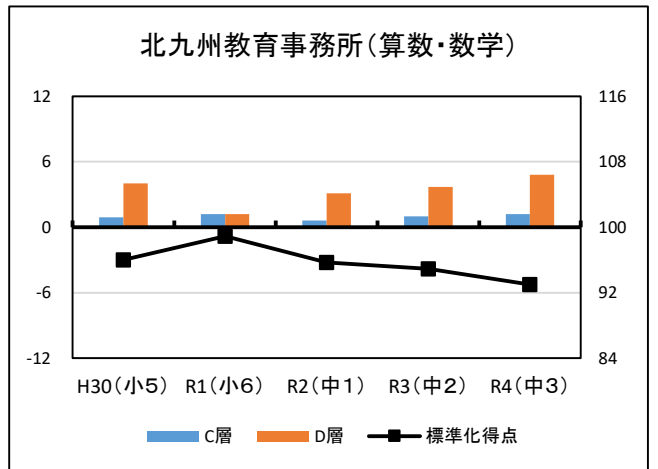
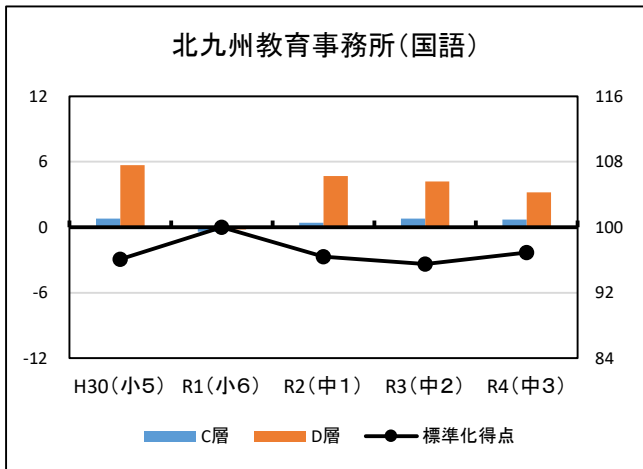
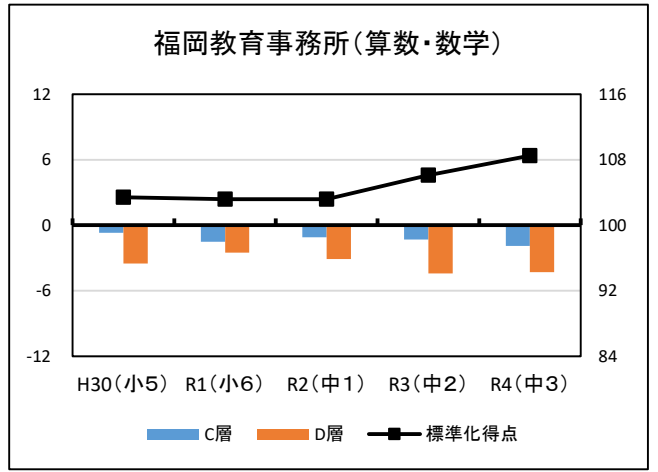
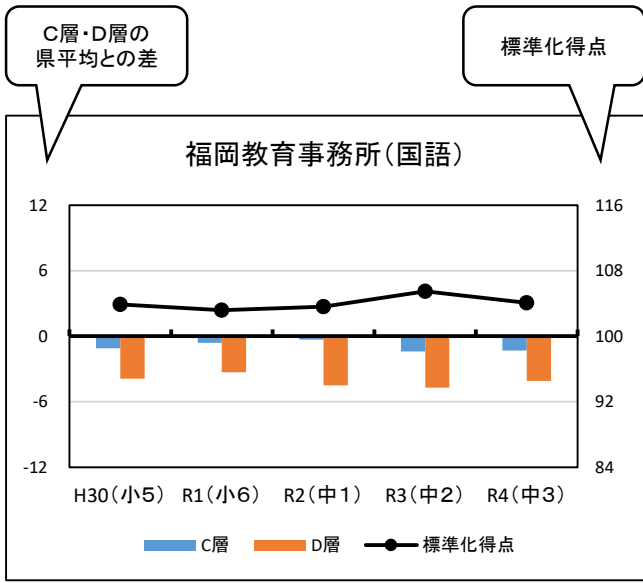
ア 令和3年度小学校5年生(県調査)～令和4年度小学校6年生(全国調査)の推移



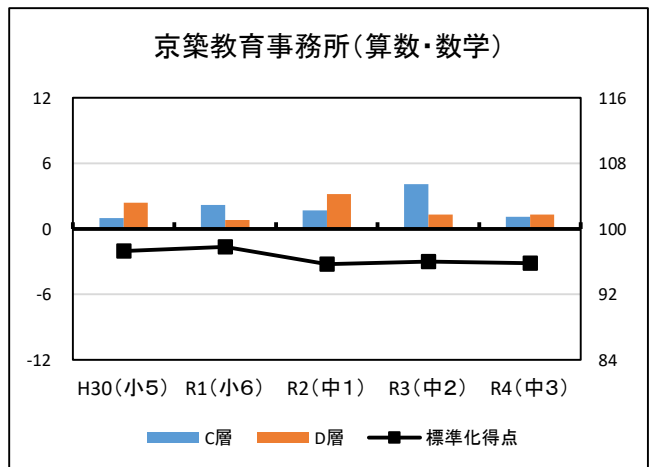
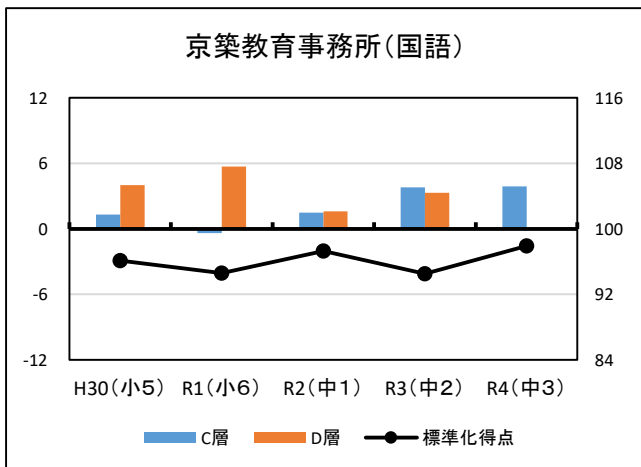
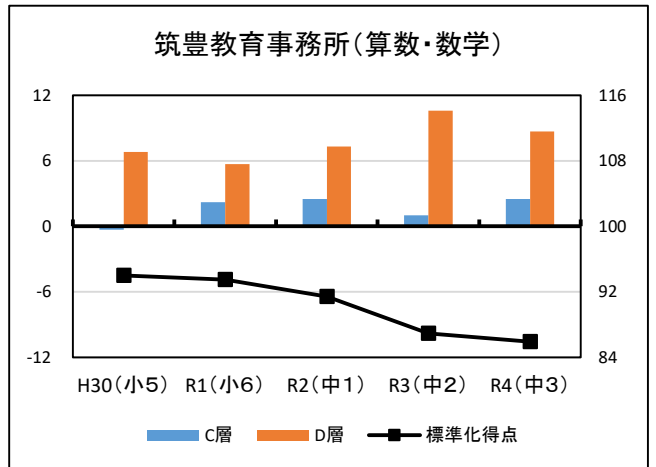
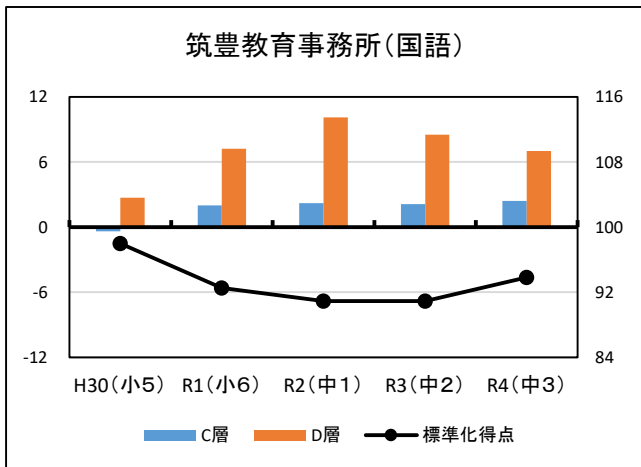
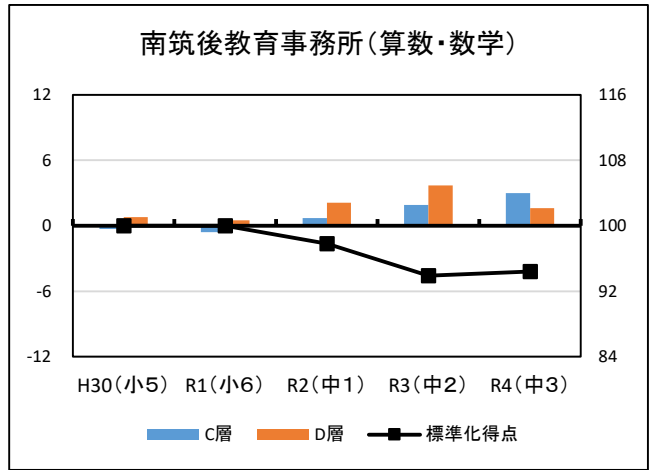
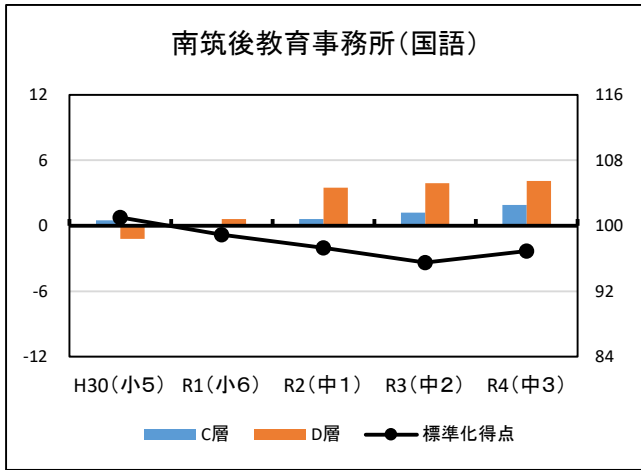
全ての児童生徒の学力を育成していくために、同じ児童生徒の学力の状況を追跡し、経年で分析することで**指導や支援の効果の検証が可能**になります。特に、「標準化得点」と「学力層」を関連付けて分析することで**指導や支援の妥当性が検証**できます。



イ 平成30年度小学校5年生(県調査)～令和4年度中学校3年生(全国調査)の推移



福岡県全体としては、**学年が上がるにしたがってC層・D層の児童生徒が増え、標準化得点が下がる傾向**にあります。全ての児童生徒の学力を確実に育むためには、学年間・学校間の連携や接続を円滑にし、義務教育9年間を見通した指導や支援が重要です。
特に、**小学校高学年においては、中学校以上の抽象的で高度な学習を見通し、系統的な指導による中学校への円滑な接続を大切に、自律的に学ぶ力を育てる必要があります。**

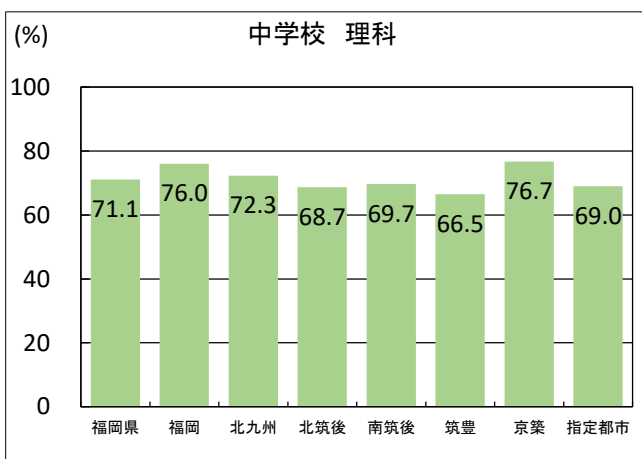
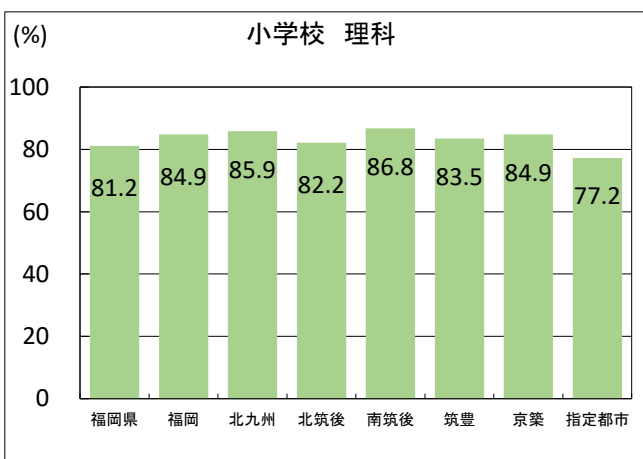
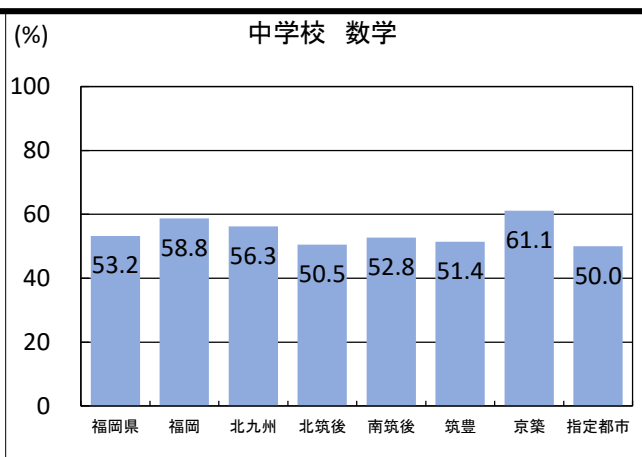
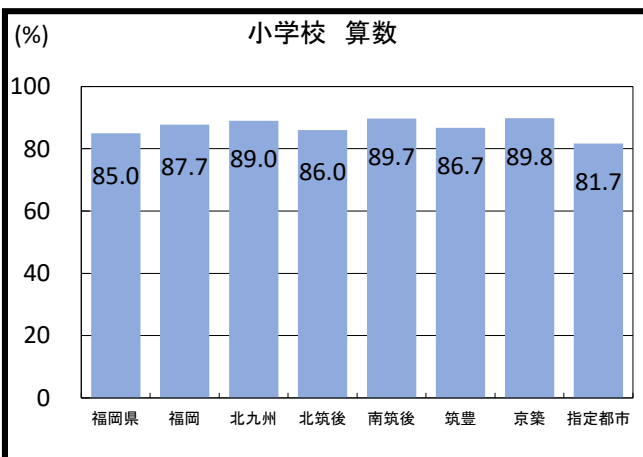
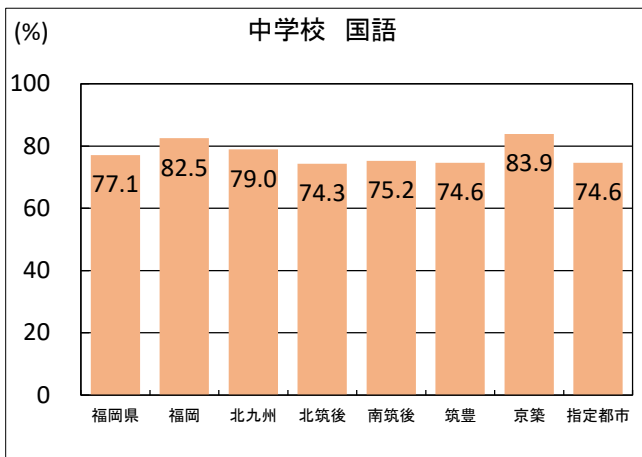
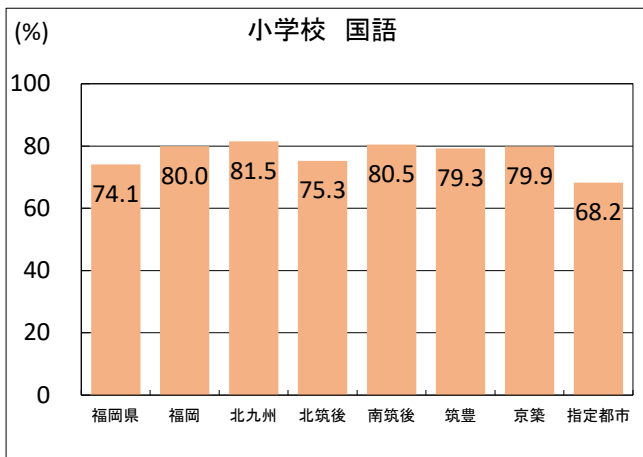


4 児童生徒の無解答の状況(地区別)

(1)教科区分ごとの「無解答なし」の児童生徒の状況

※ 棒グラフの値は、「無解答なし」(全て解答した)の児童生徒の割合

- 全地区において、小学校では、算数の「無解答なし」(全て解答した児童)の割合が最も高いが、中学校では、数学の「無解答なし」(全て解答した生徒)の割合が最も低い。



福岡県では、これまで「書く活動」を大切にしてきました。学校の取組により無解答率は全国よりも低い傾向となり、粘り強く問題に取り組んでいる児童生徒が増えていることは大きな成果となっています。一方、記述問題の正答率は全国よりも低い傾向です。今後は、「質」(条件にあった適切さ)を意識した「書く活動」が大切だと考えています。

(2) 記述問題における「無解答率」と「平均正答率」の状況

- 小学校、中学校ともに、全国と比べて、無解答率が高い地区が少ない。
- 小学校、中学校ともに、全国と比べて、平均正答率が低い地区が多い。

教科	問題番号	出題の趣旨	無解答率 (%)										平均正答率 (%)							
			福岡	北九州	北筑後	南筑後	筑豊	京築	指定都市	福岡県	全国	福岡	北九州	北筑後	南筑後	筑豊	京築	指定都市	福岡県	全国
小学校 国語	1四	互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	2.0	1.2	1.8	1.7	2.0	1.5	2.8	2.3	3.0	51.3	46.5	50.1	44.8	44.0	48.3	47.6	48.2	47.7
	2二	人物像や物語の全体像を具体的に想像する	8.8	8.3	10.6	8.3	9.2	10.0	14.0	11.4	12.2	70.8	62.5	65.4	64.4	64.8	66.0	66.2	66.8	68.3
	3二	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	9.9	9.2	12.5	9.9	11.0	10.1	16.8	13.4	14.5	41.0	38.6	38.0	40.4	35.6	39.8	36.6	38.2	37.7
小学校 算数	1(3)	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3.0	2.3	3.4	2.6	3.0	2.0	5.3	4.0	5.2	83.9	84.6	80.9	82.8	80.2	86.4	77.2	80.3	76.0
	2(4)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	4.1	3.3	5.1	3.1	4.7	2.8	5.9	4.9	5.5	50.0	49.6	45.4	46.3	46.8	48.7	48.9	48.5	48.0
	3(4)	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	5.9	5.0	7.0	5.4	6.7	4.8	9.1	7.4	8.6	72.2	68.5	68.4	68.7	67.1	71.6	67.3	68.9	67.7
	4(1)	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	2.6	1.7	2.8	2.0	3.4	1.3	4.2	3.3	3.8	52.4	47.4	47.1	46.9	41.3	52.8	49.6	49.4	48.8
小学校 理科	1(2)	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	3.0	3.2	3.3	2.3	3.6	2.9	4.8	3.9	5.0	72.0	66.6	67.7	68.2	64.7	68.0	67.0	68.2	67.5
	2(4)	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	5.7	6.2	6.4	5.4	7.4	5.2	8.6	7.2	8.7	46.3	41.6	40.1	40.4	35.9	41.6	41.2	41.9	39.3
	3(4)	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	8.3	8.6	9.3	7.0	9.0	7.5	12.3	10.2	11.2	41.5	41.5	37.3	37.3	34.4	40.5	32.3	36.1	35.1
中学校 国語	1三	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	11.1	13.3	17.1	16.4	15.8	10.8	16.2	14.7	16.2	61.2	52.6	54.3	52.3	48.2	53.3	51.4	54.1	51.8
	2三	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	6.3	8.2	10.4	9.2	10.6	6.4	9.7	8.8	9.0	53.5	54.1	49.7	47.6	45.7	52.6	47.9	49.7	46.5
	3四	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する	9.6	12.6	15.3	13.9	15.1	9.0	14.1	12.9	13.3	77.8	70.4	71.1	71.1	66.8	73.4	72.7	73.4	73.8
中学校 数学	6(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	15.3	21.3	21.4	19.6	20.7	15.3	21.1	19.4	20.0	57.3	47.3	48.6	49.5	42.6	48.5	48.7	50.6	48.7
	6(3)	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明することができる	19.7	22.9	26.8	24.3	23.0	20.3	25.6	23.7	26.2	44.5	34.1	37.5	34.7	32.7	34.4	36.7	38.2	37.6
	7(1)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	0.8	1.8	1.4	1.1	1.2	0.7	1.3	1.2	1.4	47.1	44.1	41.2	46.2	43.4	45.8	44.2	44.8	44.0
	8(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	21.4	24.9	27.9	24.6	27.0	19.4	26.9	25.1	24.4	42.8	36.0	37.3	35.4	31.4	39.7	36.8	38.1	38.4
	9(2)	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	29.6	34.4	37.5	35.5	38.0	30.4	37.2	34.9	38.5	11.5	6.9	9.7	6.2	4.8	7.1	10.5	9.9	12.5
中学校 理科	4(1)	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	3.5	5.0	6.5	5.7	5.9	4.3	5.3	5.0	5.5	77.7	75.2	76.2	74.0	74.2	75.9	74.8	75.7	74.5
	5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	21.6	24.8	28.7	27.3	30.6	20.5	28.2	26.3	29.4	50.5	40.8	43.9	42.8	38.2	47.2	42.4	44.5	43.3
	8(1)	アリの行列のつくり方を探究する場において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	7.0	10.1	11.3	11.1	11.5	8.7	10.2	9.6	11.6	59.7	50.5	53.2	49.5	46.5	51.1	54.8	54.8	55.2
	8(2)	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の共通しをもつことができるかどうかをみる	9.6	12.6	15.1	14.4	14.1	9.4	13.0	12.4	14.9	58.4	50.8	53.1	49.7	45.1	51.1	54.4	54.3	55.1
	8(3)	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	0.9	1.5	0.8	0.9	0.9	0.8	1.1	1.0	1.4	36.1	33.1	35.9	33.8	30.9	33.5	36.1	35.5	39.2

※ 無解答率の網掛けは「全国より高い値」、平均正答率の網掛けは「全国より低い値」である。

5 県全体の平均正答率度数分布(市町村単位)

※ グラフの縦軸は市町村教育委員会の数を表している。

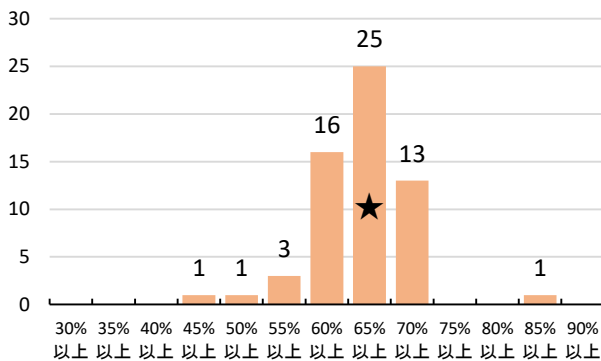
【小学校】

- 国語、算数は、全国の平均正答率のある階級（★印）と同じ階級に最も多くの市町村が集まっている。
- 理科は、全国の平均正答率のある階級（★印）よりも1つ上の階級に最も多くの市町村が集まっている。

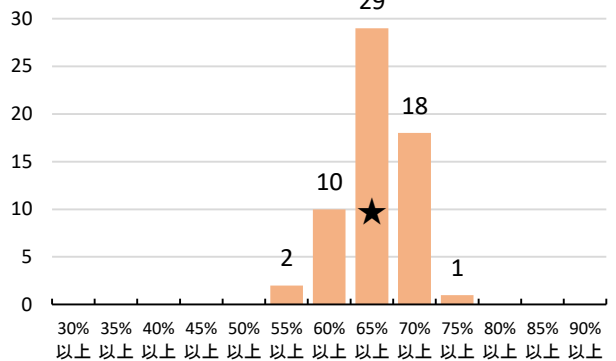
【中学校】

- 国語、理科は、全国の平均正答率のある階級（★印）と同じ階級に最も多くの市町村が集まっている。
- 数学は、全国の平均正答率のある階級（★印）よりも1つ下の階級に最も多くの市町村が集まっている。

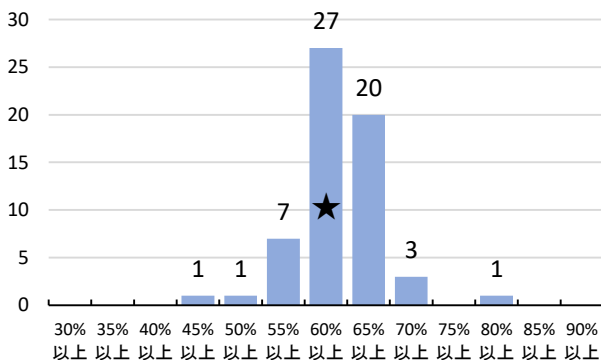
小学校国語



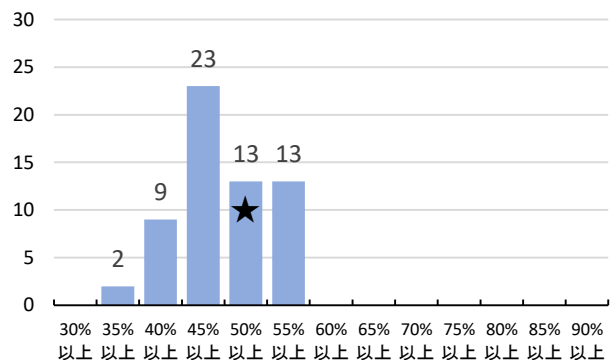
中学校国語



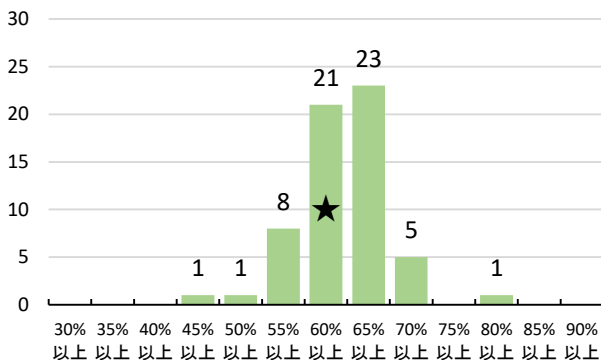
小学校算数



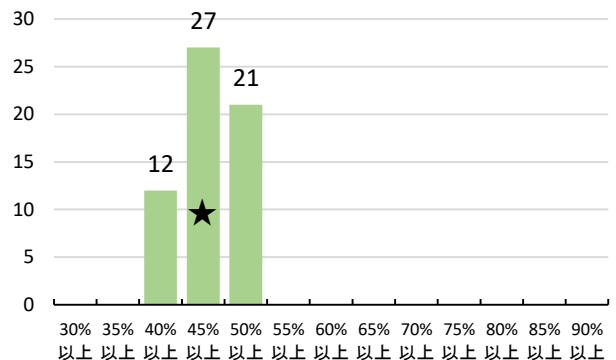
中学校数学



小学校理科



中学校理科



【書き込み活用ページ①】 教科に関する調査結果の整理

令和4年度全国学力・学習状況調査結果をもとに取組等を見直す際、以下のような内容については、各学校で把握しておくことが重要です。（記入は色塗りの空欄部分）

◆ 調査結果の概要（本報告書：3ページ参照）

		小学校(公立)			中学校(公立)		
		平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率	平均正答数／出題数	標準化得点	平均正答率
国語	本校						
	全国	9.2 / 14	(100.0)	66	9.7 / 14	(100.0)	69
算数 数学	本校						
	全国	10.1 / 16	(100.0)	63	7.2 / 14	(100.0)	51
理科	本校						
	全国	10.8 / 17	(100.0)	63	10.4 / 21	(100.0)	49

◆ 学力層(四分位)の状況(本報告書：7ページ参照)

※「福岡県」には指定都市を含むため、同一集団推移の基準となる「指定都市を除く県の平均」とは異なる。

【小学校国語】

	A層 14~12問	B層 11~10問	C層 9~7問	D層 6~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	27.4%	25.2%	27.0%	20.3%
全国	28.4%	24.4%	26.2%	21.0%

【中学校国語】

	A層 14~12問	B層 11~10問	C層 9~8問	D層 7~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	31.5%	28.1%	18.3%	21.8%
全国	31.1%	28.5%	19.0%	21.3%

【小学校算数】

	A層 16~13問	B層 12~11問	C層 10~8問	D層 7~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	30.2%	22.1%	24.7%	22.8%
全国	30.2%	21.7%	24.4%	23.7%

【中学校数学】

	A層 14~10問	B層 9~7問	C層 6~4問	D層 3~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	29.6%	26.8%	22.6%	21.1%
全国	30.5%	27.4%	23.0%	19.0%

【小学校理科】

	A層 17~14問	B層 13~11問	C層 10~8問	D層 7~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	28.2%	30.5%	19.6%	21.6%
全国	28.6%	29.9%	19.9%	21.5%

【中学校理科】

	A層 21~13問	B層 12~10問	C層 9~7問	D層 6~0問
本校	%	%	%	%
福岡県	30.2%	25.1%	24.6%	20.3%
全国	32.2%	24.5%	23.3%	19.9%

Ⅲ 各教科の調査結果

1 小学校国語

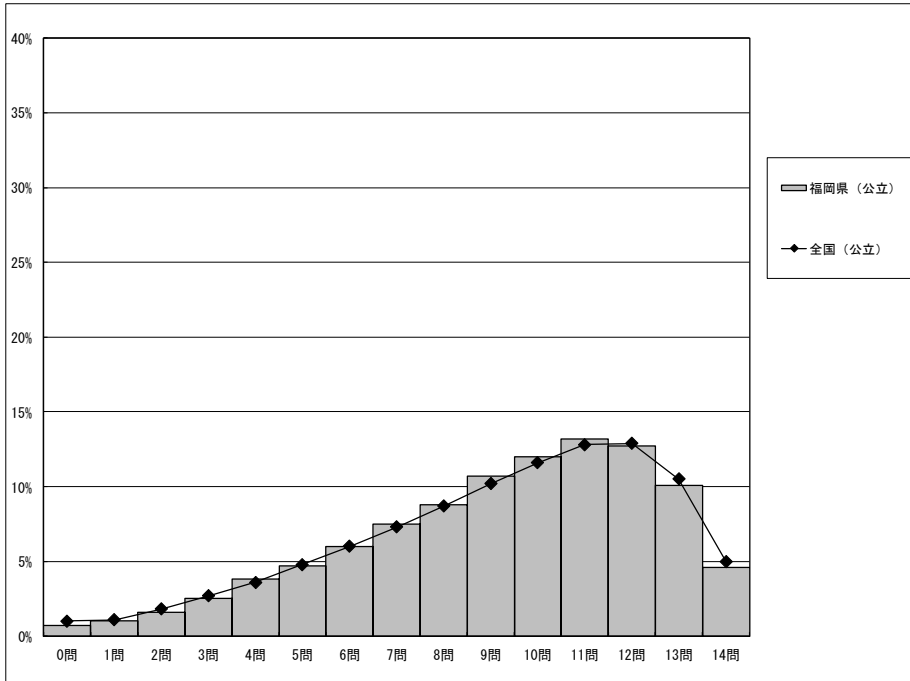
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【国語】
福岡県—児童（公立）

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	42,554	9.2 / 14	66	10.0	3.2
全国（公立）	965,308	9.2 / 14	65.6	10.0	3.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	児童数	割合 (%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
14問	1,969	4.6	5.0
13問	4,305	10.1	10.5
△ 12問	5,415	12.7	12.9
11問	5,612	13.2	12.8
◇ 10問	5,098	12.0	11.6
9問	4,573	10.7	10.2
8問	3,730	8.8	8.7
▽ 7問	3,183	7.5	7.3
6問	2,567	6.0	6.0
5問	2,006	4.7	4.8
4問	1,607	3.8	3.6
3問	1,058	2.5	2.7
2問	691	1.6	1.8
1問	442	1.0	1.1
0問	298	0.7	1.0

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴（全国との差の大きい問題を抽出）
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題（◇）、低い問題（◆）】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3四 選択式	◇ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く	79.5	77.9	+1.6
3三ア 短答式	◇ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	66.4	65.2	+1.2
2二 記述式	◆ 人物像や物語の全体像を具体的に想像する	66.8	68.3	-1.5
2一（2） 選択式	◆ 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	69.5	70.6	-1.1



小学校国語では、特に、「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」ことに課題が見られました。

学習指導に当たっては、**着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりすることで物語の全体像を明確にするような学習場面を設定することが考えられます。**

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	85.3	85.5	0.7	0.9
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	69.4	68.8	0.7	1.0
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える	85.1	84.7	0.7	1.0
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	48.2	47.7	2.3	3.0
2一(1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える	67.5	68.4	0.8	1.0
2一(2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	69.5	70.6	1.2	1.6
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/> A に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する	66.8	68.3	11.4	12.2
2三	【山村さんの文章】の <input type="text"/> B に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える	58.4	59.2	2.8	3.2
3一	【文章2】の <input type="text"/> の部分を、どのように気に気付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える	59.3	59.2	2.3	2.5
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	38.2	37.7	13.4	14.5
3三ア	【文章2】の中の <input type="text"/> 部アを、漢字を使って書き直す(ろくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	66.4	65.2	6.7	8.1
3三イ	【文章2】の中の <input type="text"/> 部イを、漢字を使って書き直す(はんせい)		58.0	58.7	8.7	10.2
3三ウ	【文章2】の中の <input type="text"/> 部ウを、漢字を使って書き直す(したしむ)		68.1	67.1	12.2	14.7
3四	(一)から(二)に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く	79.5	77.9	5.2	5.9

2 小学校算数

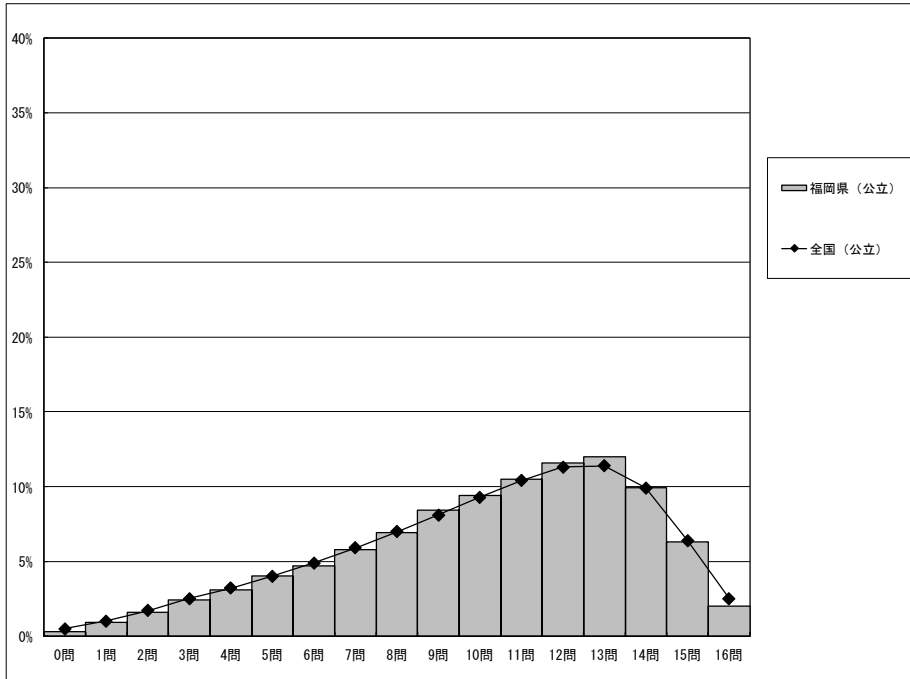
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [算数]
福岡県一児童(公立)

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	42,575	10.1 / 16	63	11.0	3.5
全国(公立)	965,431	10.1 / 16	63.2	11.0	3.6

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値		
	児童数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
16問	838	2.0	2.5
15問	2,665	6.3	6.4
14問	4,233	9.9	9.9
△ 13問	5,108	12.0	11.4
12問	4,922	11.6	11.3
◇ 11問	4,491	10.5	10.4
10問	4,012	9.4	9.3
9問	3,575	8.4	8.1
▽ 8問	2,941	6.9	7.0
7問	2,486	5.8	5.9
6問	2,018	4.7	4.9
5問	1,717	4.0	4.0
4問	1,335	3.1	3.2
3問	1,004	2.4	2.5
2問	699	1.6	1.7
1問	385	0.9	1.0
0問	146	0.3	0.5

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
1(3) 記述式	◇ 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	80.3	76.0	+4.3
3(3) 選択式	◇ 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	68.2	66.8	+1.4
2(2) 短答式	◆ 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	63.3	64.6	-1.3
2(3) 選択式	◆ 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	20.3	21.4	-1.1



小学校算数では、特に、「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること」に課題が見られました。

学習指導に当たっては、(基準量)×(割合)=(比較量)などの言葉の式だけでなく、自分にとって分かりやすい図や数直線に表して、数量の関係から式を立てるような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1(1)	1050×4を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	92.7	92.4	0.2	0.3
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	72.3	72.2	2.4	3.0
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	80.3	76.0	4.0	5.2
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	34.4	34.8	0.6	0.9
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる	70.5	71.1	3.3	3.9
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	63.3	64.6	2.9	3.3
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	20.3	21.4	0.8	1.1
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	48.5	48.0	4.9	5.5
3(1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	75.7	75.3	1.9	2.1
3(2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	63.5	63.9	1.3	1.6
3(3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	68.2	66.8	1.8	2.2
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	68.9	67.7	7.4	8.6
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	49.4	48.8	3.3	3.8
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	83.2	83.2	4.4	4.7
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	65.8	66.5	4.2	4.6
4(4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	56.7	57.6	4.7	5.1

3 小学校理科

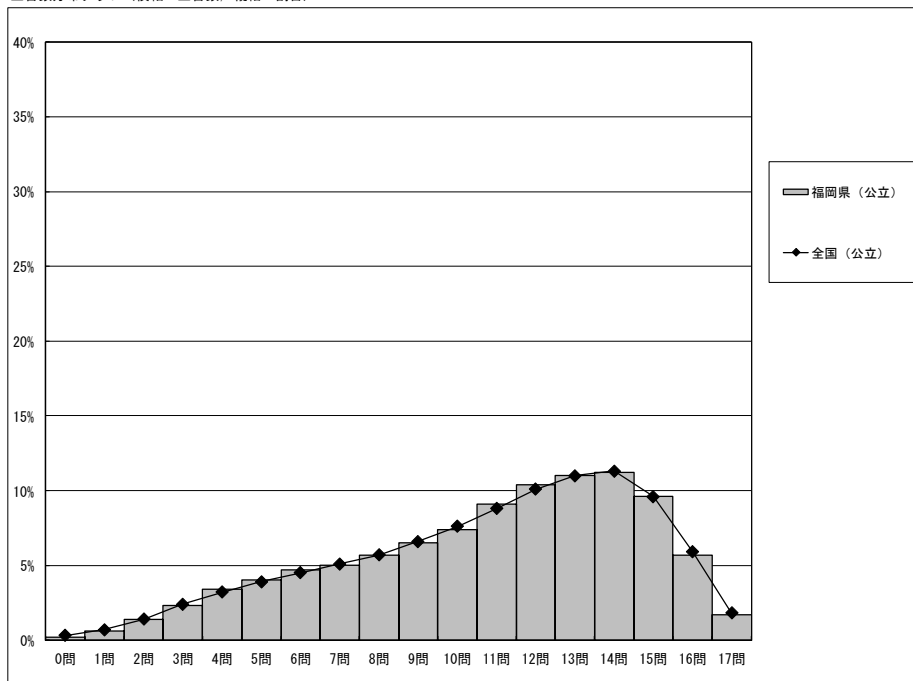
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [理科]
福岡県—児童（公立）

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	42,614	10.7 / 17	63	11.0	3.8
全国（公立）	965,761	10.8 / 17	63.3	11.0	3.8

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		割合 (%)
	児童数	割合 (%)	
	福岡県 (公立)	全国 (公立)	
17問	739	1.7	1.8
16問	2,448	5.7	5.9
15問	4,080	9.6	9.6
△ 14問	4,773	11.2	11.3
13問	4,698	11.0	11.0
12問	4,429	10.4	10.1
◇ 11問	3,862	9.1	8.8
10問	3,154	7.4	7.6
9問	2,759	6.5	6.6
▽ 8問	2,433	5.7	5.7
7問	2,141	5.0	5.1
6問	2,002	4.7	4.5
5問	1,699	4.0	3.9
4問	1,452	3.4	3.2
3問	983	2.3	2.4
2問	606	1.4	1.4
1問	256	0.6	0.7
0問	100	0.2	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	14.0問	14.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴（全国との差の大きい問題を抽出）
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題（◇）、低い問題（◆）】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2（4） 記述式	◇ 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	41.9	39.3	+2.6
4（4） 短答式	◇ 水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	63.8	62.0	+1.8
2（1） 短答式	◆ メスシリンダーという器具を理解している	64.2	67.8	-3.6
2（2） 選択式	◆ メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	67.5	70.0	-2.5



小学校理科では、特に、「メスシリンダーという器具の理解」に課題が見られました。学習指導に当たっては、使用する機会が少ない器具について操作を体験する場面を設けたり、目的に応じた器具を選択することの重要性について実感できるような学習場面を設定したりすることが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		無解答率 (%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1 (1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	93.0	92.9	0.1	0.2
1 (2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	68.2	67.5	3.9	5.0
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している	72.9	73.1	0.1	0.3
1 (4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	74.8	76.1	0.4	0.7
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見い出して選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	66.1	65.5	1.0	1.4
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している	64.2	67.8	8.8	9.8
2 (2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	67.5	70.0	0.5	0.6
2 (3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見いだし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	62.4	62.8	0.7	1.0
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	41.9	39.3	7.2	8.7
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している	29.4	27.8	0.4	0.6
3 (2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している	74.2	74.4	1.0	1.3
3 (3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	68.5	68.9	4.5	5.1
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	36.1	35.1	10.2	11.2
4 (1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	82.5	82.3	0.9	1.0
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	63.8	64.5	1.1	1.3
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	45.5	45.5	5.8	6.5
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	63.8	62.0	5.5	6.2

4 中学校国語

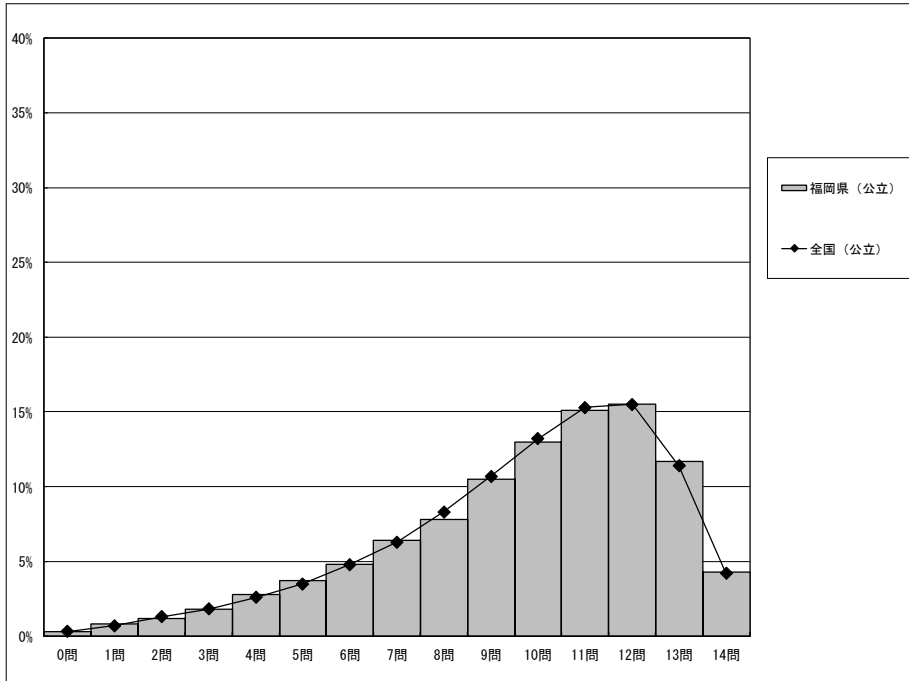
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況【国語】
福岡県一生徒（公立）

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	39,373	9.7 / 14	69	10.0	3.0
全国（公立）	891,820	9.7 / 14	69.0	10.0	2.9

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	生徒数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
14問	1,699	4.3	4.2
13問	4,611	11.7	11.4
△ 12問	6,113	15.5	15.5
11問	5,965	15.1	15.3
◇ 10問	5,135	13.0	13.2
9問	4,150	10.5	10.7
▽ 8問	3,087	7.8	8.3
7問	2,510	6.4	6.3
6問	1,906	4.8	4.8
5問	1,465	3.7	3.5
4問	1,087	2.8	2.6
3問	715	1.8	1.8
2問	486	1.2	1.3
1問	321	0.8	0.7
0問	123	0.3	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴（全国との差の大きい問題を抽出）
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題（◇）、低い問題（◆）】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
2二① 短答式	◇ 文脈に即して漢字を正しく書く	86.1	82.1	+4.0
2三 記述式	◇ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	49.7	46.5	+3.2
3一 短答式	◆ 表現の技法について理解する	48.4	52.5	-4.1
1二 選択式	◆ 論理の展開などに注意して聞く	63.4	65.1	-1.7



中学校国語では、特に、「表現の技法について理解する」ことに課題が見られました。学習指導に当たっては、**取り上げた表現を比較すること**が効果的です。その際、表現の技法の名称と用法の暗記にとどまらず、**技法の特徴と具体的な表現を結び付けて確認**するような学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する	75.1	74.7	3.6	3.8
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したのとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く	63.4	65.1	0.1	0.1
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	54.1	51.8	14.7	16.2
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	81.4	82.3	0.2	0.2
2二①	漢字を書く(のぞく)	文脈に即して漢字を正しく書く	86.1	82.1	6.1	8.8
2二②	漢字を書く(よろこんで)		82.2	80.5	2.7	3.3
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	49.7	46.5	8.8	9.0
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	48.4	52.5	0.5	0.7
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する	82.6	84.0	0.2	0.3
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える	61.1	62.0	1.0	1.0
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する	73.4	73.8	12.9	13.3
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する	39.2	39.4	0.9	0.9
4二	最初にした文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する	89.4	90.1	0.9	1.0
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する	79.5	81.1	1.0	1.1

5 中学校数学

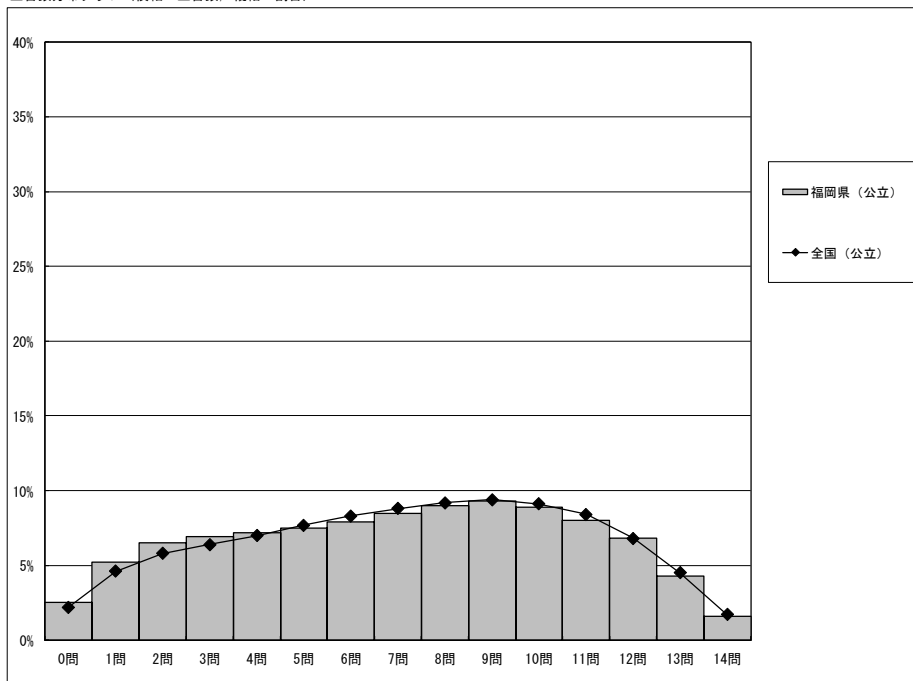
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学]
福岡県一生徒(公立)

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	39,372	7.0 / 14	50	7.0	3.7
全国(公立)	891,913	7.2 / 14	51.4	7.0	3.6

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値		
	生徒数	割合(%)	
	福岡県(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
14問	635	1.6	1.7
13問	1,696	4.3	4.5
12問	2,676	6.8	6.8
11問	3,137	8.0	8.4
△ 10問	3,489	8.9	9.1
9問	3,658	9.3	9.4
8問	3,530	9.0	9.2
◇ 7問	3,350	8.5	8.8
6問	3,108	7.9	8.3
5問	2,951	7.5	7.7
▽ 4問	2,854	7.2	7.0
3問	2,702	6.9	6.4
2問	2,563	6.5	5.8
1問	2,035	5.2	4.6
0問	988	2.5	2.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	10.0問	10.0問
◇ 第2四分位	7.0問	7.0問
▽ 第1四分位	4.0問	4.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴(全国との差の大きい問題を抽出)
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題(◇)、低い問題(◆)】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
6(2) 記述式	◇ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	50.6	48.7	+1.9
1 短答式	◇ 自然数を素数の積で表すことができる	54.0	52.2	+1.8
9(1) 短答式	◆ 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	69.3	73.2	-3.9
4 選択式	◆ 一次関数の変化の割合の意味を理解している	34.5	37.9	-3.4



中学校数学では、特に、「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件の理解」に課題が見られました。

学習指導に当たっては、証明を読み、結論を示すために仮定や図形の性質がどのように用いられているかを説明したり、根拠として用いられている三角形の合同条件を指摘したりする学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	54.0	52.2	10.7	11.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	72.2	74.5	6.4	6.1
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している	43.4	44.9	0.2	0.4
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	34.5	37.9	0.4	0.4
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	81.0	83.3	0.2	0.3
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	71.6	73.8	5.9	6.0
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	50.6	48.7	19.4	20.0
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	38.2	37.6	23.7	26.2
7(1)	コマ回し大会で使用されるコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	44.8	44.0	1.2	1.4
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	43.1	44.1	0.6	0.7
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	53.2	54.6	8.0	7.2
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	38.1	38.4	25.1	24.4
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	69.3	73.2	7.5	7.5
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	9.9	12.5	34.9	38.5

6 中学校理科

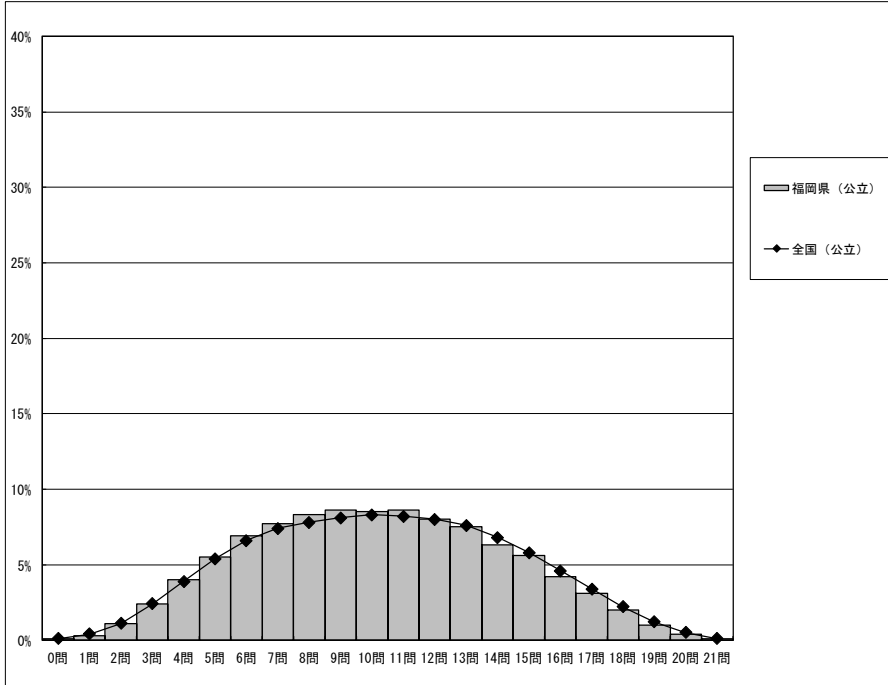
令和4年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [理科]
福岡県一生徒（公立）

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	39,379	10.2 / 21	49	10.0	4.0
全国（公立）	892,585	10.4 / 21	49.3	10.0	4.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値		
	生徒数	割合 (%)	
	福岡県 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
21問	26	0.1	0.1
20問	151	0.4	0.5
19問	394	1.0	1.2
18問	772	2.0	2.2
17問	1,202	3.1	3.4
16問	1,650	4.2	4.6
15問	2,221	5.6	5.8
14問	2,480	6.3	6.8
13問	2,938	7.5	7.6
12問	3,163	8.0	8.0
11問	3,382	8.6	8.2
10問	3,331	8.5	8.3
9問	3,369	8.6	8.1
8問	3,251	8.3	7.8
7問	3,050	7.7	7.4
6問	2,706	6.9	6.6
5問	2,161	5.5	5.4
4問	1,574	4.0	3.9
3問	955	2.4	2.4
2問	442	1.1	1.1
1問	131	0.3	0.4
0問	30	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問

※ 調査問題における福岡県の特徴（全国との差の大きい問題を抽出）
【全国と比較して福岡県の正答率が高い問題（◇）、低い問題（◆）】

番号・形式	出題の趣旨	福岡県	全国	差
3 (3) 短答式	◇ 化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもとして必要なものを分析して解釈できる	27.7	24.8	+2.9
5 (1) 選択式	◇ 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる	16.6	15.3	+1.3
5 (2) 選択式	◆ 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いている	40.5	45.0	-4.5
1 (1) 選択式	◆ 日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できる	39.8	44.2	-4.4



中学校理科では、特に、「課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能」に課題が見られました。

学習指導に当たっては、課題に立ち返りながら考察を行うために、**どのようなグラフを作成すればよいかを検討する**学習場面を設定することが考えられます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		無解答率 (%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1 (1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	39.8	44.2	0.0	0.1
1 (2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	79.2	78.5	0.1	0.1
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	54.9	54.2	0.1	0.2
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	40.6	40.8	0.2	0.3
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	26.9	28.5	0.2	0.3
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	80.0	80.1	0.1	0.1
3 (2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	58.6	60.2	0.2	0.3
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	27.7	24.8	3.6	4.3
4 (1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと動きを分析して解釈できるかどうかをみる	75.7	74.5	5.0	5.5
4 (2)	脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	65.4	65.6	0.2	0.2
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	16.6	15.3	0.2	0.2
5 (2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	40.5	45.0	0.3	0.4
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	44.5	43.3	26.3	29.4
6 (1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	45.6	48.0	0.2	0.3
6 (2)	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	59.6	60.3	0.5	0.6
6 (3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	32.0	34.2	0.6	0.7
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	35.6	35.9	0.3	0.4
7 (2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	51.6	53.4	0.9	1.0
8 (1)	アリの行列による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	54.8	55.2	9.6	11.6
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる	54.3	55.1	12.4	14.9
8 (3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	35.5	39.2	1.0	1.4

IV 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析

本報告書においては、教科の平均正答率に影響を与えやすい質問項目、非認知的能力の育成に関する質問項目等を取り上げている。

なお、結果（全国との比較、クロス集計、地区別の状況）は、「IX 資料」に掲載。

質問分類	番号	質問項目	頁
基本的生活習慣等	1	朝食を毎日食べていますか	66
	5	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ、携帯型、携帯電話やスマートフォンのゲームも含む）をしますか	67
	6	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか	67
挑戦心、達成感、自己有用感等	7	自分には、よいところがあると思いますか	68
	10	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	68
学習習慣、学習環境等	20	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	69
	21	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）	69
ICTを活用した学習状況	32	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	70
	33	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	70
	34	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	71
	35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	71
授業改善に関する取組状況	39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	72
	43	学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	72
教科の興味関心や理解度	55	算数／数学の授業の内容はよく分かりますか	73
	58	算数／数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	73



全国学力・学習状況調査の結果をもとに各学校の取組を見直す際、**学力に関する一定のイメージを校内で共有し共通理解を図る**ことは大切です。

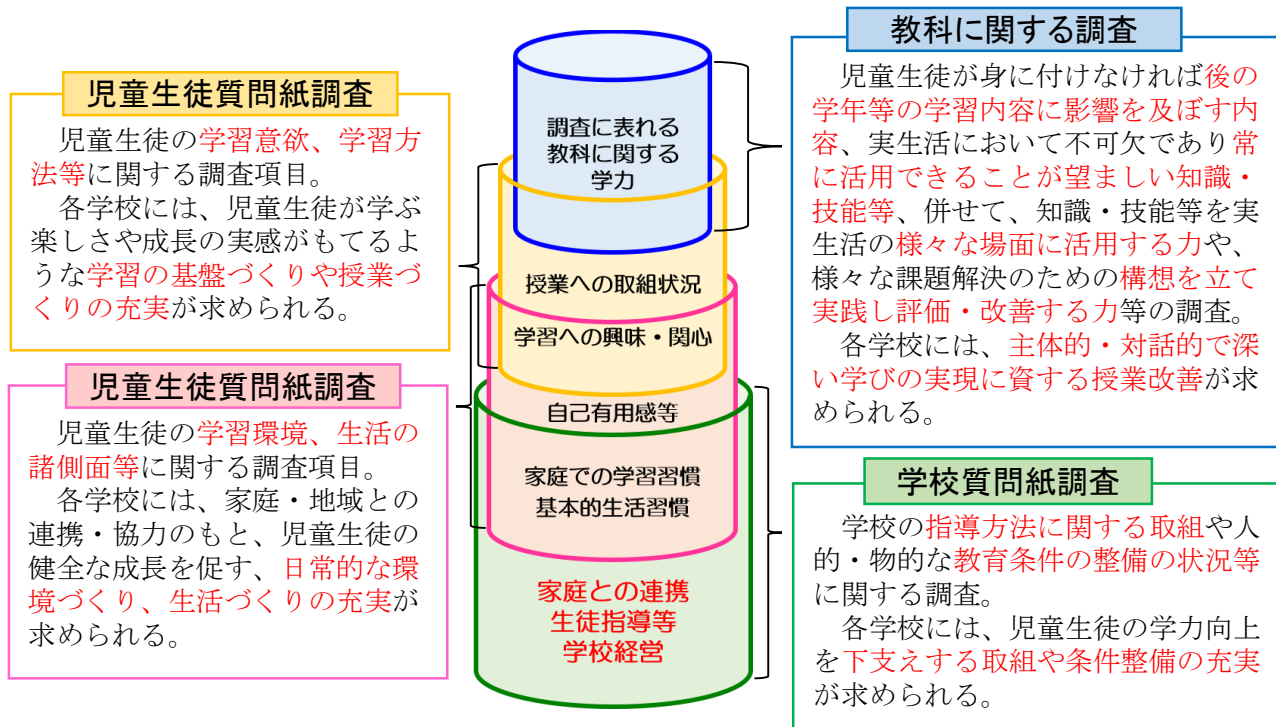
参考として「教科に関する調査」「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の趣旨や内容をもとに、右ページに「学力に関するイメージ図」として整理しています。

V 学校質問紙に関する調査結果と分析

本報告書においては、児童生徒の学力向上に影響を与えやすい質問項目、非認知的能力の育成に関する質問項目等を取り上げている。

なお、結果（全国との比較、クロス集計、地区別の状況）は、「IX 資料」に掲載。

質問分類	番号	質問項目	頁
学校運営	17	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	74
生徒指導等	7	授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	75
	10	前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	75
授業改善に関する取組状況	23	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	76
	24	授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	76
	25	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	77
	26	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	77
家庭・地域との連携	小77 中75	前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	78



全国学力・学習状況調査から見える「学力に関するイメージ図」

全国と比較した福岡県の状況

教科に関する調査(全国100)

【国語】	小学校: 100.0	中学校: 100.0
【算数・数学】	小学校: 100.0	中学校: 97.2
【理科】	小学校: 99.1	中学校: 98.1

児童生徒質問紙調査

【授業に関する取組状況】

39 課題の解決に向けて、自分で考え、取り組んでいましたか
「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

小学校: **全国より-2.5%** 中学校: **全国より-2.2%**

43 自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

小学校: **全国より-2.2%** 中学校: **全国より-1.1%**

【学習に対する興味・関心等】

58 あきらめずにいろいろな方法を考えますか
「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

小学校: **全国より-1.2%** 中学校: **全国より-1.3%**

児童生徒質問紙調査

【挑戦心、達成感、自己有用感等】

7 自分には、よいところがあると思いますか
「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

小学校: **全国より-1.4%** 中学校: **全国より-1.4%**

10 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか
「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

小学校: **全国より-0.7%** 中学校: **全国より+0.1%**

【学習習慣・学習環境等】

20 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

小学校: **全国より-2.4%** 中学校: **全国より-2.1%**

学校質問紙調査

【家庭学習】

小77・中75 家庭学習の方法を具体例を挙げて説明していますか
「よくしている」と回答した学校の割合

小学校: **全国より-2.8%** 中学校: **全国より+3.5%**

【生徒指導等】

10 児童生徒を褒める(認める)取組をしていますか
「よくしている」と回答した学校の割合

小学校: **全国より-3.0%** 中学校: **全国より-8.3%**

【学校経営】

17 PDCAサイクルを確立していますか
「よくしている」と回答した学校の割合

小学校: **全国より+2.8%** 中学校: **全国より+3.6%**



「学力に関するイメージ図」をもとに福岡県の傾向を見ると、**学校の取組が児童生徒の意識に十分には作用していないことが考えられます**。各学校においては、目の前の児童生徒の学力・学習状況の実態に応じた取組を推進していくことが大切です。



【書き込み活用ページ②】 質問紙調査結果の整理

令和4年度全国学力・学習状況調査結果をもとに取組等を見直す際、以下のような内容については、各学校で把握しておくことが重要です。（記入は色塗りの空欄部分）

◆ 児童生徒質問紙調査結果（本報告書：29、66～73ページ参照）

①当てはまる ②どちらかといえば ③あまり ④当てはまらない

7_自分には、よいところがあると思いますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	38.0%	39.9%	14.5%	7.5%
全国	39.4%	39.9%	13.5%	7.2%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	34.6%	43.4%	15.6%	6.3%
全国	36.0%	42.5%	14.9%	6.6%

10_自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	38.1%	48.5%	11.8%	1.5%
全国	38.8%	48.4%	11.2%	1.6%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	36.9%	50.1%	11.6%	1.4%
全国	36.8%	49.8%	11.8%	1.6%

20_家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	25.1%	43.7%	23.2%	8.0%
全国	27.5%	43.6%	21.4%	7.4%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	13.3%	42.0%	31.8%	12.8%
全国	15.4%	43.1%	29.6%	11.8%

39_授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	28.0%	46.7%	20.9%	4.4%
全国	30.5%	46.8%	18.7%	3.9%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	29.0%	48.1%	19.0%	3.9%
全国	31.2%	48.0%	17.2%	3.5%

43_学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	35.5%	42.6%	16.3%	4.4%
全国	37.7%	42.4%	14.8%	4.0%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	33.0%	44.7%	15.6%	4.9%
全国	34.1%	44.6%	15.1%	4.6%

58_算数／数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

小学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	43.7%	36.3%	15.3%	4.5%
全国	44.9%	35.5%	14.8%	4.7%

中学校	①	②	③	④
本校	%	%	%	%
福岡県	33.9%	40.6%	19.4%	6.0%
全国	35.2%	40.0%	18.6%	6.0%

VI 成果を上げている事例の紹介<小学校>

■ 小5から小6にかけて標準化得点が大きく上昇した学校の取組

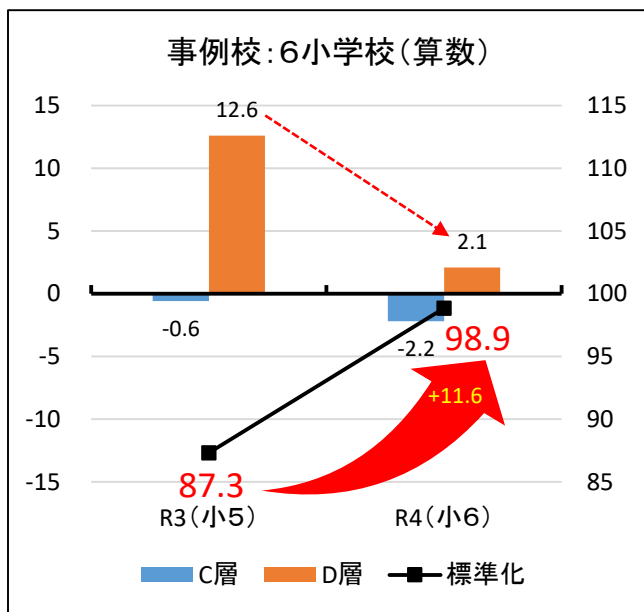
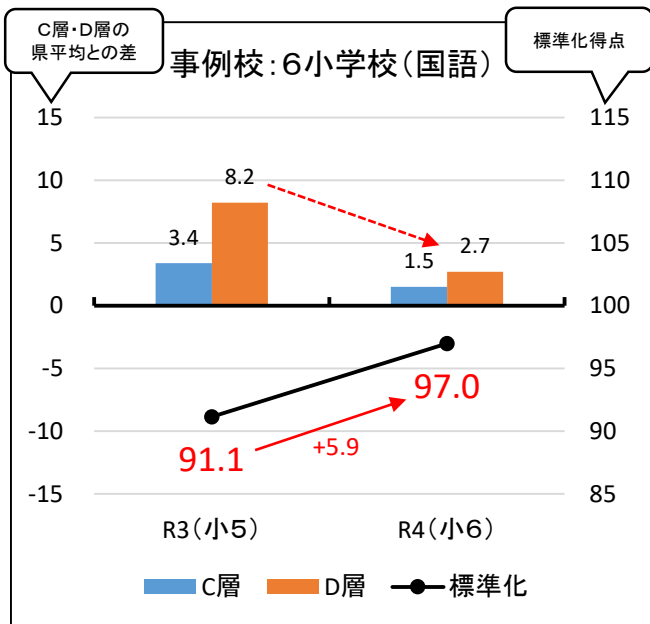
取材を通じて、取組の成果を上げるためのポイントを3点に整理することができました。

- ① 児童の**学習意欲**や**学習習慣**、**自己有用感**等に作用する取組を行っている。
- ② 教師が**自信をもって**、**日常的に取り組める**ことに重点化している。
- ③ 取組に対する**教師の理解と納得**を大切にしている。

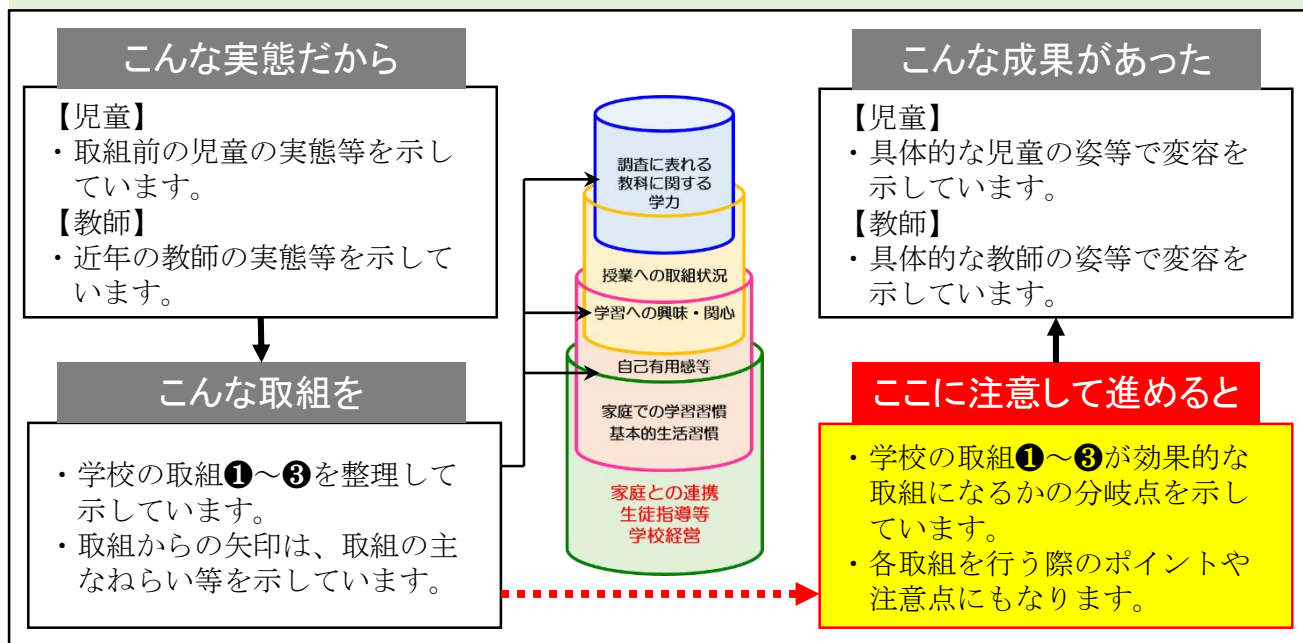


◆ 「小学校事例校の同一集団の変容」の見方 ◆

同一集団



◆ 「小学校事例校の取組」の見方 ◆



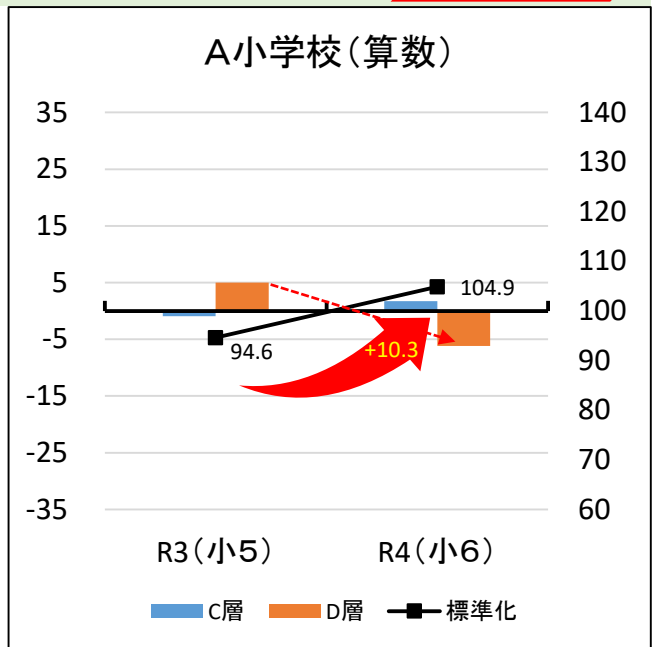
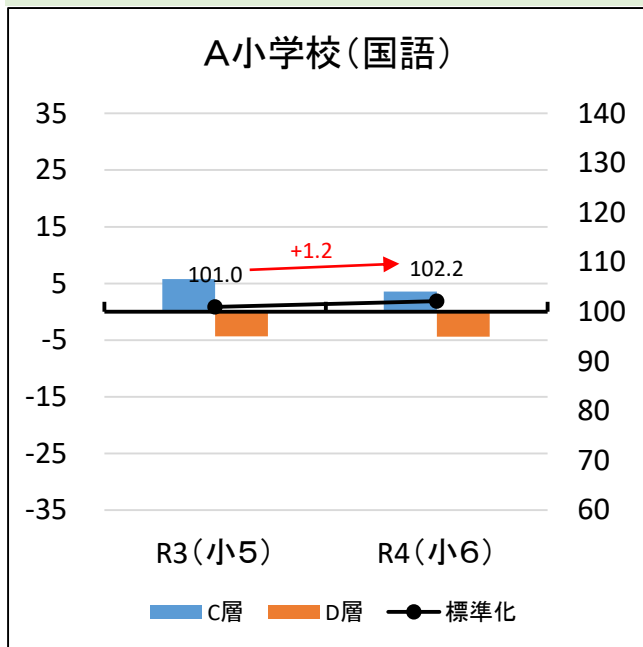
◆ 「小学校事例校で大切にされた考え方」の見方 ◆

各学校が学力向上の取組を推進する際に、大切にされた考え方を示しています。各学校の校長、学力向上担当者、学級担任等のコメントを可能な限りそのまま示しています。

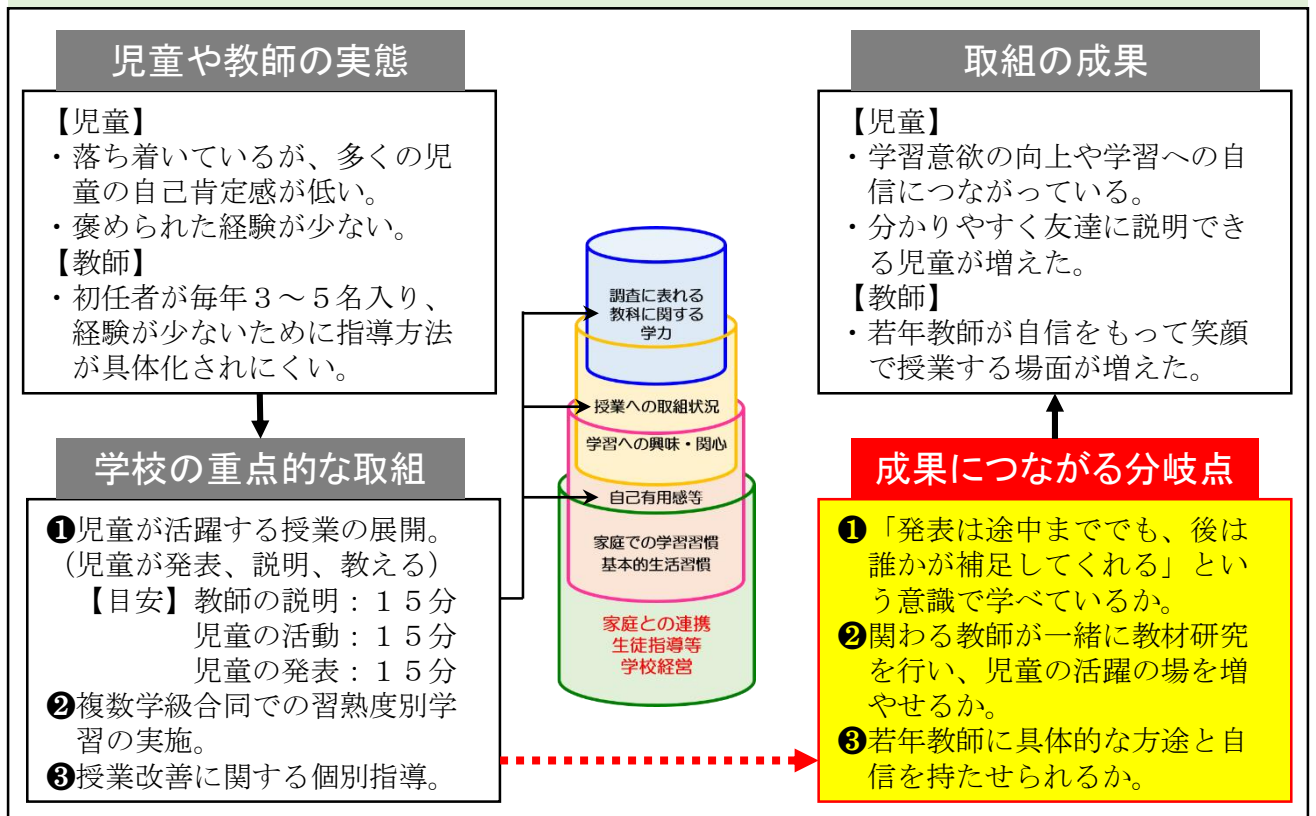
A小学校(小学校6年生 5学級 約140名)

◆ 同一集団でこのような変容が見られました ◆

同一集団



◆ 学校ではこのような取組をしました ◆

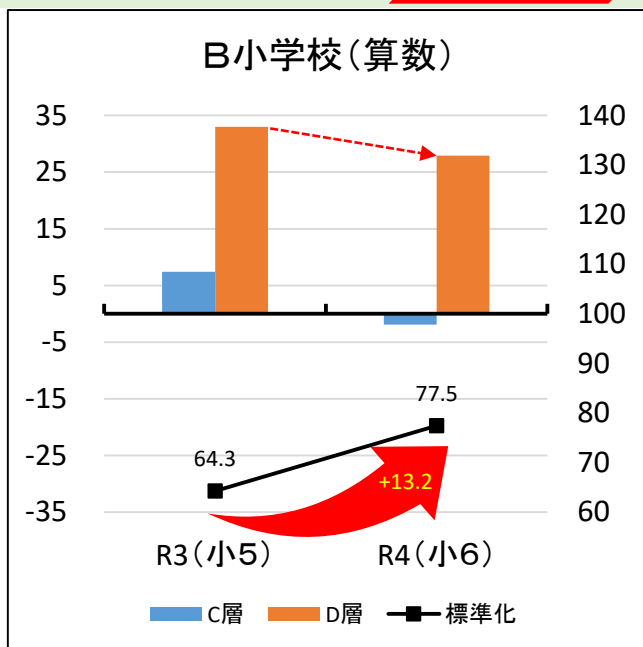
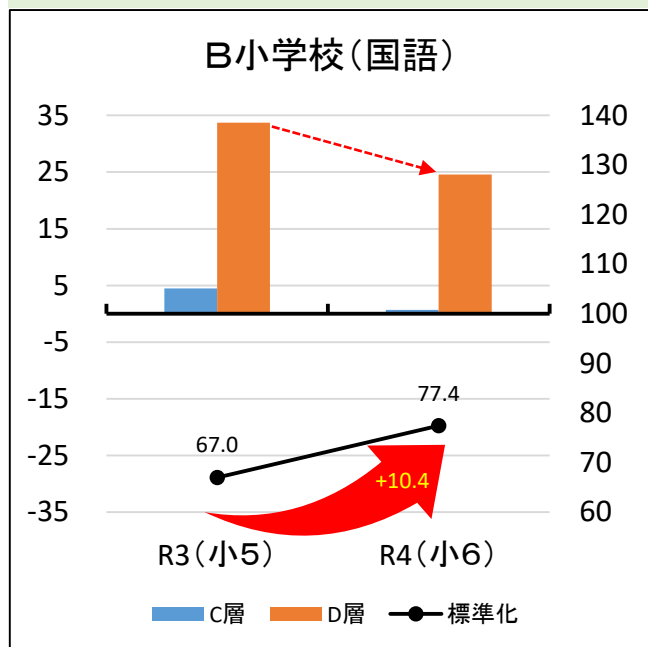


◆ 学力向上の取組で大切にしたい考え方 ◆

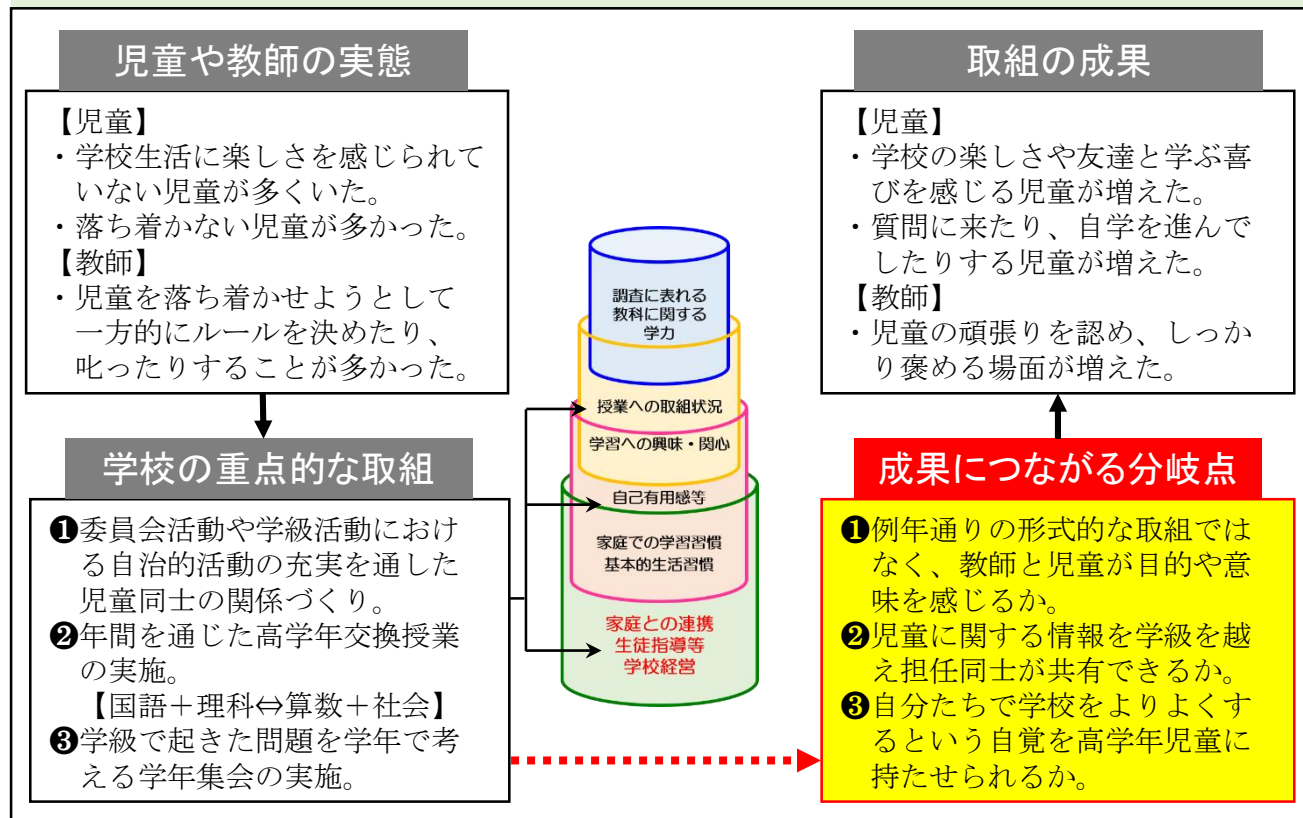
児童が活躍する授業が全ての問題を解決する。児童が活躍している学級は、荒れることがない。「教師の話はずっと座ったまま静かに聞く」ことほど苦痛なものはないと認識することが大切。そのためには、教師の説明:児童の活動:児童の発表=1:1:1という時間を意識する。

B小学校(小学校6年生 2学級 約50名)

◆ 同一集団でこのような変容が見られました ◆ **同一集団**



◆ 学校ではこのような取組をしました ◆

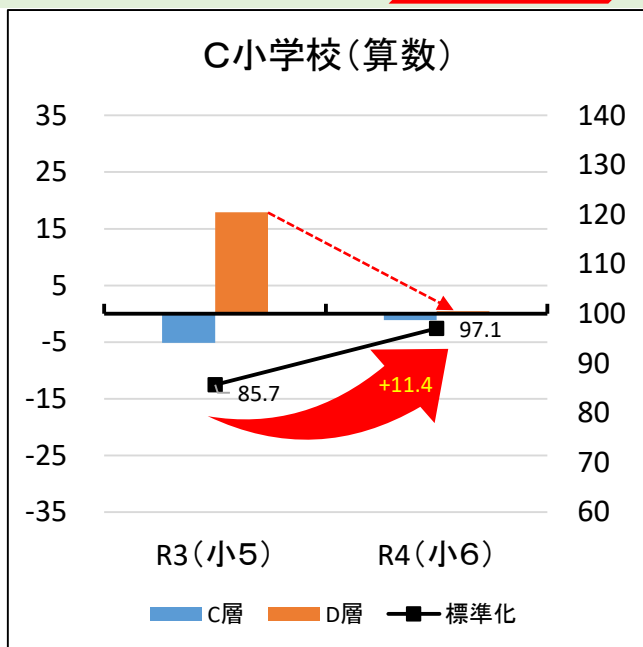
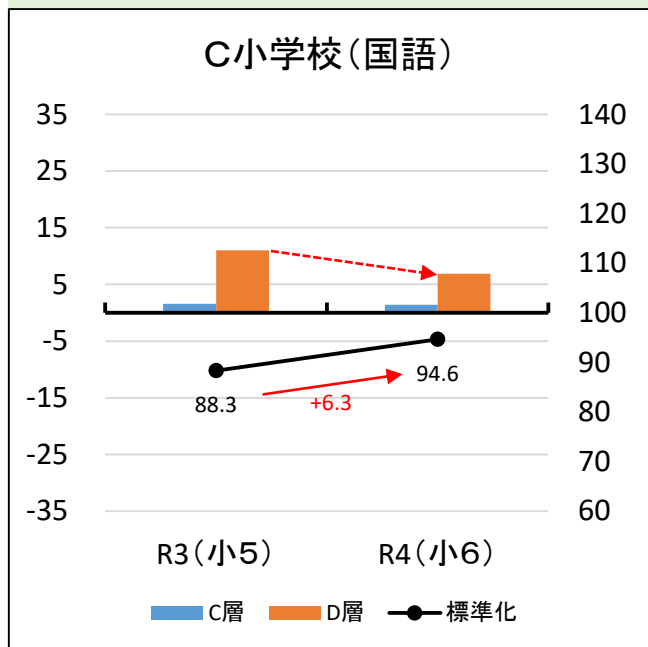


◆ 学力向上の取組で大切にしたい考え方 ◆

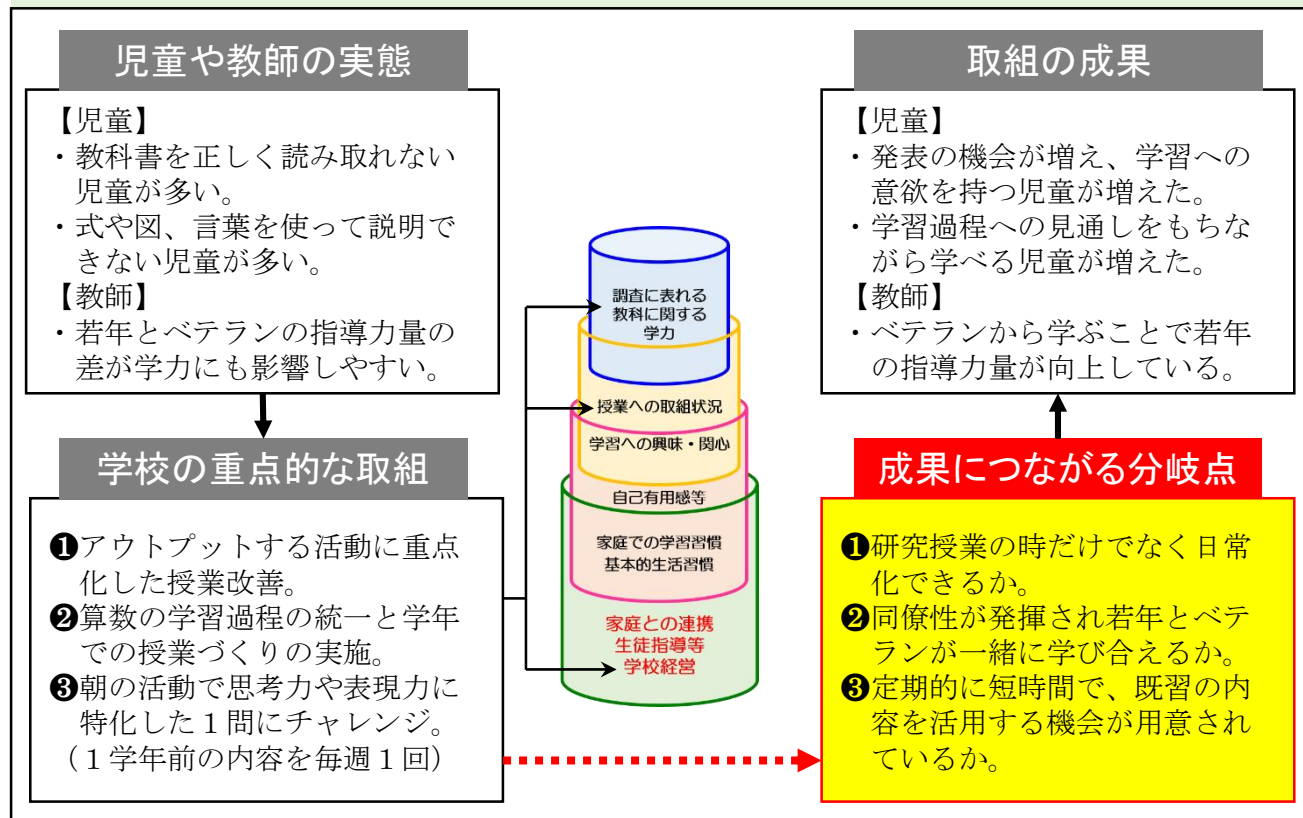
児童が落ち着かなければ学力は向上しない。児童が「学校が楽しい」「友達と一緒に学ぶことが楽しい」と感じ、学校生活が充実すれば学力も自ずと向上する。そのためには、教師の支援を借りながらも高学年児童が自分たちで学校づくりをしていく活動を大切にする。

C小学校(小学校6年生 3学級 約90名)

◆ 同一集団でこのような変容が見られました ◆ **同一集団**



◆ 学校ではこのような取組をしました ◆



成果につながる分岐点

- ① 研究授業の時だけでなく日常化できるか。
- ② 同僚性が発揮され若年とベテランと一緒に学び合えるか。
- ③ 定期的に短時間で、既習の内容を活用する機会が用意されているか。

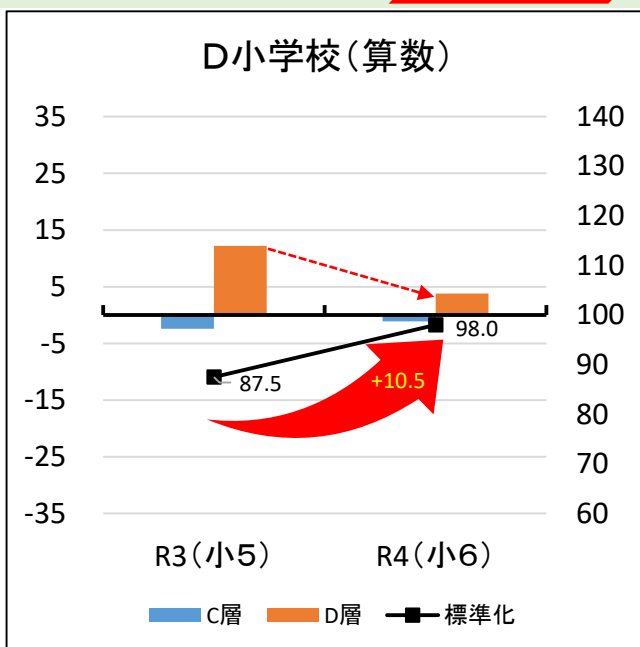
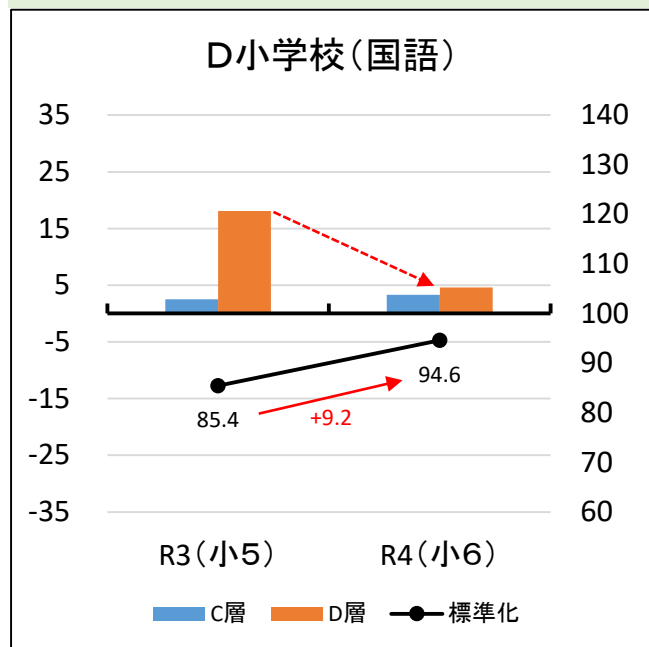
◆ 学力向上の取組で大切にしたい考え方 ◆

授業改善は、全教師が日常化できなければ効果を発揮しない。主題研究の役割は、全教師が日々の授業でのような活動を大切に理解し、納得する機会とすることである。そのために、授業改善の内容を重点化し、全体で共通理解したことは研修通信で確実に共有する。

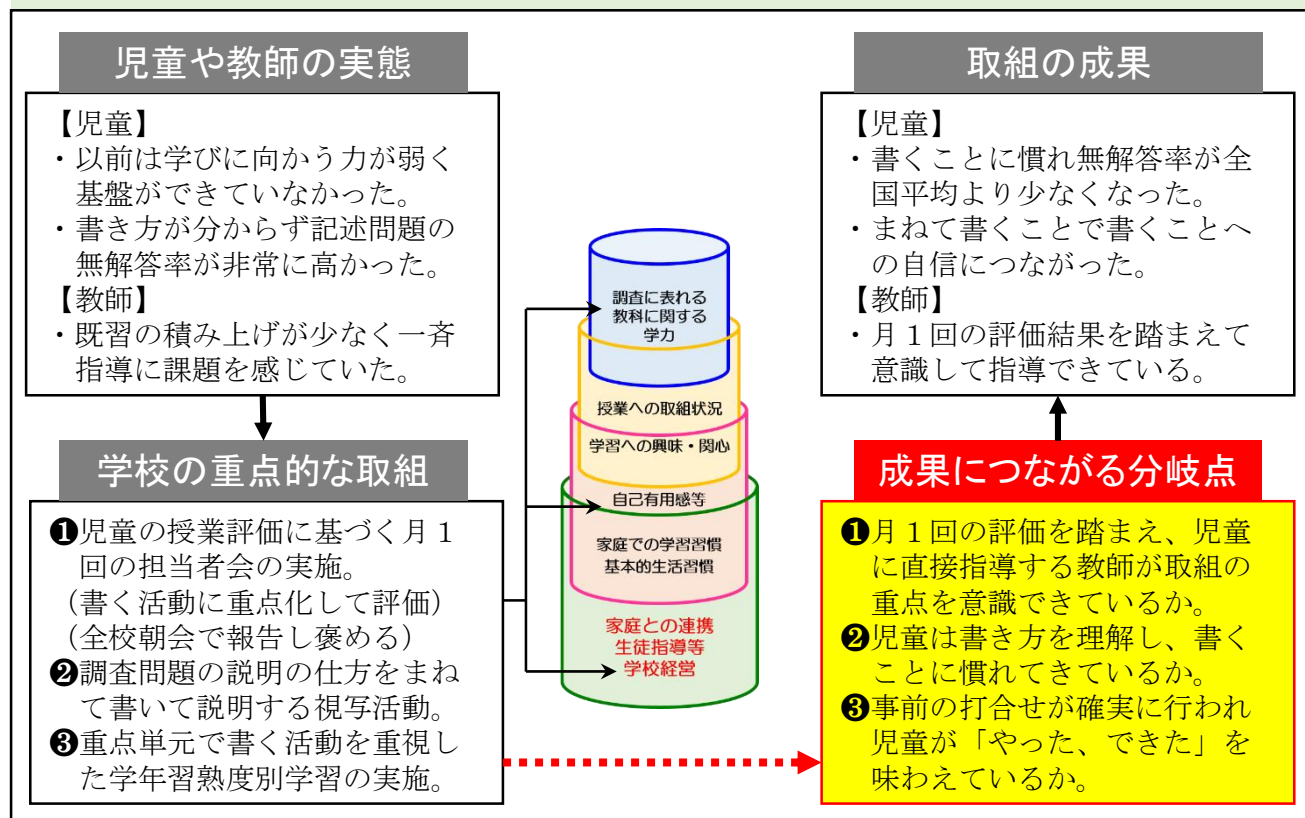
D小学校(小学校6年生 3学級 約80名)

◆ 同一集団でこのような変容が見られました ◆

同一集団



◆ 学校ではこのような取組をしました ◆



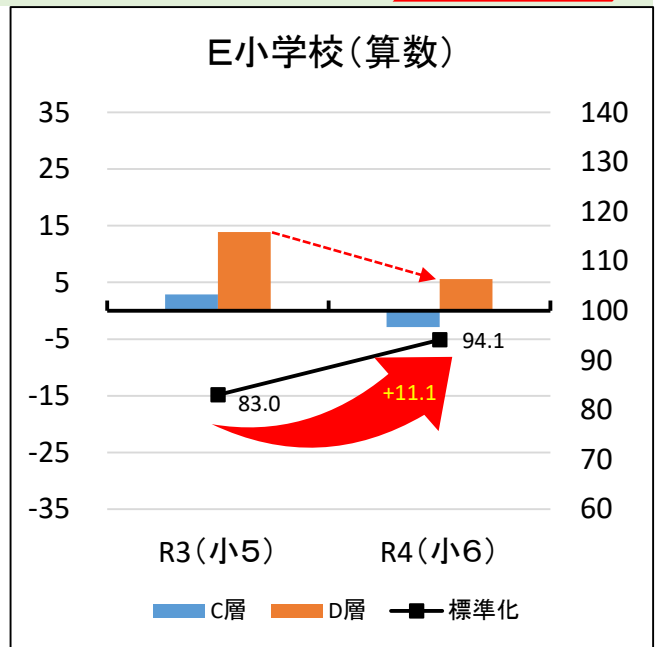
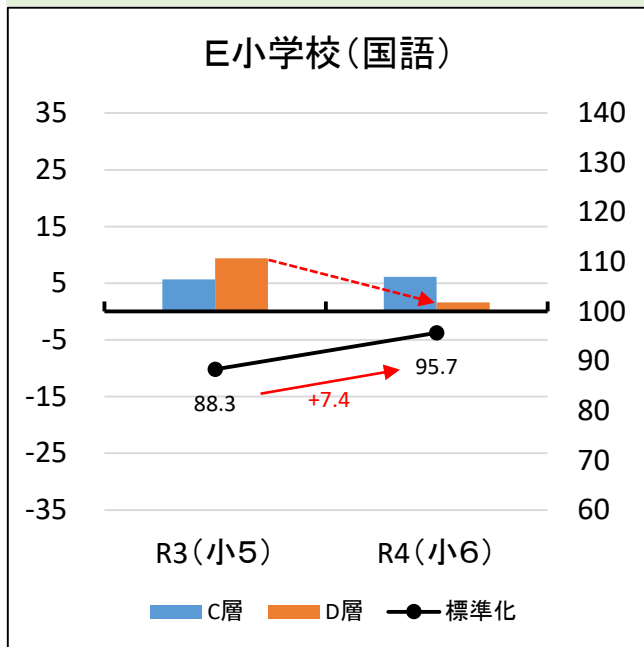
◆ 学力向上の取組で大切にしたい考え方 ◆

学力向上の取組は、児童に直接指導する教師が「意識して指導できるか」にかかっている。そのため、取組をシンプルにして教師や児童に意識させるために「PDCAサイクルを1か月間で回し、成果状況を全員で確認しながら取組を少しずつレベルアップしていくことを重視している。

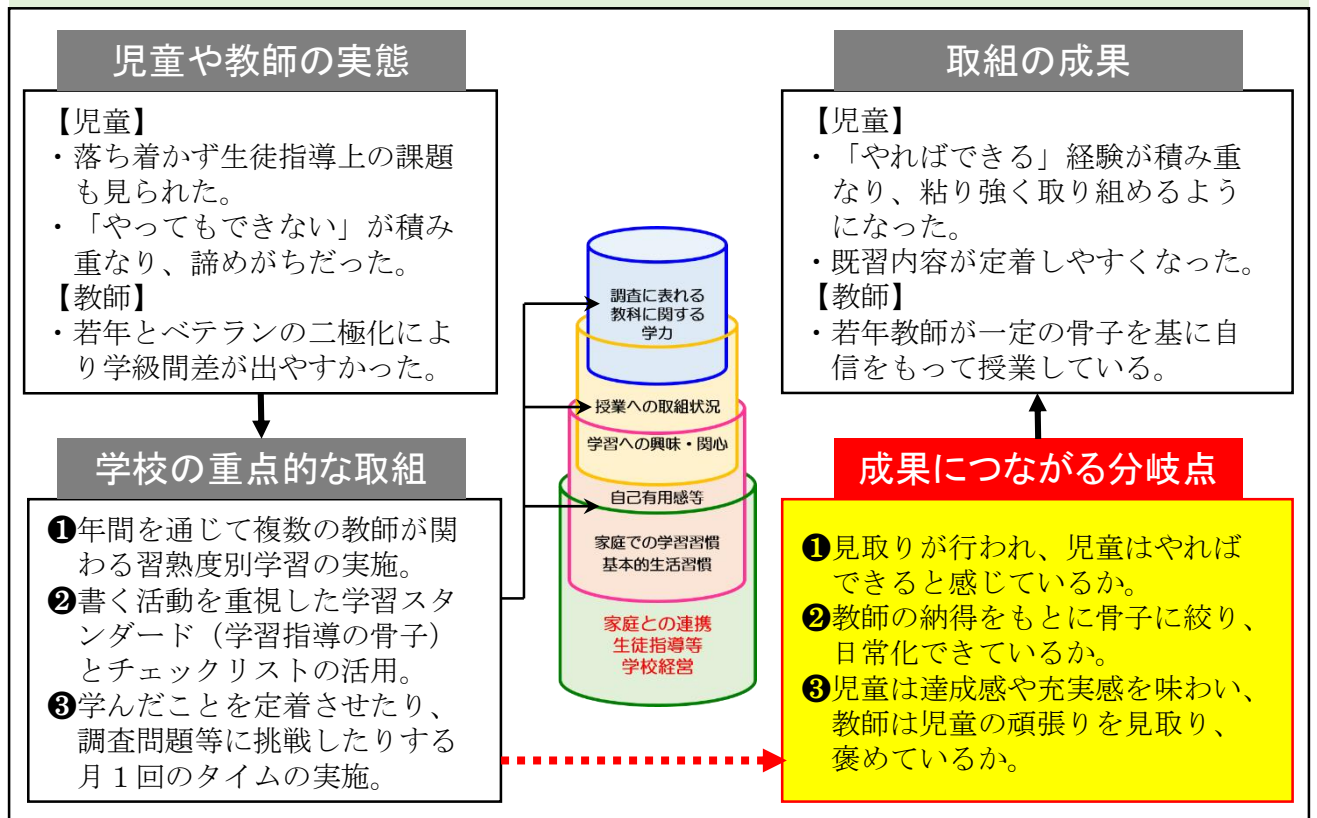
E小学校(小学校6年生 3学級 約80名)

◆ 同一集団でこのような変容が見られました ◆

同一集団



◆ 学校ではこのような取組をしました ◆



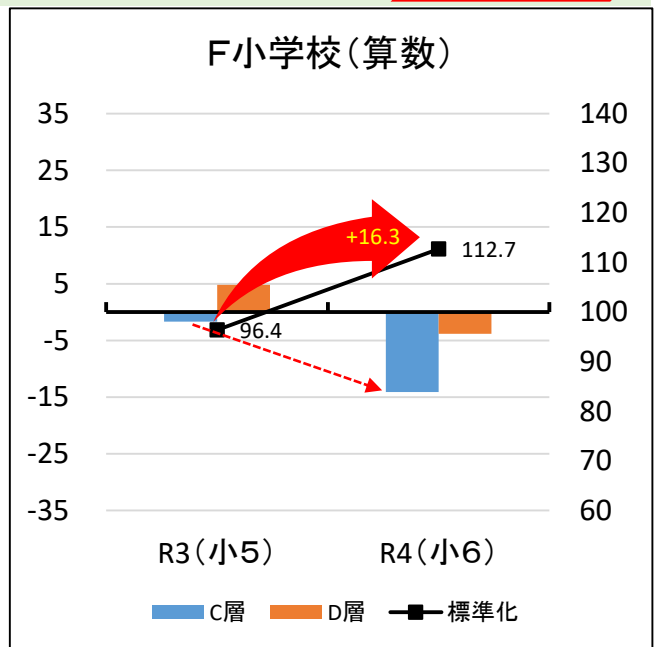
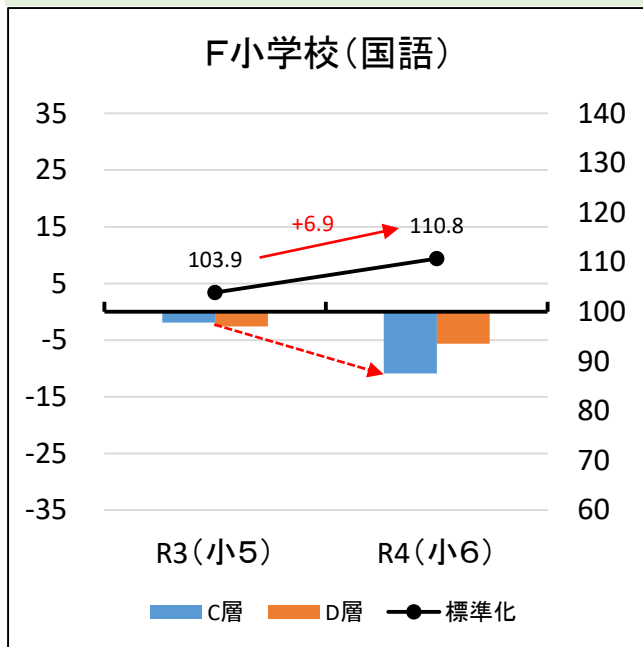
◆ 学力向上の取組で大切にしたい考え方 ◆

脳に汗をかかせて(鍛えて)、たくさん〇を付け(褒めて)、やればできた(伸びた)経験を積ませることが大切。そのためには、取組の「ベクトルがそろおう」ことが最も重要であり、「端的に示せる具体的な取組」でなければ日常化はしない。だから、取組を見直し、ねらいを明確にする。

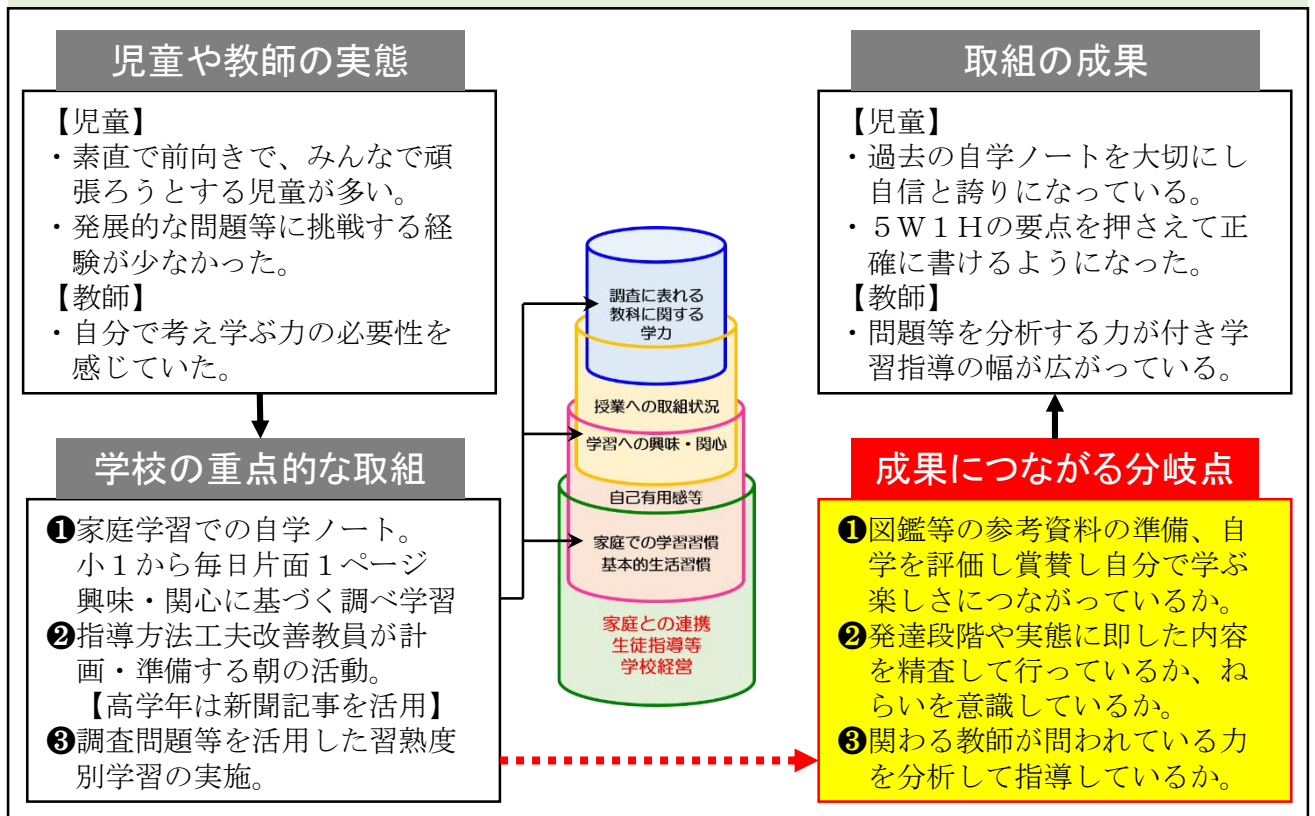
F小学校(小学校6年生 2学級 約60名)

◆ 同一集団でこのような変容が見られました ◆

同一集団



◆ 学校ではこのような取組をしました ◆



◆ 学力向上の取組で大切にしたい考え方 ◆

小学校卒業時にどんな児童を育てて中学校へ送り出すかがとても重要である。これから先、周囲の環境が変わっても、自分で問題を発見し、調べて、まとめるという学び方を身に付け、全ての児童に「自律的に学ぶ力」を育成していくことが、未来を豊かに生きる確かな力になる。

Ⅶ 成果を上げている事例の紹介<中学校>

■ 学力向上推進拠点校の取組

拠点校6校の取組から学ぶ「授業づくり」のポイント

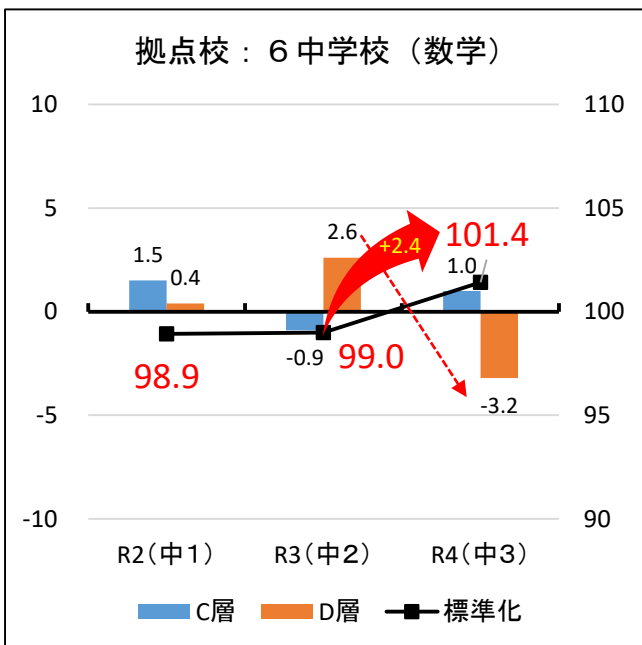
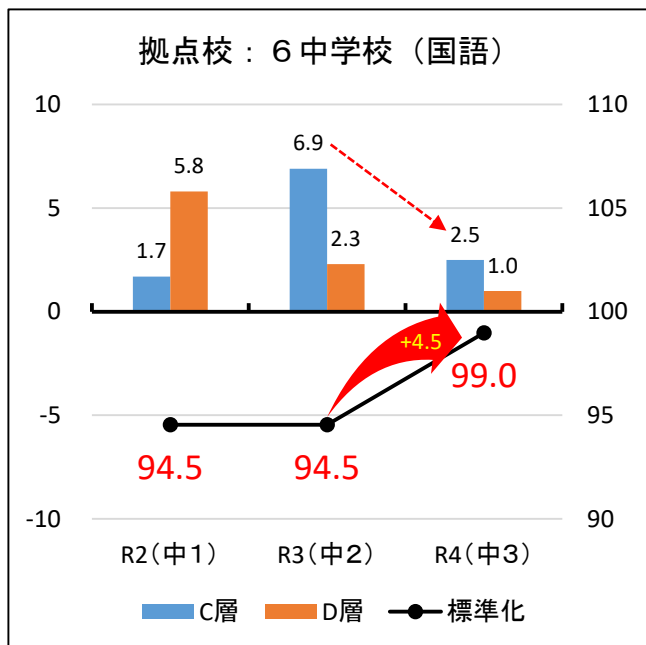
- ① 教師が説明することを精選し、「生徒が自分で考え、表現する活動」を充実させる。
- ② 授業チェックリストから重点項目を設定し、共通理解に基づく共通実践を日常的に行う。
- ③ 1単位時間の授業だけでなく、単元全体を見通した授業づくりについて検討し合う。



拠点校6校の取組から学ぶ「組織づくり」のポイント

- ① 個々の教師の指導力が分散しないよう、組織づくりで取組の方向性をそろえる。
- ② 各部会のリーダーが定期的に取り組の進捗状況を確認し、年間を見通した運営をする。
- ③ 授業を評価し合ったり、悩みを相談し合ったりできる機会を設け、教師の同僚性を高める。

組織的・日常的な授業改善による学力向上の実現 同一集団



志免町立志免東中学校(全校18学級 約500名)

「つなぐ」をキーワードにした授業改善

1 学ぶ意欲を喚起する導入「これまでの自分とつなぐ」

導入のポイントは、学習内容に係る関心や学習の見通しを生徒が持てるようにすること。そのために、教師は実物提示や実演、生徒との対話を大切にする。



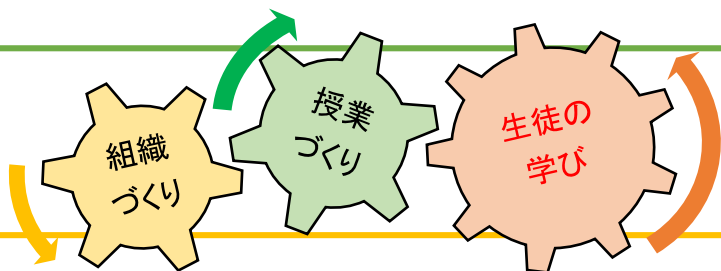
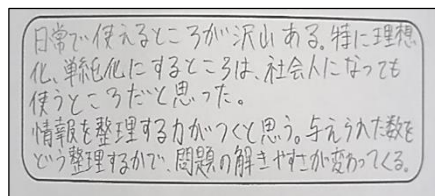
2 学ぶ意欲を継続させる展開「他の人とつなぐ」

展開のポイントは、多様な見方・考え方に触れながら生徒自身が主体的に問題解決を行うこと。そのために、教師は生徒が考えをつないでまとめるようなペアやグループでの対話活動へのサポートを大切にする。



3 学ぶ価値を実感させる終末「これからの自分とつなぐ」

終末のポイントは、学習内容が自分の生活の様々な場面とつながっていることを生徒が実感できるようにすること。そのために、教師は学びを振り返る視点の提示や生徒の学びへの価値付けを大切にする。

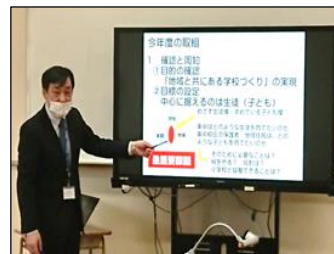


学ぶ価値を実感する生徒

3つのマネジメントの位置付けと役割の整理

1 トップ・マネジメント(校長)

トップ・マネジメントでは、重点目標と教育課程がどのようにつながっているかを示すグランドデザインを説明し、職員や保護者、地域の理解と納得を大切にする。また、小・中9年間の学びを意識し、校区内校長連絡会を定期的に開催し、「ひと・もの・こと」といった教育資源の効果的な活用が促進されるよう共通理解を図る。



2 ミドル・マネジメント(主幹教諭・研究主任・学力向上Co)

ミドル・マネジメントでは、担当者の役割を明確にしながらか推進する。主幹教諭は、教科間における学習内容のつながりが見える指導計画を作成し、異教科の教師が関わる機会をつくる。研究主任と学力向上Coは、週時程に位置付けている教科部会が充実するよう連携しながら教科主任に働きかける。



3 セルフ・マネジメント(個々の教師)

セルフ・マネジメントでは、個々の教師が授業に関する目標や研修計画を設定し、自己評価や他者評価に基づく改善を図る。

目標: 実験・観察の時間を取り、自分で規則性を見付けられる授業

改善: 自分で規則性を見つけた実感もてるよう、与える情報を精査する

芦屋町立芦屋中学校(全校12学級 約320名)

ICTを活用した芦中授業プロセスによる授業改善

1 芦中授業プロセスに基づいた学習活動の充実

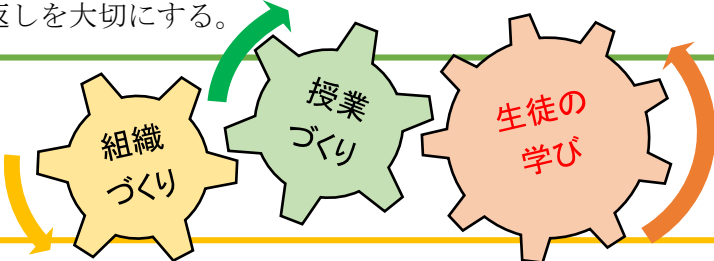
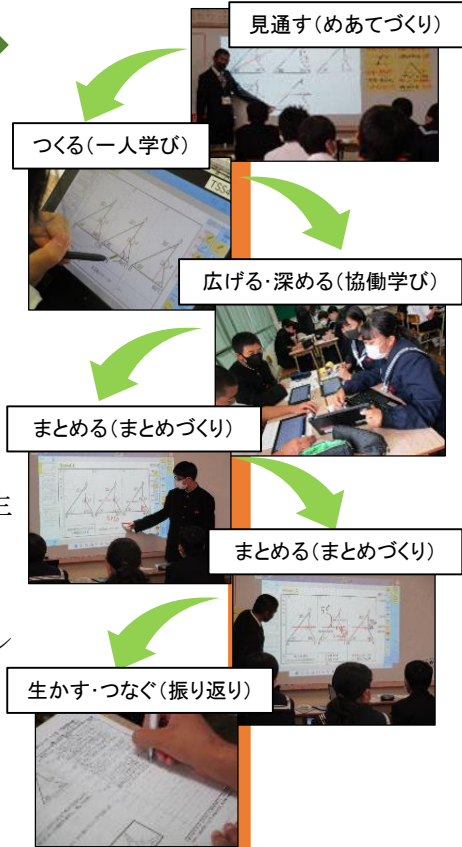
芦中授業プロセスは「見通す(めあてづくり) → つくる(一人学び) → 広げる・深める(協働学び) → まとめる(まとめづくり) → 生かす・つなぐ(振り返り)」の学習過程を基本としている。

ポイントは、学習活動における生徒の意識や思考のつながりを大切にしながら、問題解決のプロセスを充実させること。そのために、教師は生徒による「めあて」「まとめ」づくりと「振り返り」の学習場面を特に大切にする。

2 「つくる→広げる・深める」におけるICTの効果的な活用

「つくる(一人学び)」段階におけるICT活用のポイントは、生徒が考えながら表現し、表現しながら考える「思考と表現の往還」が旺盛に行われること。そのために、教師はICTを活用した教材化の工夫や生徒の学習状況の把握を大切にする。

「広げる・深める(協働学び)」段階におけるICT活用のポイントは、生徒が自他の考えの共通点や差異点に気付いたり、根拠と関連付けて考えの妥当性を高めながらまとめたりすること。そのために、教師は、生徒の考えの広がりや深まりを想定し、「違いは?」「なぜ?」「まとめると?」といった問い返しを大切にする。



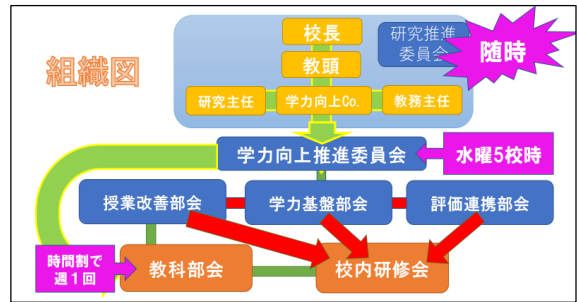
主体的に学び、
思考力、判断力、表現力を
身に付けた生徒

組織内の各委員会や各部会の連動

1 研究推進委員会のスリム化

学力向上に関する委員会や部会が、何を協議し、何を決め、何を具体化するのかを明確にし、各委員会や各部会が連動するようにする。また、週時程に位置付け、確実な推進が図られるようにする。

特に、研究推進委員会メンバーを10名から5名にスリム化することで、随時、会を開催しながら推進状況の共有や改善を図ることができる。



2 ロードマップに基づく各部会の推進

学力向上の具体的な取組を行う3つの研究部会(授業改善部会・学力基盤部会・評価連携部会)のロードマップを作成し、各部のメンバーが年間の見通しをもてるようにする。

特に、各部の推進状況や生徒の変容等を検証する「時期」や「方法」を年度当初に定め、教師間で共有しておくことで、各部が目標や方針を意識した取組につなげることができる。



大刀洗町立大刀洗中学校(全校20学級 約410名)

「たっちゅうスタンダード」を基盤とした深い学びを実現する授業改善

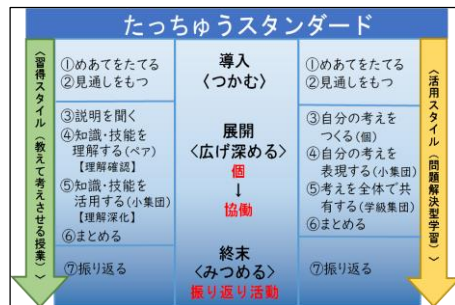
1 単元における「習得スタイル」と「活用スタイル」

「習得スタイル」のねらいは、新たな学習内容を確実に身につけさせること。そのためのポイントは・・・

①事前にはC層・D層のつまづきを予想
→授業の前半に教師の端的な説明(C層・D層が理解できるように)

②後半には様々なアウトプット活動を仕組み、理解度を確認
「活用スタイル」のねらいは、身に付けた知識・技能を、さらに深く理解させること。そのためのポイントは・・・

①既習の知識・技能をつかって解決を図る学習課題の提示
②友達と協働して解決するための場や時間の設定(端末活用)



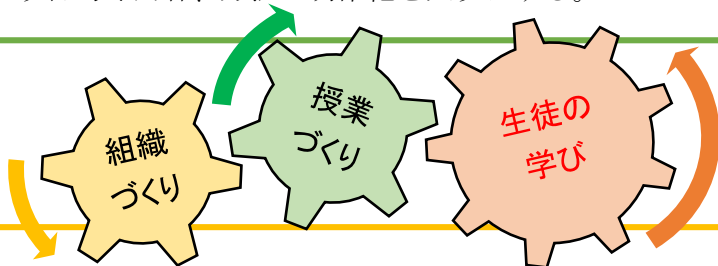
2 考えを持つ思考活動、個の考えを広げ深める協働学習

考えを持つ思考活動のポイントは、教師が具体的な発問や指示、資料や図の提示、個別の支援を大切にすること。その上で、生徒がじっくり考える時間を保障する。

個の考えを広げ深める協働学習のポイントは、生徒が考えを比較したり、関連付けたりしながら、より妥当な考えや結論を生徒自身で導くこと。そのために、教師は話し合う目的や内容、方法の明確化を大切にする。



基礎・基本を身に付け、
自分の思いや考えを
伝えることができる生徒

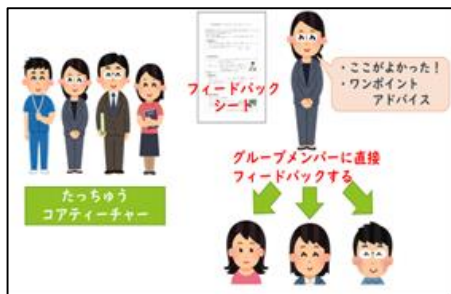


相互授業参観週間の設定と「たっちゅうカフェ」の開催

1 相互授業参観週間【他者の意見を授業改善の糧に】

相互授業参観週間のねらいは、教師の指導技術や授業改善への意欲の向上を図ること。意見や感想をメモ等で気軽に交流する仕組みである。さらに、中核となる教師(たっちゅうコアティーチャー)が個別にフィードバックを行う。

相互授業参観前に全体研修を位置付け、授業チェックリストを活用することで、学期ごとの授業改善の重点を共通理解することができる。



2 「たっちゅうカフェ」【ボトムアップによる雰囲気づくり】

「たっちゅうカフェ」のねらいは、全ての教師が協働して学力向上に向かう雰囲気の醸成である。テーマを設定し、小グループ内トークという形態で行う。

全ての教師に発言の機会ができ、互いの考えを知る機会となる。若手教師の悩みに対するベテラン教師からのアドバイスはもちろんのこと、若手教師が新たなアイデアを発想したり、授業づくりについて出された疑問についてみんなで考えたりすることができる。



大川市立大川桐薫中学校(全校13学級 約350名)

授業づくり一覧表の作成・活用による授業改善

授業づくり一覧表には、授業者が事前に「主眼→まとめ→めあて→導入の工夫→書く活動→振り返り」を記載しておく。校内研修等の機会に活用し、日常的な授業改善を図る。

1 問いからめあてをつくる活動(導入)

問いからめあてをつくるポイントは、生徒に「なぜ〜?」といった具体的な問いを持たせること。そのために、教師は前時と本時を比較できる資料や実物の提示等を大切にする。



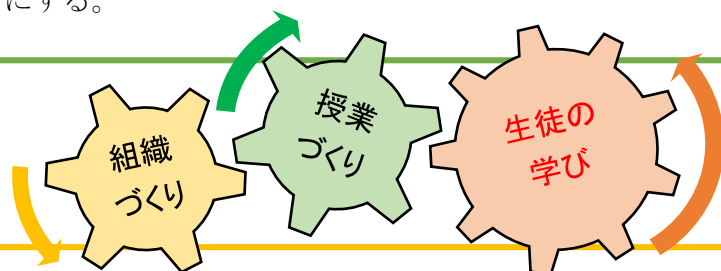
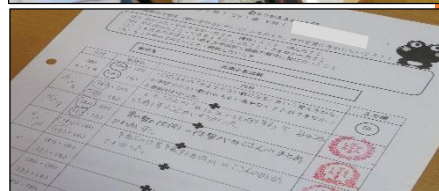
2 書く活動と交流活動の関連(展開)

書く活動と交流活動の関連のポイントは、生徒が書いたことを根拠に交流のゴールを意識できること。そのために、教師は目的(出し合い、比べ合い、高め合い)を意図した発問や指示を大切にする。例: 班で結論を1つに決めましょう。



3 振り返り活動(終末)

振り返り活動のポイントは、生徒が観点をもとに自分の学びに自覚的になること。そのために、教師は生徒の成長や授業前後の考えの比較を具体的に示しながら褒めることを大切にする。



説明を聴き、自分の考えを伝えることができる生徒

同教科での協議と異教科での模擬授業の実施

1 同教科での協議【専門性の発揮による授業づくり】

同教科での協議のポイントは、学習指導要領解説や教科書等を参考に、学習内容を解釈しながら、単元で育てる資質・能力、教材、単元計画、本時の主眼等を明確にすること。

同教科での協議は、教科における専門性の発揮が期待できるため、地域のコア・ティーチャーなども交えながら、特に授業の「ゴール設定」を大切にする。



2 異教科での模擬授業【実践を意識した授業づくり】

異教科での模擬授業のポイントは、生徒の立場から授業を考え、資料等の提示や板書、発問といった教師の手立てに関わることを中心に、授業を実践レベルで具体化すること。

異教科での模擬授業は、学習する生徒の目線で授業を考えることができるため、「生徒の実態と乖離していないか」「資料等の提示は適切か」「発問は生徒が深く考えるきっかけになっているか」といった、生徒の学習の「プロセスの充実」につながるかを大切にする。



嘉麻市立山田中学校(全校9学級 約170名)

授業のグランドデザイン「学ナビ(まーなび)」を活用した授業改善

1 全教科で統一した「学習のかまえ」と「学ナビ」

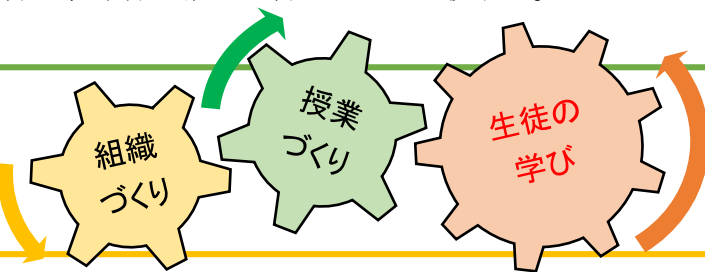
「学習のかまえ」は、考えを表現する場面や他者の考えを聞く場面における基本的な姿勢を整理し、自他を尊重できる雰囲気の中で安心して学べることを大切にする。

「学ナビ」は、学習過程を明確にした基本的な授業スタイルである。特に、中心的な活動となる「思考活動」を全教科で大切にする。『教師が変われば生徒が変わる 生徒が変われば学校が変わる』を合言葉に、全教師が一体感をもって授業改善に取り組む。

2 「思考活動」の充実

「思考活動」は、生徒が他者と関わりながら、考えを広げたり深めたりすることをねらいとしている。そのために、全教師が思考活動の目的や内容を明確にしなが、具体的にイメージできるように、教師が意識する要素(教材や資料、発問、板書等)を整理することを大切にする。

特に、交流活動で付加、修正し、再構築した考えを書く際は、条件に沿って書くことを重視する。



根拠をもとに
自分の考えを
説明することができる生徒

授業評価アンケートの活用と異教科での授業参観週間の実施

1 授業評価アンケートの活用

授業評価アンケートは、教師が明確な目標をもって授業改善に臨めるよう、各自で分析できるシートとして活用する。「学ナビ」の5つのポイントで、生徒が普段の授業をどのように感じているかを記述して振り返る。また、年間を通して記録することで、教師自身が自分の授業の変容を実感できることに特徴がある。

2 異教科での授業参観週間の実施

気軽に声を掛け合い、日常的な授業に関する内容や悩みなどを共有する雰囲気づくりにつながるために、授業参観週間(年3回)を設定する。参観してほしい授業場面を視点到同僚教師に参観してもらい、事後の協議等は設定せず、時間を見つけて互いに意見や感想などを述べ合う。

授業参観週間の実施に当たっては、授業改善目標設定シートを事前に作成し、期間終了後に振り返りを記入し全体で共有することで、学校全体の財産とすることを特に大切にする。

学習規律のスタンダード【学習のかまえ】

授業前

- 1分前着席

授業中

- 大きな声であいさつ
- アイデアはどんどん発言
- 発言は、大きな声ではっきりと
- 聞くときは、発言者の方にひざを向けて
- ノートは正確、丁寧に

授業のグランドデザイン【学ナビ】

めあてを設定する

めあて(課題・問題)解決の
見通しをもつ

思考活動

まとめをする

振り返りをする

教材 どのような教材?

学習内容を総合的に生かして考える教材
他科の学習などを生かした学習課題 など

資料 どのような資料?

適切な加工された資料
独自に加工した資料やモデルの提示
実験結果の記録、グラフ、表、絵など

交流活動

どのようにして?

〜と〜を関連付けて、〜と〜を比較して(〜との共通点・相違点は…)、
〜からわかること(規則性)を整理して、〜に着目して など

考えを可視化・構造化する手立て

- ICT機器
- 思考ツール
- 付箋
- モデル
- ホワイトボード
- 板書
- 学習プリントなど

どんな発問?

考え始めるきっかけ 例)この2つに共通している工夫点は何か?

考えを整理する手立て

構造的な板書

ノート指導



令和3年度 授業評価アンケート結果分析 学年: ()年 教科: () 記入者: ()

山田中学校 授業のグランドデザイン	1学期	2学期	3学期
めあてを設定する			
めあて(課題・問題)解決の見通しをもつ			
思考活動			
まとめをする			
振り返りをする			

学習指導過程ごとに授業評価アンケート等に基づいて、自分の授業の成果と課題を上げる

定期考査における評価問題の正答率分析

授業改善目標設定シート【6月13日(月)～24日(金)】

お名前: _____

○ 授業改善目標

振り返りを活用しためあての設定

○ 授業参観日時(参観してもう日時)

6月23日(木) 2校時 参観してもらう方のお名前: 校長先生, 先生, 先生, 先生

○ 振り返り(授業参観週間を振り返ってどうだったか)

振り返りシートの活用を「振り返り」に慣れた時期を見て積極的に活用したいと考えている。この目標を設定しました。振り返りを活用していくにはやはり、算数を見通した授業計画が大切だと感じました。結果的に気づきを蓄積し振り返り(本木)で、その中に深層に深層に気づきを蓄積して「ここ」に気づかせてほしいという本音を伝えておくことが重要だと感じました。

築上町立椎田中学校(全校9学級 約210名)

調査問題を教材や評価問題として活用した授業改善

【Ⅰ型】導入・展開場面で、考えを深める「教材」として活用

【Ⅰ型】の活用は、授業の主眼を達成するために、調査問題を教材として活用し、生徒の思考力、判断力、表現力等の育成を大切にする。特に、「なぜそうなるのかを問う why」や「選択肢を設けて問う which」の問いの工夫を行う。

【Ⅱ型】まとめ場面で、授業の「評価問題」として活用

【Ⅱ型】の活用は、授業の主眼の達成状況を評価する問題として調査問題を活用し、1単位時間における生徒の学習状況の把握を大切にする。特に、生徒の学習状況を生かした指導方法の改善につなげていく。

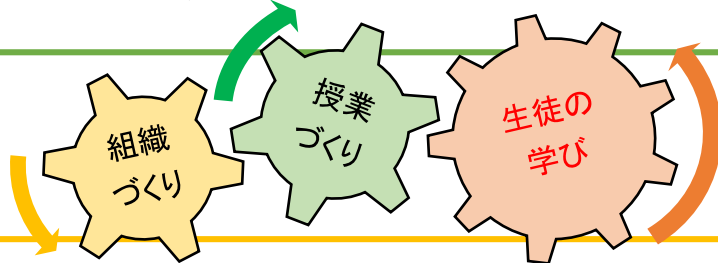
【Ⅲ型】単元末や定期考査で、「単元評価問題」として活用

【Ⅲ型】の活用は、単元の目標の達成状況を測る「単元評価問題」として調査問題を活用し、単元における生徒の学習状況の把握を大切にする。特に、生徒の学習状況を生かした補充学習につなげていく。



【Ⅲ】A-Cの自転車を購入するとき、あなたはどの商品を選びますか。記号で答えなさい。また選んだ理由を「品質・機能」「価格」「アフターサービス」「環境への配慮」の2つの観点を選んで説明しなさい。ただし、選んだ観点にもつること。(3点)

	A	B	C
購入価格	自転車販売店 21,780円	自転車販売店 12,500円	インターネット通販 14,000円
その他	・6段のギア付き ・ブレーキの音が鳴りにくい ・自動で点灯するLEDライト ・保護蓋付き ・ブランド	・LEDライト ・ブレーキの音が鳴りにくい ・ノーブランド	・送料無料 ・保証書付き ・LEDライト ・1年間の保証付き ・ノーブランド



思考力、判断力、表現力等を身に付けた生徒

検証改善ロードマップの効果的な活用と取組強化月間の実施

1 「検証改善ロードマップ」の効果的な活用

検証改善ロードマップは、取組の全体像や目標達成までの道筋を捉えながら、具体的な活用を意識した作成が重要。そのため、担当者名を記載し「いつ、誰が、何をするのか」を明確にし、担当者同士の連携や協力を大切にする。このことは、担当者のミドルリーダーとしての自覚と責任を促し、組織的な取組の推進につながる。

	4月	5月	6月	7月	8月
学力向上検証改善委員会等		P	D	C	A P
全国・県学力調査等		全国学力調査実施(27日)	県学力調査実施(15日)中間考査	期末考査	全国・県学力調査結果送付
内容	担当	「椎田中授業スタンダード」の実践「学びのユニバーサル」			
学力調査		・各校採点、結果分析			・全国・県学力調査結果分析
めあてとまともになり落ちるある授業づくり			・強化月間「グループ」による相互参観		日常的な授業参観
視点②			・強化月間に向け、採点を明確にした聴察実証者	・活用状況調査	「Ⅰ型」「Ⅱ型」「Ⅲ型」の検討・実践
書く活動			「考える時間、話し合う時間、まとめる時間」の確保→自分の考えを書く、話し合う		

2 取組強化月間における「相互授業参観」の実施

年間2回(6月、10月)を学力向上の取組強化月間と設定し、相互授業参観の機会を設定する。3つの異教科グループをつくり、実践上のポイントを示した授業参観シートを活用しながら実施する。

学力向上に係るミドルリーダーを異教科グループのリーダーにすることで、取組の意味や価値、改善の方途を説明しながら進めることができ、情報の共有や取組への理解が深まる。

○取組強化月間を設定し、1人1回の公開授業
○ミドルリーダーをグループリーダーとし、人数や年齢構成などを考慮した3グループを構成

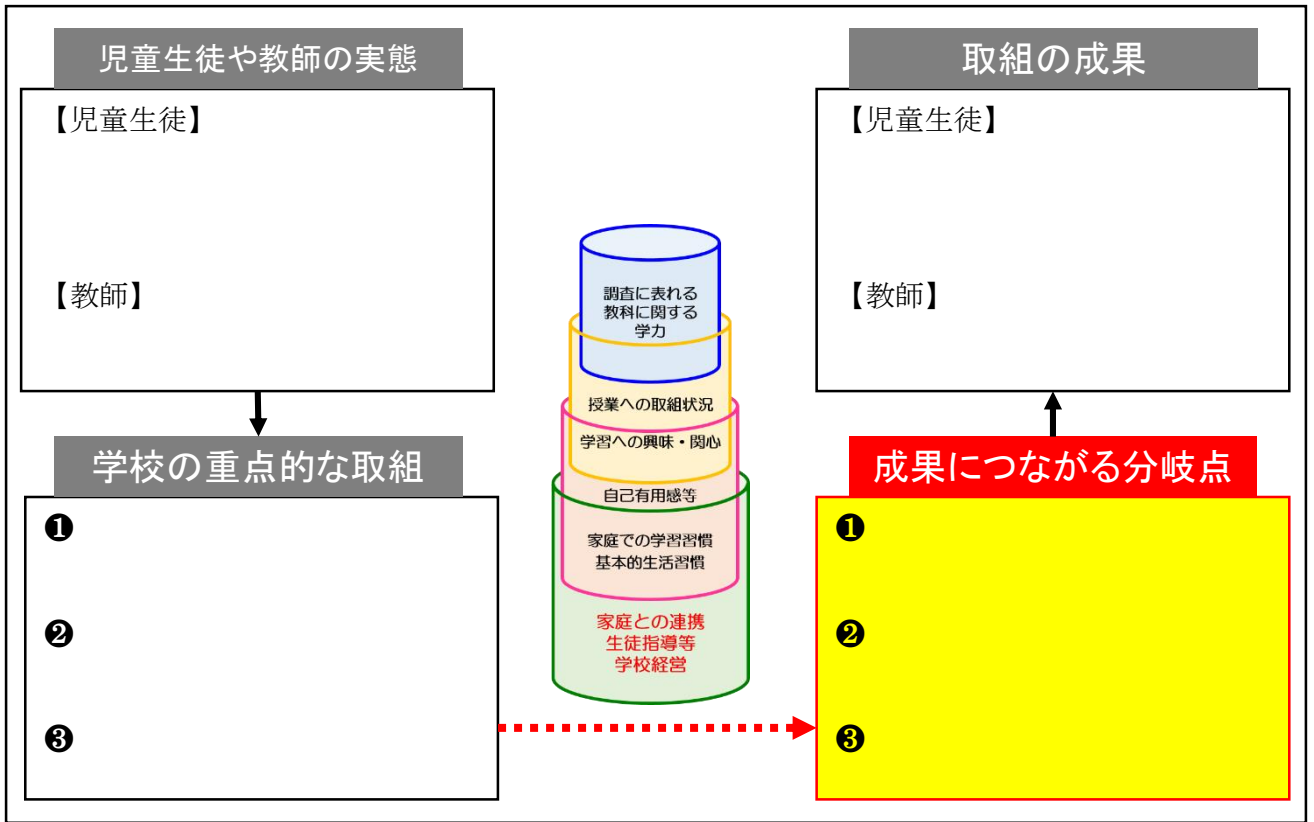
グループA 国語 社会 保健	グループB 数学 家庭	グループC 理科 英語 音楽
-------------------------	-------------------	-------------------------

学力向上コーディネーター 研究主任 指導方法工夫改善担当



【書き込み活用ページ③】 学校の取組の整理

◆ 学力向上に係る取組の整理（本報告書:33～46ページ参照）

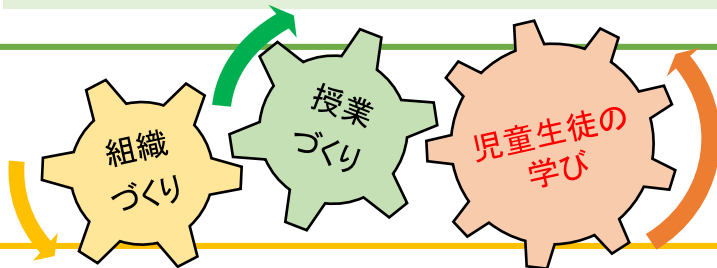


「授業づくり」のポイント

①

②

③



本校が目指す児童生徒像

「組織づくり」のポイント

①

②

③

令和4年度福岡県学力調査

Ⅷ 令和4年度福岡県学力調査

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各市町村（学校組合）教育委員会、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- ③ 各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査対象の学年（指定都市を除く）

- ① 公立の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- ② 公立の中学校第1学年、義務教育学校後期課程第1学年、中等教育学校前期課程第1学年、特別支援学校中学部第1学年
- ③ 公立の中学校第2学年、義務教育学校後期課程第2学年、中等教育学校前期課程第2学年、特別支援学校中学部第2学年

(3) 調査の教科（実施時間）

- 小学校第5学年 国語、算数（1教科45分で実施）
- 中学校第1学年 国語、数学（1教科50分で実施）
- 中学校第2学年 国語、数学（1教科50分で実施）

(4) 調査の内容

出題範囲は調査対象学年の前学年までの指導事項（中学校第1学年においては小学校までの指導事項）とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、主として「知識・技能」に関する問題及び主として「思考・判断・表現」に関する問題を一体的に問う。

(5) 調査日

令和4年6月21日（火）

(6) 6月21日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

	学校数(校)		児童生徒数(人)	
	国語	算数・数学	国語	算数・数学
小学校第5学年	437	437	22,136	22,141
中学校第1学年	209	209	21,235	21,242
中学校第2学年	209	209	21,027	21,027

※ 学校数は、分校を含む。

(7) 調査問題の内容

○ 領域別の設問数

	国語				算数・数学			
	知識及び技能 (1)(2)(3)	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	小・数と計算 中・数と式	図形	小・測定/ 変化と関係 中・関数	データの 活用
小学校第5学年	9問	3問	4問	2問	8問	4問	4問	3問
中学校第1学年	8問	3問	4問	3問	8問	4問	4問	3問
中学校第2学年	5問	4問	4問	6問	8問	4問	4問	3問

○ 評価の観点別の設問数

	国語		算数・数学	
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
小学校第5学年	9問	9問	12問	7問
中学校第1学年	8問	10問	12問	7問
中学校第2学年	5問	14問	9問	10問

○ 解答形式別の設問数

	国語			算数・数学		
	選択式	短答式	記述式	選択式	短答式	記述式
小学校第5学年	7問	8問	3問	7問	8問	4問
中学校第1学年	9問	6問	3問	4問	11問	4問
中学校第2学年	12問	3問	4問	3問	12問	4問

※ 選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題

※ 短答式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。

※ 記述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

本調査は、全国調査同様、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、**継続的な検証改善サイクルを確立**することを目的に行っています。

特に、本調査を行うことで、小学校5年生から中学校3年生まで児童生徒一人一人の学習状況等を追跡把握でき、**切れ目ない指導や支援に役立てる**ことができます。



2 調査結果の概要

(1) 県全体及び地区別の平均正答数、標準化得点、平均正答率

平均正答数：児童生徒の正答数の平均のこと。

標準化得点：県全体の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点のこと。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。

○ 小学校第5学年

設問数 国語：18問、算数：19問

		国語					算数				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		10.6	100.0	59.0	61.8	56.2	12.1	100.0	63.6	71.3	50.4
地 区	福岡	11.1	104.7	61.4	63.6	59.2	12.5	103.3	65.6	73.1	52.6
	北九州	10.6	100.0	58.9	62.5	55.2	12.2	100.8	64.4	72.4	50.6
	北筑後	10.1	95.3	55.9	57.8	53.9	11.5	95.0	60.7	67.9	48.2
	南筑後	10.6	100.0	59.0	62.3	55.6	12.2	100.8	64.0	71.8	50.7
	筑豊	10.1	95.3	55.8	60.8	50.9	11.5	95.0	60.4	68.9	45.8
	京築	10.3	97.2	57.1	60.6	53.6	11.7	96.7	61.8	69.8	48.1
最大と最小の差		—	—	5.6	5.8	8.3	—	—	5.2	5.2	6.8

○ 中学校第1学年

設問数 国語：18問、数学：19問

		国語					数学				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		11.5	100.0	68.3	75.4	54.6	11.0	100.0	57.8	63.7	47.8
地 区	福岡	11.8	102.6	65.7	76.7	57.0	11.3	102.7	59.4	64.6	50.5
	北九州	11.5	100.0	64.0	76.1	54.3	10.9	99.1	57.3	63.8	46.3
	北筑後	11.2	97.4	62.5	73.8	53.4	10.8	98.2	56.7	62.8	46.3
	南筑後	11.2	97.4	62.2	74.9	52.1	10.7	97.3	56.3	62.5	45.6
	筑豊	10.7	93.0	59.5	72.3	49.2	10.1	91.8	53.4	61.0	40.2
	京築	11.1	96.5	61.4	72.6	52.5	10.7	97.3	56.3	62.5	45.7
最大と最小の差		—	—	6.2	4.4	7.8	—	—	6.0	3.6	10.3

○ 中学校第2学年

設問数 国語：19問、算数：19問

		国語					数学				
		平均 正答数	標準化 得点	平均正答率			平均 正答数	標準化 得点	平均正答率		
				全体	知・技	思・判・表			全体	知・技	思・判・表
県全体		9.8	100.0	51.4	64.4	46.8	8.5	100.0	44.9	52.5	37.9
地 区	福岡	10.2	104.1	53.8	66.5	49.3	9.2	108.2	48.5	56.4	41.5
	北九州	9.6	98.0	50.4	62.3	46.1	7.9	92.9	41.5	49.0	34.8
	北筑後	9.5	96.9	50.0	63.8	45.1	8.0	94.1	42.2	49.4	35.7
	南筑後	9.2	93.9	48.4	61.7	43.6	8.1	95.3	42.5	50.3	35.5
	筑豊	8.9	90.8	47.0	61.3	41.9	7.2	84.7	38.1	46.1	30.8
	京築	9.3	94.9	49.0	62.1	44.3	8.1	95.3	42.7	50.6	35.5
最大と最小の差		—	—	6.8	5.2	7.4	—	—	10.4	10.3	10.7

(2) 全体の状況

- 国語は、「全体」の平均正答率が、学年が上がるにつれて、地区間の差が大きくなっている。
- 算数・数学は「全体」と「思考・判断・表現」の正答率が、学年が上がるにつれて、地区間の差が大きくなっている。
- 中学校第2学年数学の「思考・判断・表現」が、地区間の差が最大となっている。

(3) 小学校の状況

- 「全体」の地区間の差は、国語の方が若干大きい。
- 「知識・技能」の地区間差は、国語の方が若干大きい。
- 「思考・判断・表現」の地区間差は、国語の方が大きい。
- 最も地区間差が大きいのは、国語の「思考・判断・表現」である。

(4) 中学校第1学年の状況

- 「全体」の地区間の差は、国語の方が若干大きい。
- 「知識・技能」の地区間差は、国語の方が大きい。
- 「思考・判断・表現」の地区間差は、数学の方が大きい。
- 最も地区間差が大きいのは、数学の「思考・判断・表現」である。

(5) 中学校第2学年の状況

- 「全体」の地区間の差は、数学の方が大きい。
- 「知識・技能」の地区間差は、数学の方が大きい。
- 「思考・判断・表現」の地区間差は、数学の方が大きい。
- 最も地区間差が大きいのは、数学の「思考・判断・表現」である。

地区間で正答率に差が見られる内容は、市町村では学校間差、学校では学級間差、学級では個人間で正答率に差が生じやすい内容であることが想像されます。

「領域別」「評価の観点別」「出題形式別」等の視点から分析し、調査結果を児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てましょう。



(5) 地区別の標準化得点の推移

① 調査開始年度からの当該学年の推移

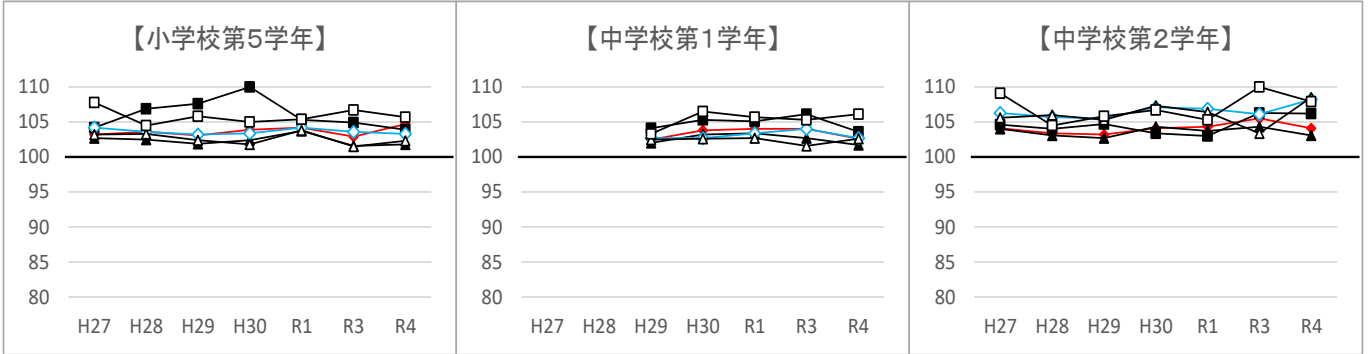
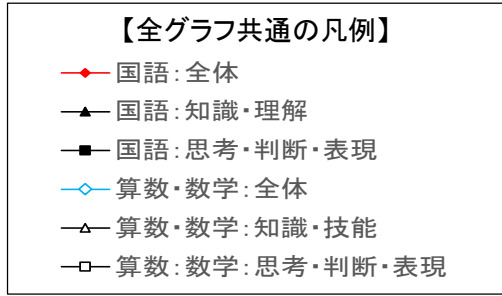
※ 調査開始年度

小学校第5学年：平成27年度

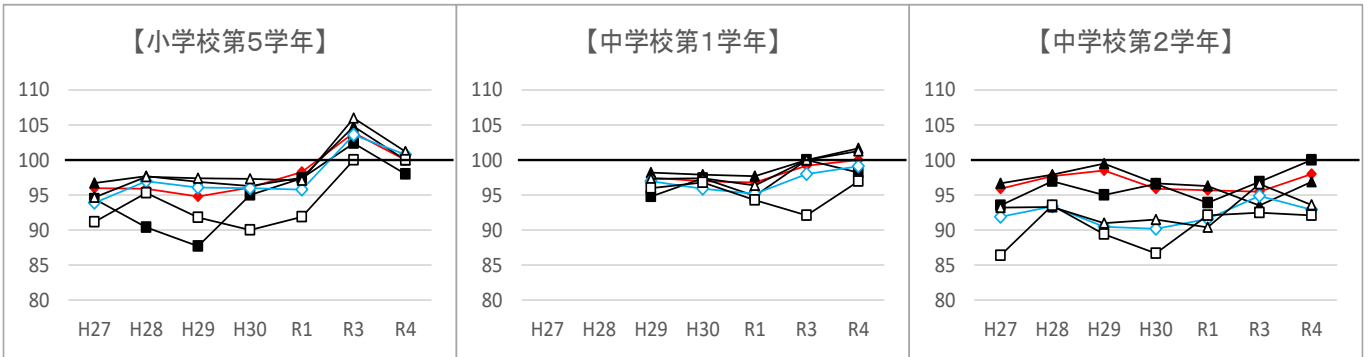
中学校第1学年：平成29年度

中学校第2学年：平成27年度

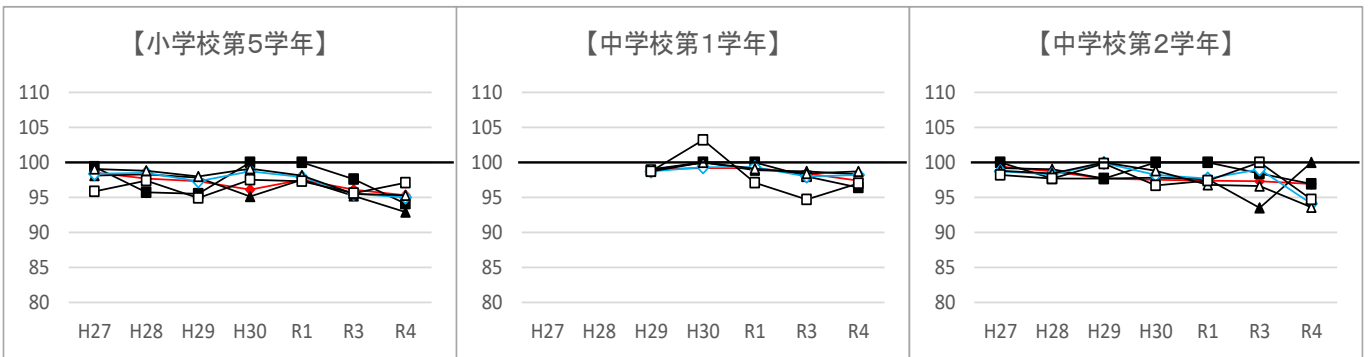
○ 福岡地区



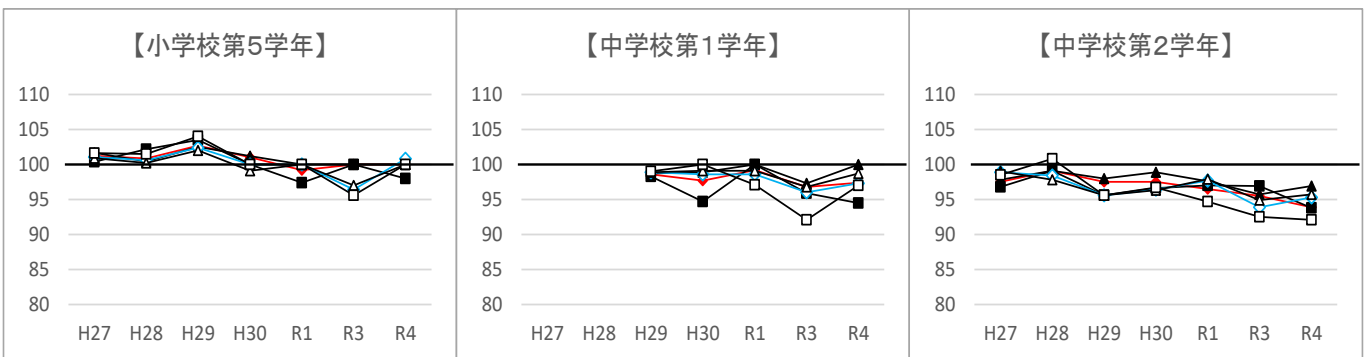
○ 北九州地区



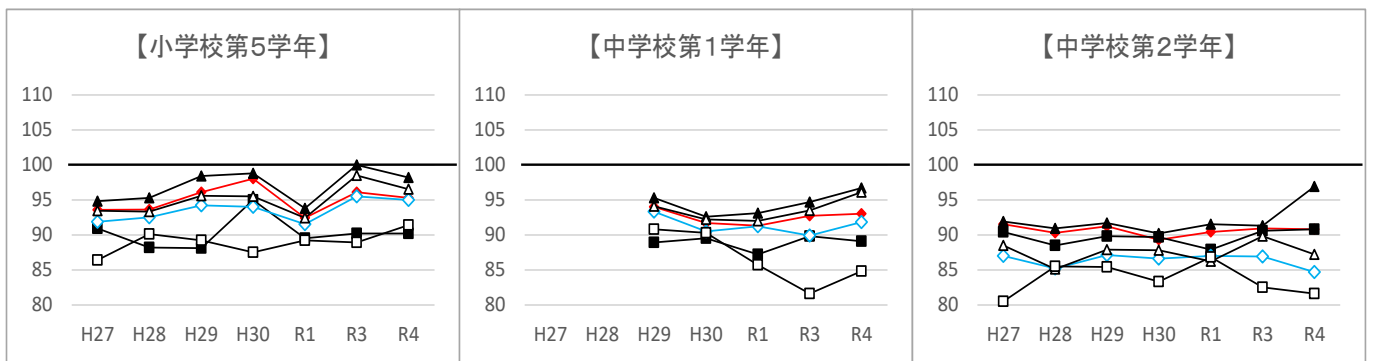
○ 北筑後地区



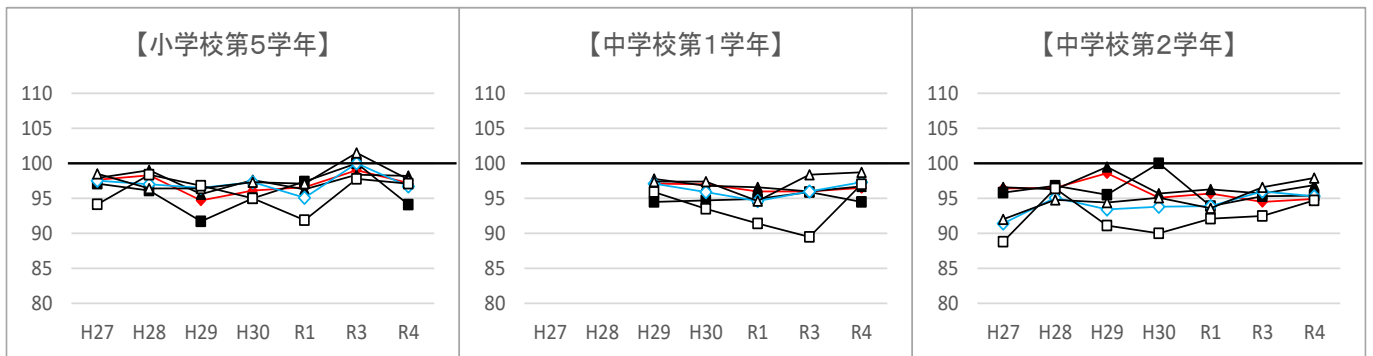
○ 南筑後地区



○ 筑豊地区



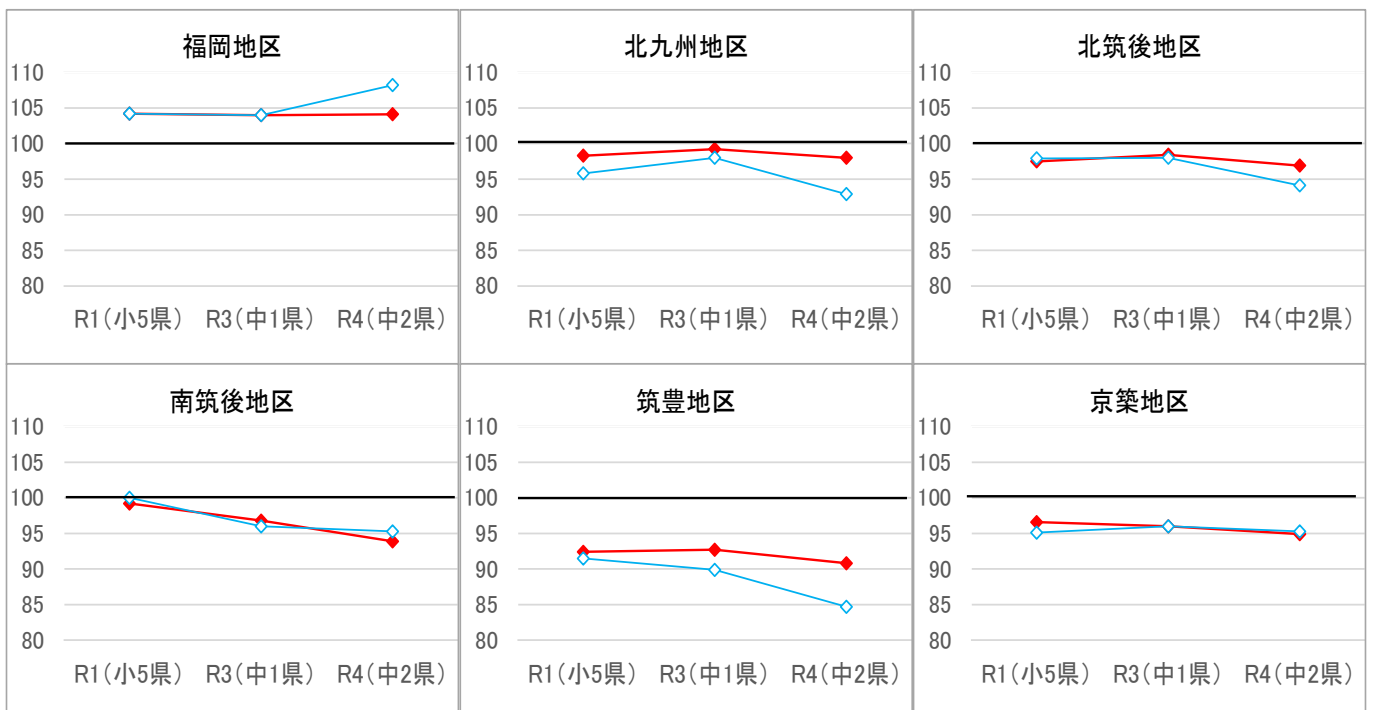
○ 京築地区



② 同一集団(現中学校第2学年)の経年変化

同一集団

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、例年と異なる実施方法であったため、経年変化のグラフには反映していない。



調査結果を学習指導の工夫改善につなぐ際は、調査対象学年の児童生徒の調査結果を、①当該学年の経年変化(異なる児童生徒の推移)の中で見たり、②同一集団(同じ児童生徒)の経年変化の中で見たりするなど、多様な視点からの分析が効果的です。



3 各学年の調査結果

(1) 小学校第5学年国語

「知識・技能」の定着に課題が見られました。例えば、文の中における**主語と述語の関係に注意して、文を正しく書く**等の指導の充実が求められます。



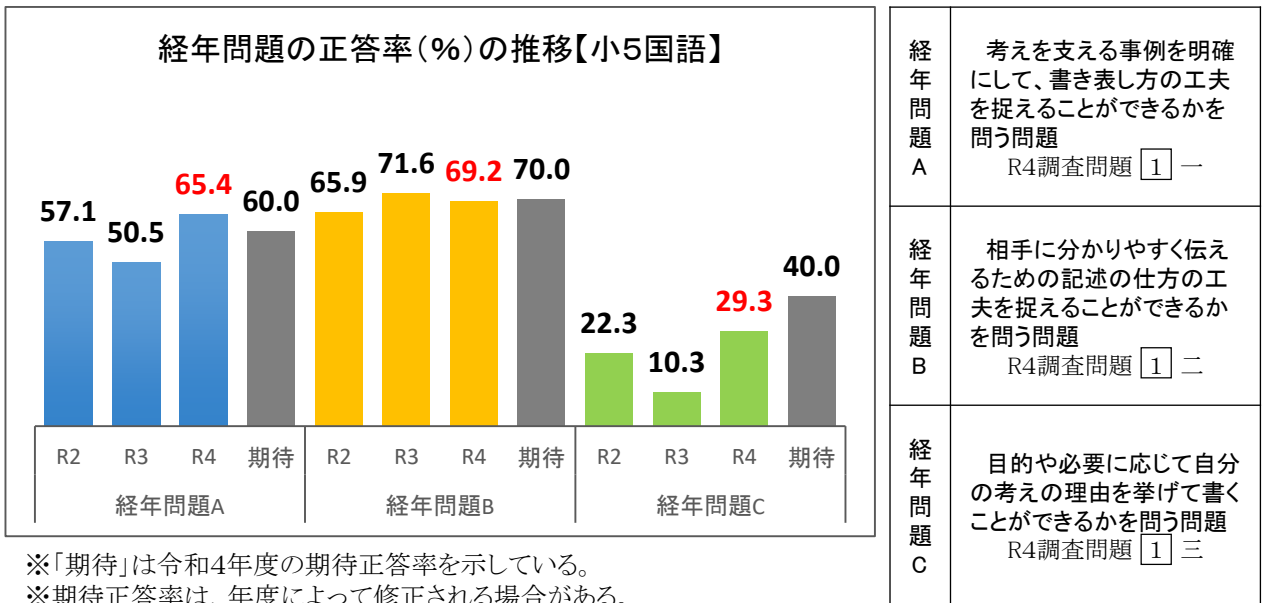
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能 (1)・(2)・(3)	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断 ・表現	選択	短答	記述
期待正答率	62.8	68.9	66.7	52.5	50.0	68.9	56.7	60.0	72.5	43.3
平均正答率	59.0	61.8	70.5	49.3	48.6	61.8	56.2	62.7	63.3	38.8
差	-3.8	-7.1	3.8	-3.2	-1.4	-7.1	-0.5	2.7	-9.2	-4.5

- 教科全体では、期待正答率を3.8ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「話すこと・聞くこと」で3.8ポイント上回り、「知識及び技能(1)(2)(3)」で7.1ポイント、「書くこと」で3.2ポイント、「読むこと」で1.4ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で7.1ポイント、「思考・判断・表現」で0.5ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で2.7ポイント上回り、「短答式」で9.2ポイント、「記述式」で4.5ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの4年間に、同様の「出題のねらい」で3回程度出題した問題（2、3問程度）である。



- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より8.3ポイント上昇し、期待正答率を5.4ポイント上回っている。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より3.3ポイント上昇し、期待正答率を0.8ポイント下回っている。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より7.0ポイント上昇し、期待正答率を10.7ポイント下回っている。



経年問題Cの正答率は上昇していますが、目標値には達していません。学習指導に当たっては、資料から読み取った内容について、**条件(文字数や構成)に即して書いたり、書き表した文章について評価し合う**ような学習場面を設定することが考えられます。

「数と計算」に関する内容に課題が見られました。
 例えば、**小数÷整数の計算の技能の定着を図っていくことが大切です。**



(2) 小学校第5学年算数

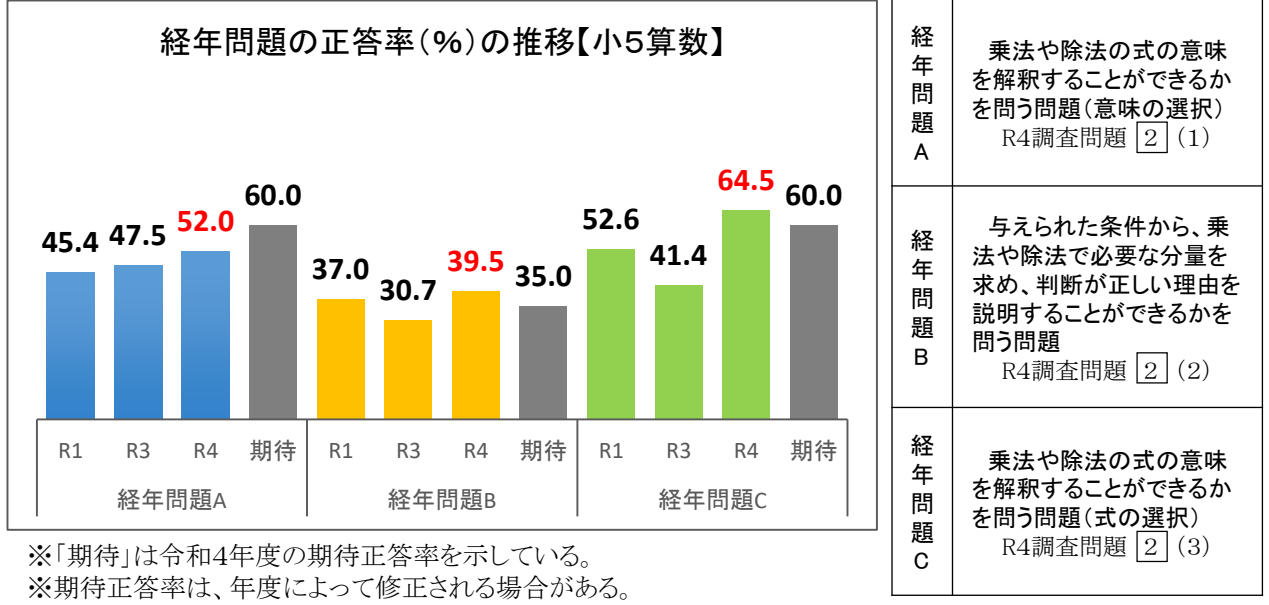
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と計算	図形	測定／変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	60.5	65.0	63.8	58.8	46.7	68.8	46.4	62.9	70.6	36.3
平均正答率	63.6	62.5	65.4	65.4	61.5	71.3	50.4	68.1	70.2	42.3
差	3.1	-2.5	1.6	6.6	14.8	2.5	4.0	5.2	-0.4	6.0

- 教科全体では、期待正答率を3.1ポイント上回っている。
- 領域別では、期待正答率を「図形」で1.6ポイント、「測定／変化と関係」で6.6ポイント、「データの活用」で14.8ポイント上回り、「数と計算」で2.5ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で2.5ポイント、「思考・判断・表現」で4.0ポイント上回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で5.2ポイント、「記述式」で6.0ポイント上回り、「短答式」で0.4ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの4年間に、同様の「出題のねらい」で3回程度出題した問題（2、3問程度）である。



※「期待」は令和4年度の期待正答率を示している。
 ※期待正答率は、年度によって修正される場合がある。

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より6.6ポイント上昇し、期待正答率を8.0ポイント下回っている。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より2.5ポイント上昇し、期待正答率を4.5ポイント上回っている。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より11.9ポイント上昇し、期待正答率を4.5ポイント上回っている。

経年問題Aの正答率は上昇していますが、目標値には達していません。
 学習指導に当たっては、**式中の数や演算記号の意味を言葉で説明したり、複数の式から場面を適切に表している式を選択しその理由を説明したり**するような学習場面を設定することが考えられます。



「読むこと」に関する内容に大きな課題が見られました。例えば、複数の叙述を関連付け、登場人物の心情について自分の考えをまとめる等の指導の充実が求められます。



(3) 中学校第1学年国語

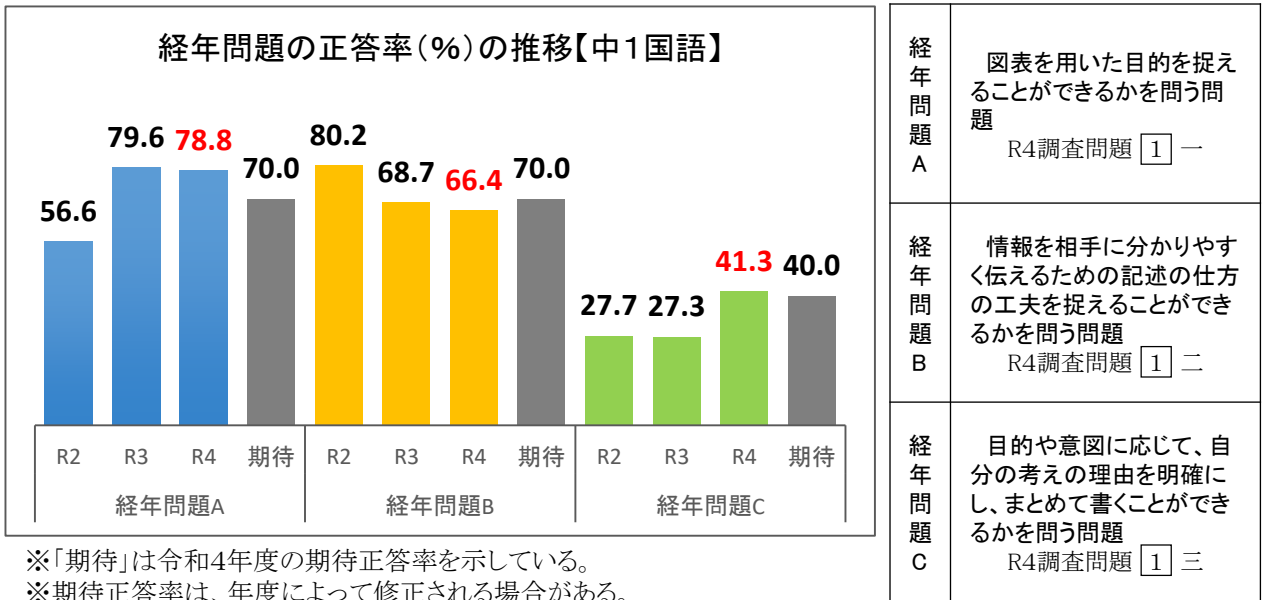
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能 (1)・(2)・(3)	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断 ・表現	選択	短答	記述
期待正答率	65.0	66.9	65.0	55.0	73.3	66.9	63.5	71.1	68.3	40.0
平均正答率	63.8	75.4	59.6	50.9	54.6	75.4	54.6	64.3	79.0	32.0
差	-1.2	8.5	-5.4	-4.1	-18.7	8.5	-8.9	-6.8	10.7	-8.0

- 教科全体では、期待正答率を1.2ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「知識及び技能(1)(2)(3)」で8.5ポイント上回り、「話すこと・聞くこと」で5.4ポイント、「書くこと」で4.1ポイント、「読むこと」で18.7ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で8.5ポイント上回り、「思考・判断・表現」で8.9ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「短答式」で10.7ポイント上回り、「選択式」で6.8ポイント、「記述式」で8.0ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの4年間に、同様の「出題のねらい」で3回程度出題した問題（2、3問程度）である。



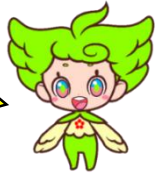
※「期待」は令和4年度の期待正答率を示している。
※期待正答率は、年度によって修正される場合がある。

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より22.2ポイント上昇し、期待正答率を8.8ポイント上回っている。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より13.8ポイント下降し、期待正答率を3.6ポイント下回っている。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より13.6ポイント上昇し、期待正答率を1.3ポイント上回っている。



経年問題Bの正答率は年々下降し、目標値を下回っています。学習指導に当たっては、他者が工夫して表現した文章について、どのような工夫がされているかを読み取ったり、複数の文章の中から、指定された工夫が施された文章を選んだりするような学習場面を設定することが考えられます。

「変化と関係」に関する内容に大きな課題が見られました。例えば、資料から必要な情報を読み取る等の指導の充実が求められます。



(4) 中学校第1学年数学

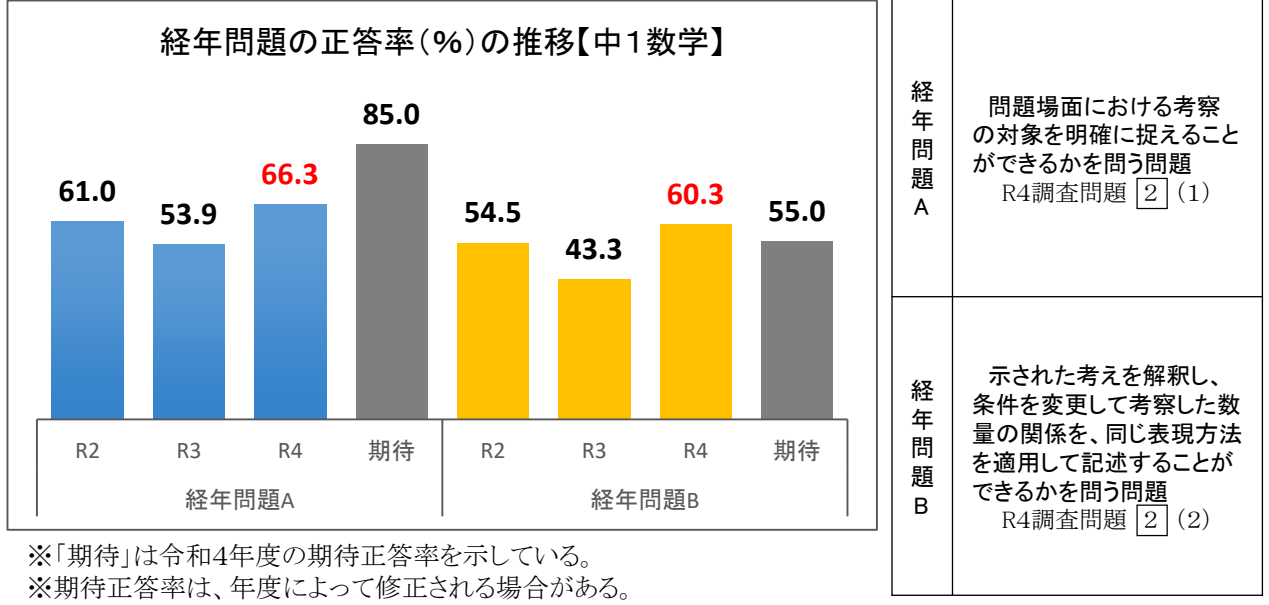
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	65.3	73.8	65.0	52.5	60.0	73.3	51.4	71.3	73.2	37.5
平均正答率	57.8	66.2	77.2	40.4	32.8	63.7	47.8	77.0	56.9	41.1
差	-7.5	-7.6	12.2	-12.1	-27.2	-9.6	-3.6	5.7	-16.3	3.6

- 教科全体では、期待正答率を7.5ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「図形」で12.2ポイント上回り、「数と計算」で7.6ポイント、「変化と関係」で12.1ポイント、「データの活用」で27.2ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で9.6ポイント、「思考・判断・表現」で3.6ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で5.7ポイント、「記述式」で3.6ポイント上回り、「短答式」で16.3ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの4年間に、同様の「出題のねらい」で3回程度出題した問題（2、3問程度）である。



※「期待」は令和4年度の期待正答率を示している。
※期待正答率は、年度によって修正される場合がある。

- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より5.3ポイント上昇し、期待正答率を18.7ポイント下回っている。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より5.8ポイント上昇し、期待正答率を5.3ポイント上回っている。

経年問題Aの正答率は上昇していますが、目標値には達していません。学習指導に当たっては、他者の説明を参考にして、同様の説明方法で別の事例を説明したり、他者が行っている説明の意味を解釈した上で、その説明の一部を代わりに行ったりするような学習場面を設定することが考えられます。



「読むこと」に関する内容には大きな課題が見られました。例えば、**目的に応じて必要な情報に着目し、内容を解釈する等の指導の充実が求められます。**



(5) 中学校第2学年国語

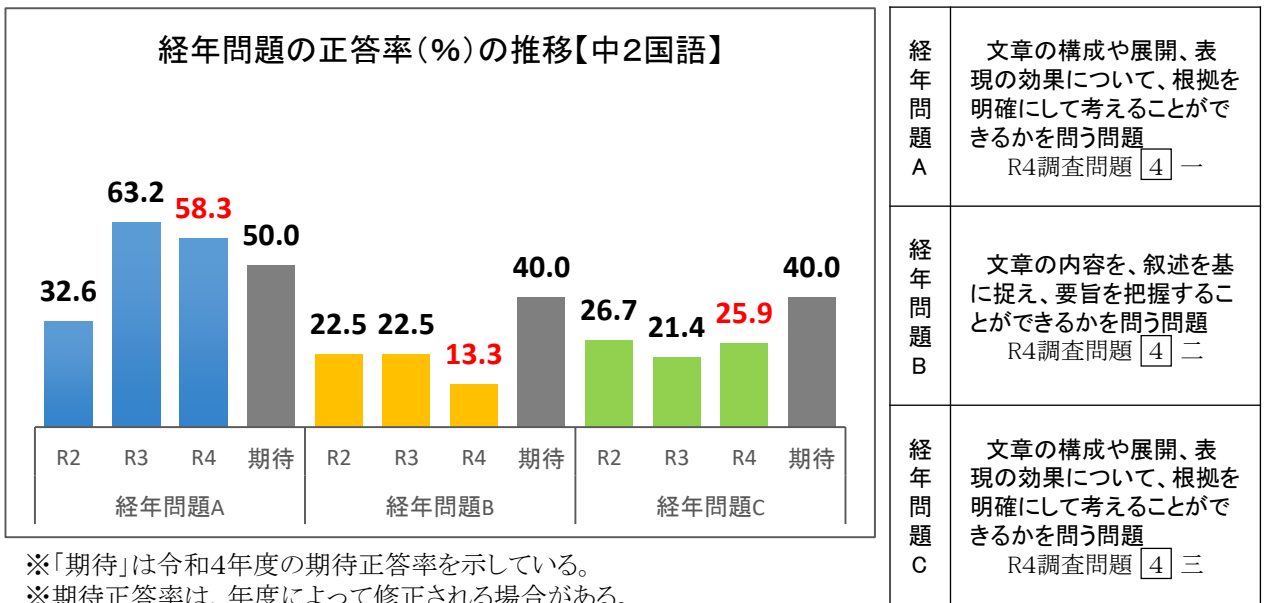
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		知識及び技能 (1)・(2)・(3)	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断 ・表現	選択	短答	記述
期待正答率	57.1	65.0	65.0	56.3	45.8	65.0	54.3	62.1	56.7	42.5
平均正答率	51.4	64.4	58.2	56.0	33.0	64.4	46.8	55.4	54.7	36.8
差	-5.7	-0.6	-6.8	-0.3	-12.8	-0.6	-7.5	-6.7	-2.0	-5.7

- 教科全体では、期待正答率を5.7ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「知識及び技能(1)(2)(3)」で0.6ポイント、「話すこと・聞くこと」で6.8ポイント、「書くこと」で0.3ポイント、「読むこと」で12.8ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で0.6ポイント、「思考・判断・表現」で7.5ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で6.7ポイント、「短答式」で2.0ポイント、「記述式」で5.7ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの4年間に、同様の「出題のねらい」で3回程度出題した問題（2、3問程度）である。



- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より25.7ポイント上昇し、期待正答率を8.3ポイント上回っている。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より9.2ポイント下降し、期待正答率を26.7ポイント下回っている。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より0.8ポイント下降し、期待正答率を14.1ポイント下回っている。



経年問題Bの正答率は上昇が見られず、目標値にも達していません。
学習指導に当たっては、**提示されたレポートや新聞といった資料の要旨を端的にまとめたり、複数の資料の中から、指定されたテーマでまとめられた資料を選択しその理由を説明したりする**ような学習場面を設定することが考えられます。

「図形」に関する内容には大きな課題が見られました。例えば、**条件を満たす作図方法を説明する**等の指導の充実が求められます。



(6) 中学校第2学年数学

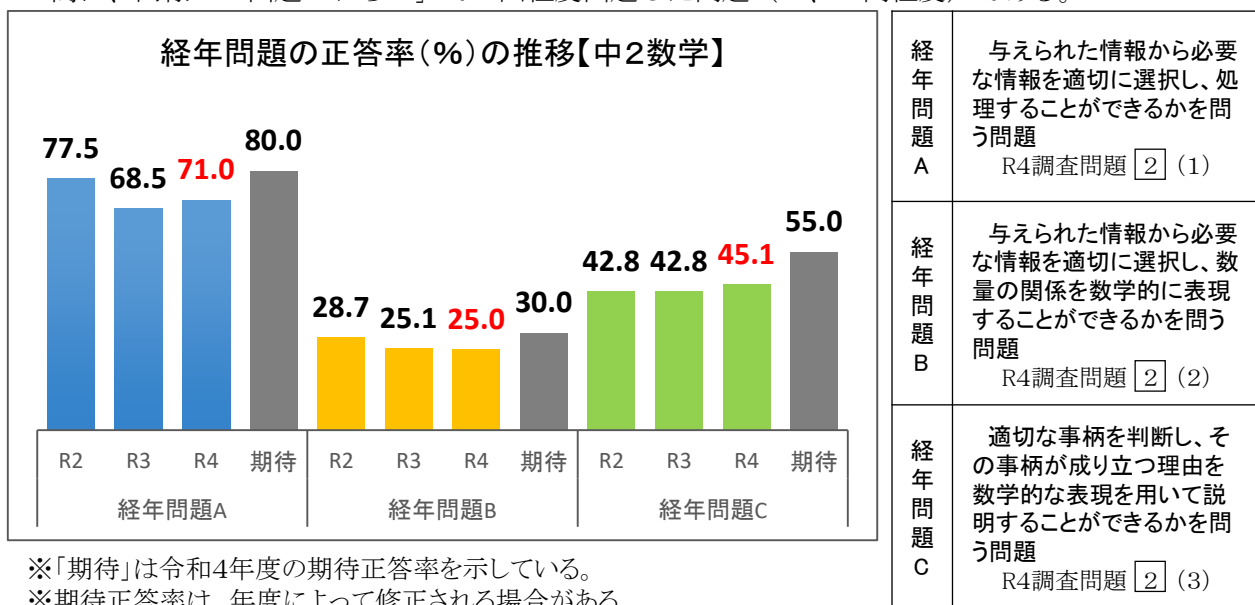
■ 期待正答率・平均正答率及びその差(%)

	教科全体	領域				観点		解答形式		
		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述
期待正答率	53.9	60.6	48.8	48.8	50.0	63.3	45.5	60.0	59.6	32.5
平均正答率	44.9	56.0	29.8	40.7	40.6	52.5	37.9	42.5	52.2	24.6
差	-9.0	-4.6	-19.0	-8.1	-9.4	-10.8	-7.6	-17.5	-7.4	-7.9

- 教科全体では、期待正答率を9.0ポイント下回っている。
- 領域別では、期待正答率を「数と式」で4.6ポイント、「図形」で19.0ポイント、「関数」で8.1ポイント、「データの活用」で9.4ポイント下回っている。
- 観点別では、期待正答率を「知識・技能」で10.8ポイント、「思考・判断・表現」で7.6ポイント下回っている。
- 解答形式別では、期待正答率を「選択式」で17.5ポイント、「短答式」で7.4ポイント、「記述式」で7.9ポイント下回っている。

■ 経年問題の正答率の推移

経年問題とは、各学校の指導による改善状況を把握することを目的とし、令和元年度からの4年間に、同様の「出題のねらい」で3回程度出題した問題（2、3問程度）である。



- 経年問題Aについては、正答率が調査開始年度より6.5ポイント下降し、期待正答率を9.0ポイント下回っている。
- 経年問題Bについては、正答率が調査開始年度より3.7ポイント下降し、期待正答率を5.0ポイント下回っている。
- 経年問題Cについては、正答率が調査開始年度より2.3ポイント上昇し、期待正答率を9.9ポイント下回っている。

経年問題Cの正答率は若干上昇していますが、目標値には達していません。学習指導に当たっては、**与えられた条件下で事柄が成り立つ理由を数や式を根拠に説明したり、与えられた条件下で事柄が成り立たない理由を反例を挙げて説明したり**するような学習場面を設定することが考えられます。



IX 資料

「IX 資料」は、令和4年度全国学力・学習状況調査に関する資料である。

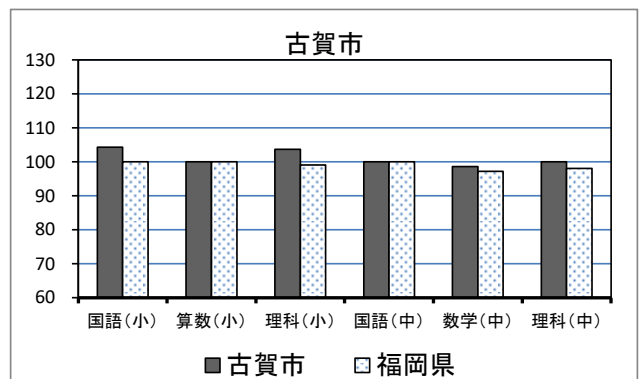
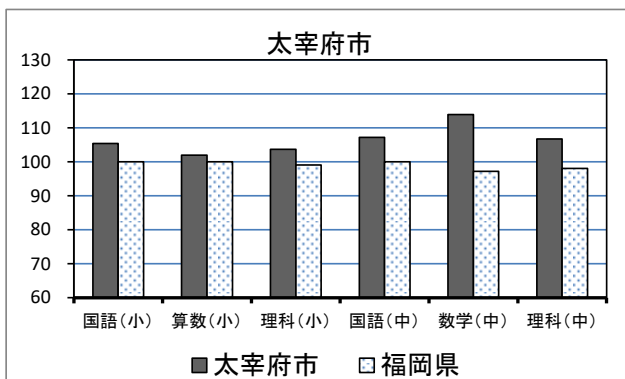
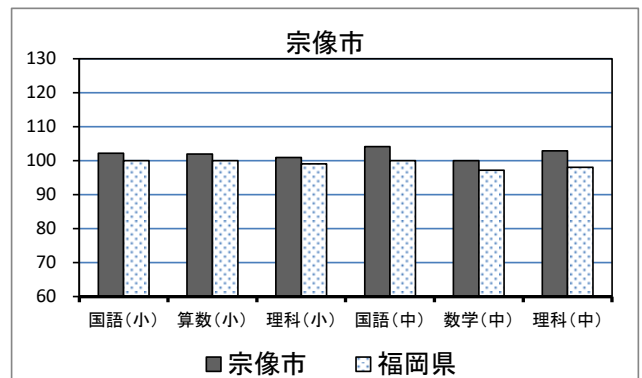
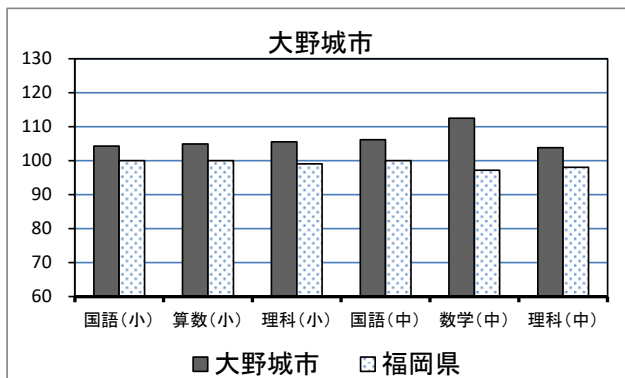
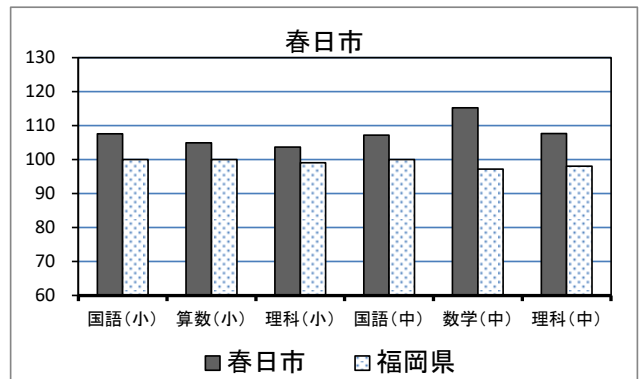
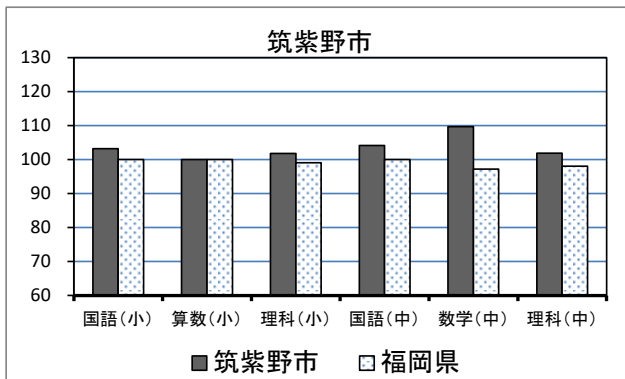
1 各教科結果の市町村別の状況

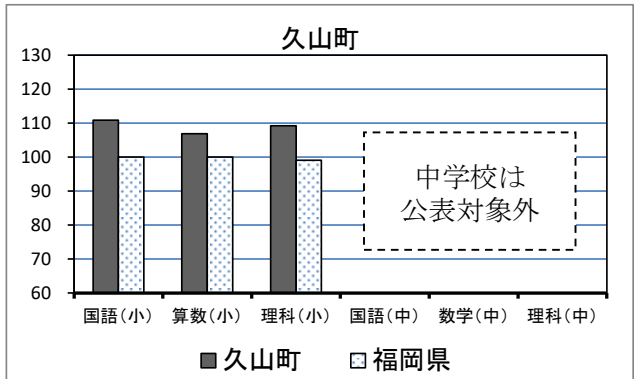
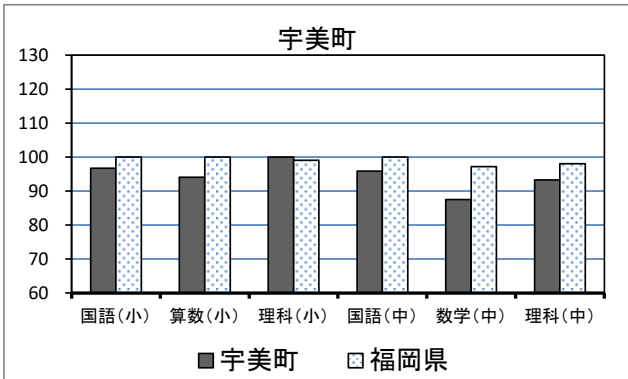
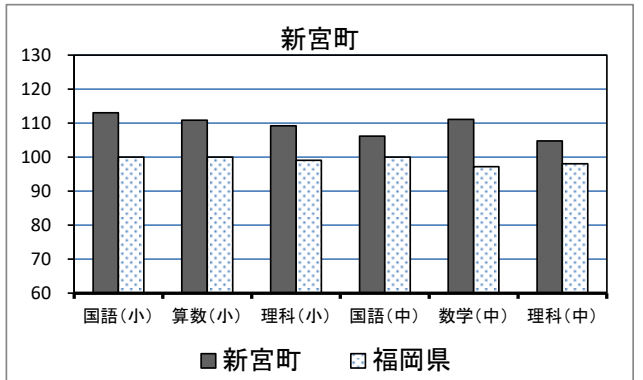
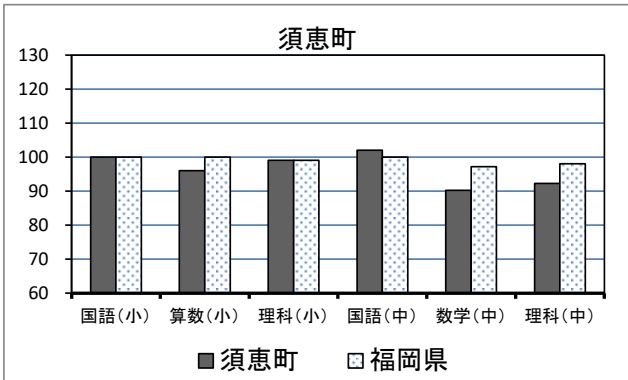
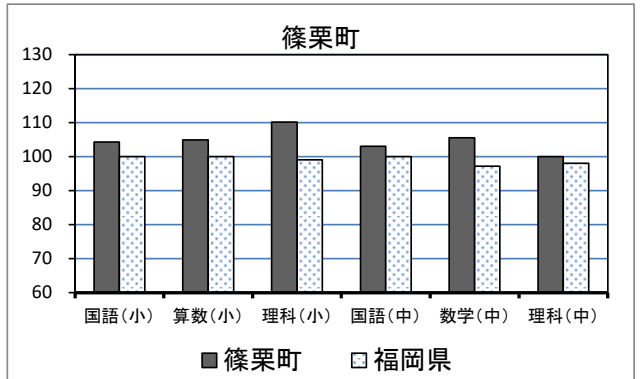
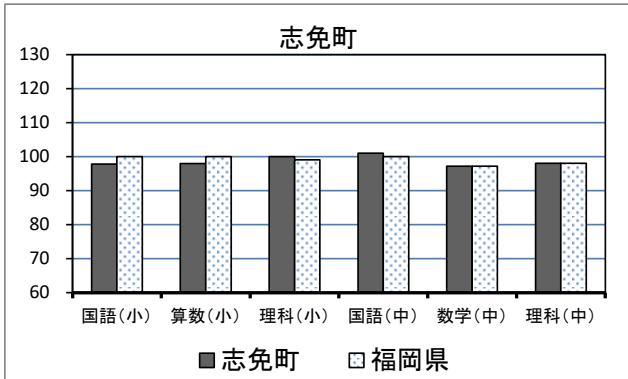
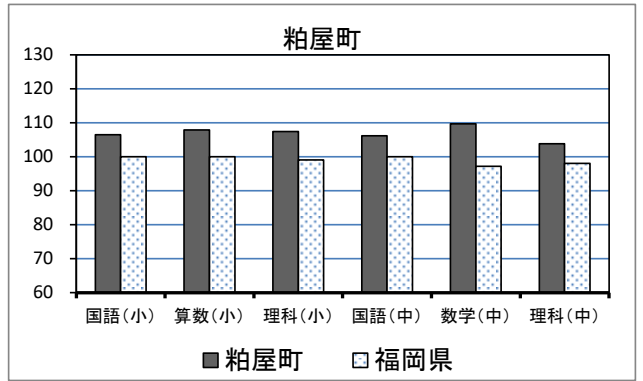
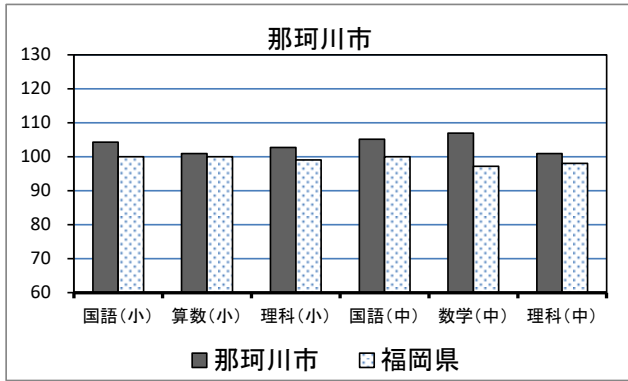
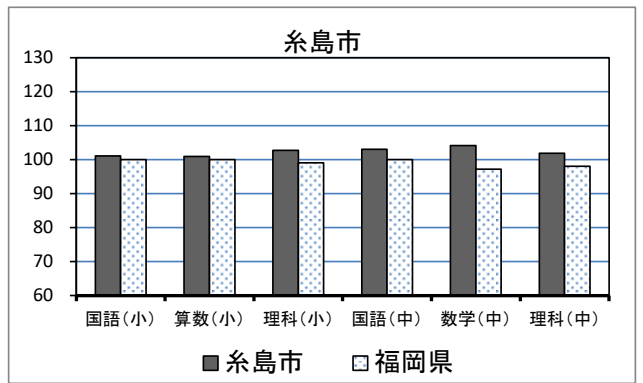
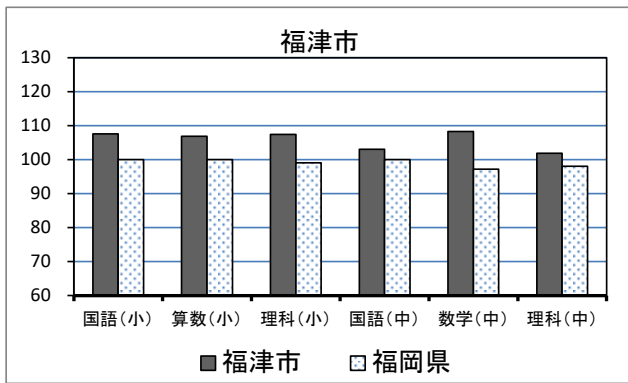
令和4年度は、全ての市町村教育委員会が公表に同意した。

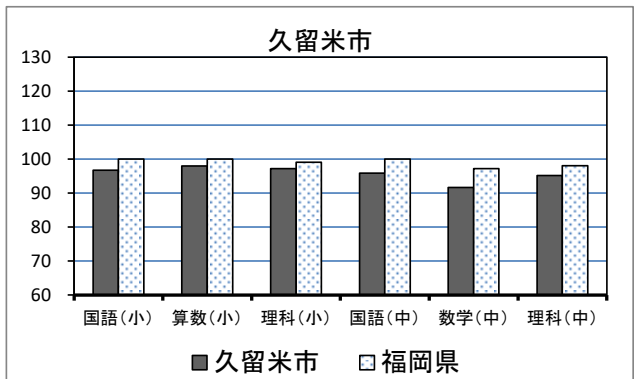
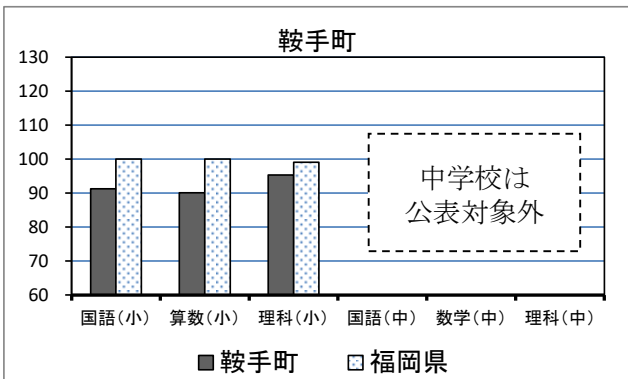
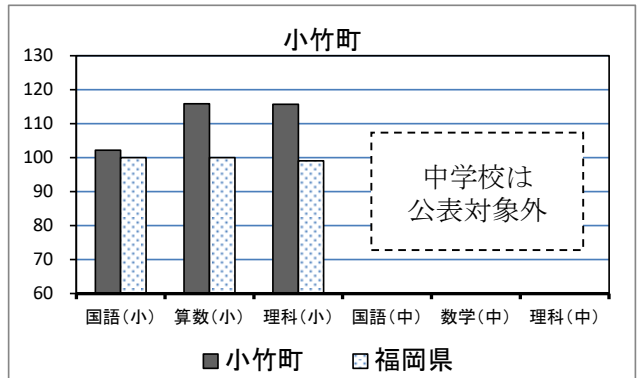
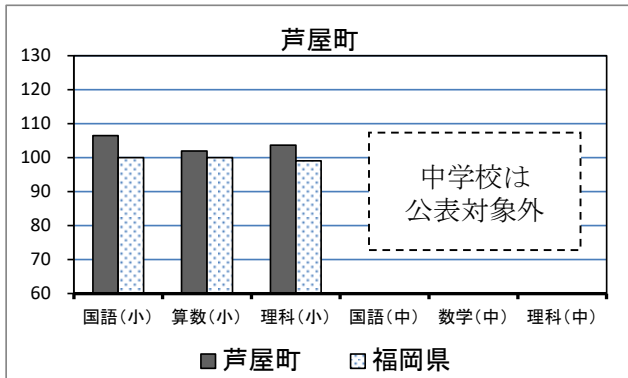
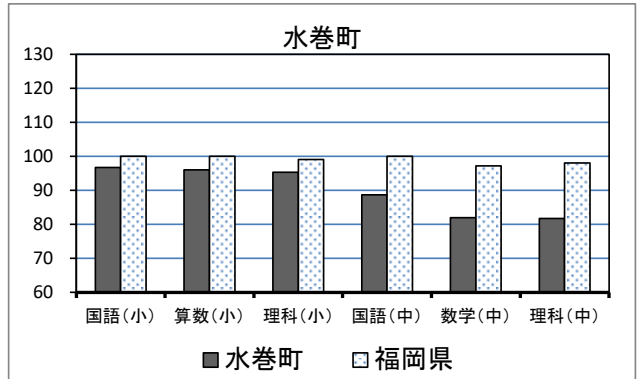
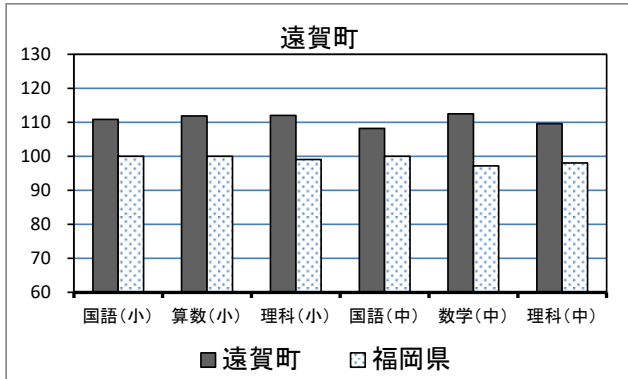
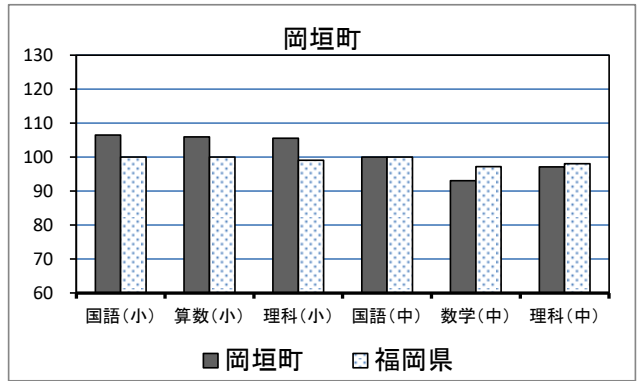
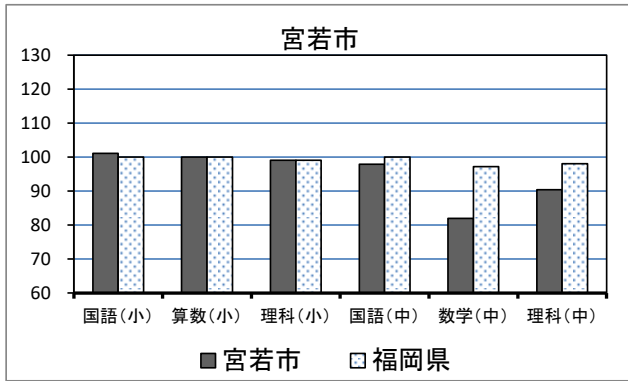
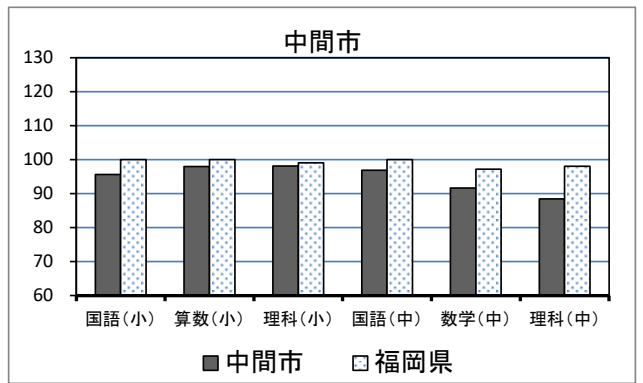
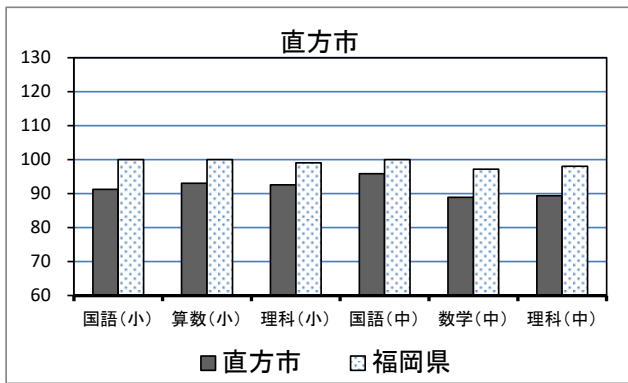
なお、市町村内の学校数が1小学校、1中学校又は1義務教育学校である場合は、当該学校を公表の対象外としている（以下「公表対象外」と表記）。

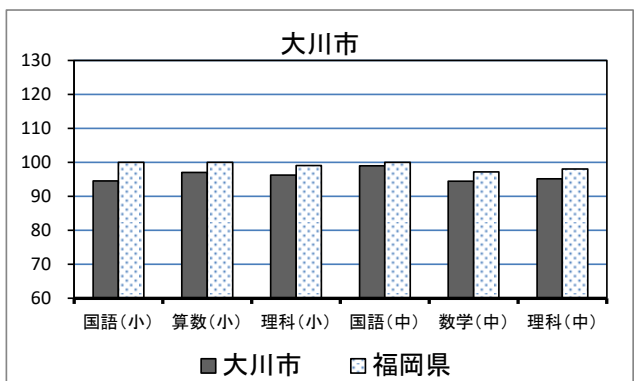
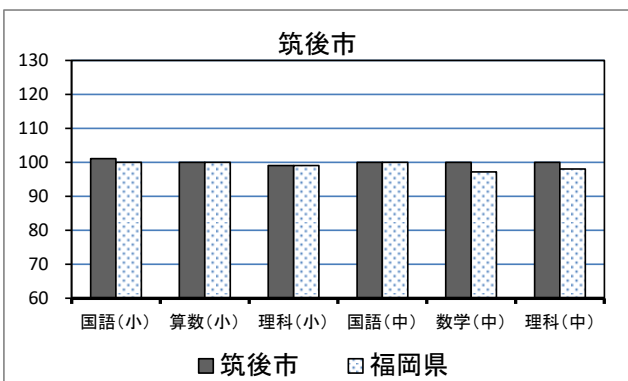
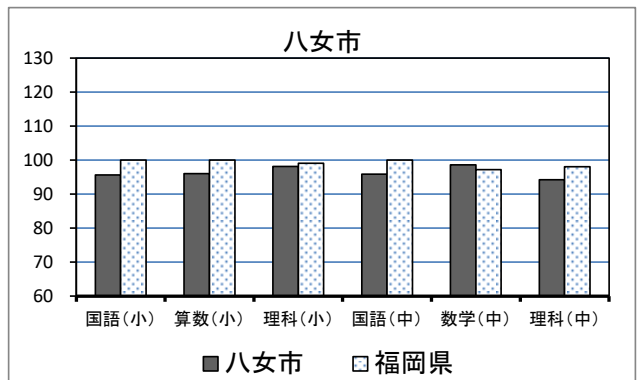
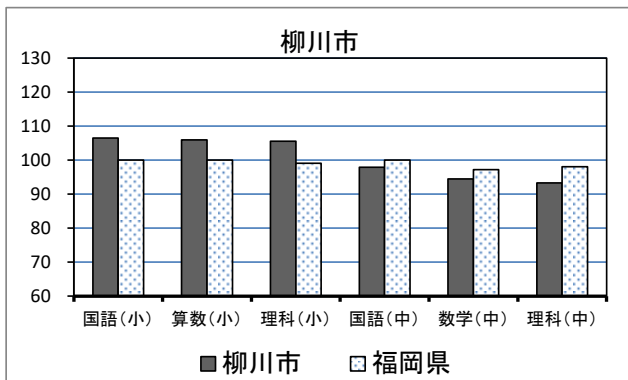
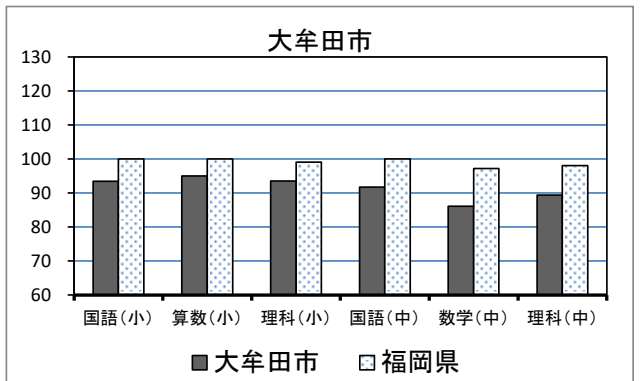
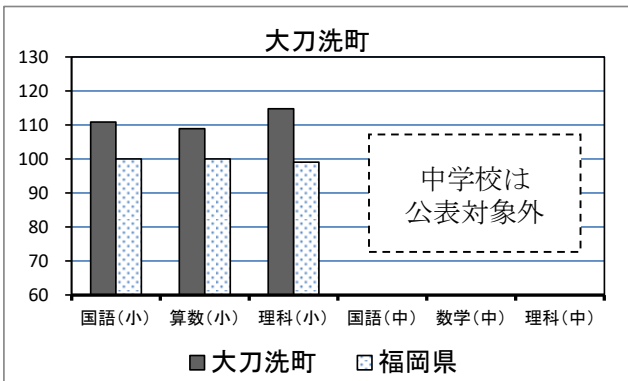
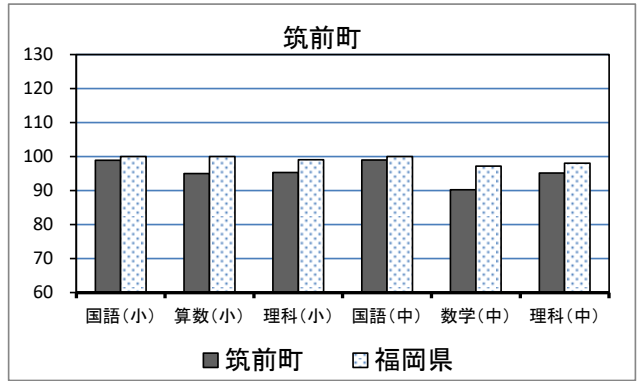
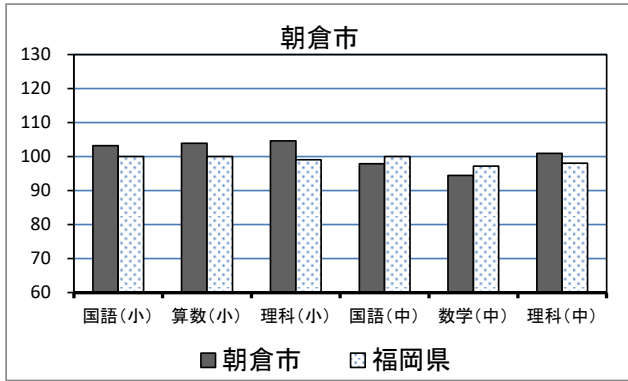
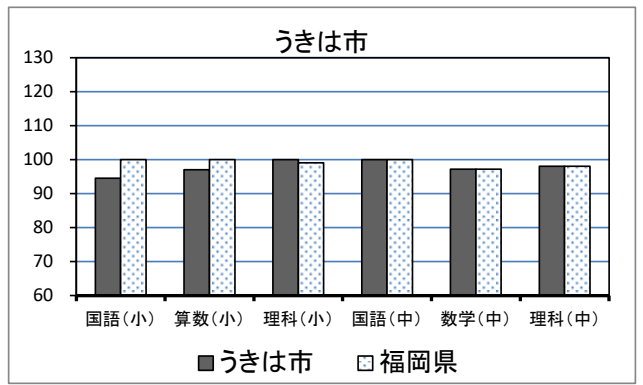
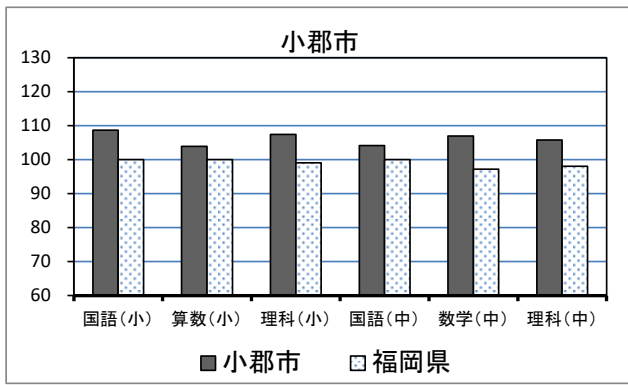
したがって、「東峰村」「香春町」「糸田町」「赤村」「吉富町・吉富町外一市中学校組合」は1小学校、1中学校又は1義務教育学校のため掲載していない。

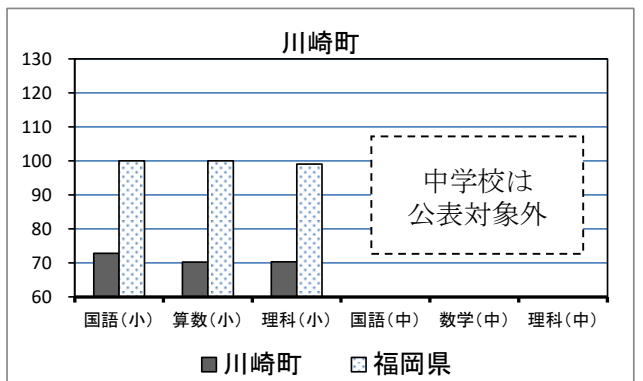
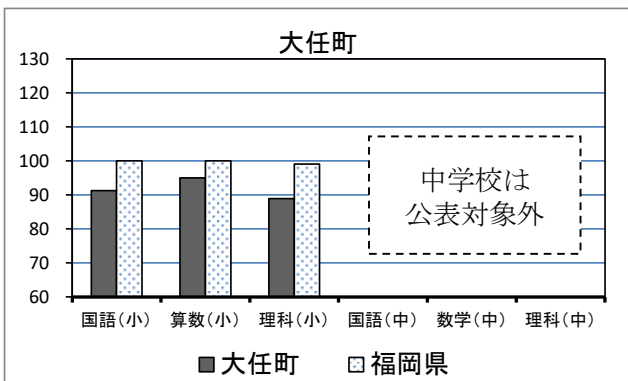
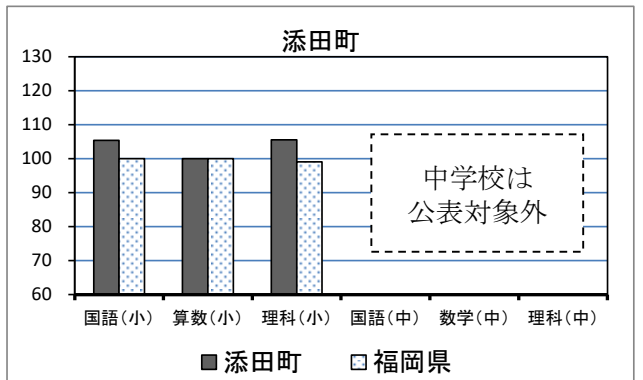
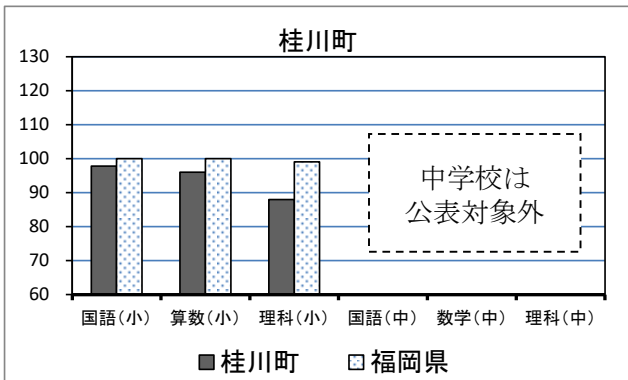
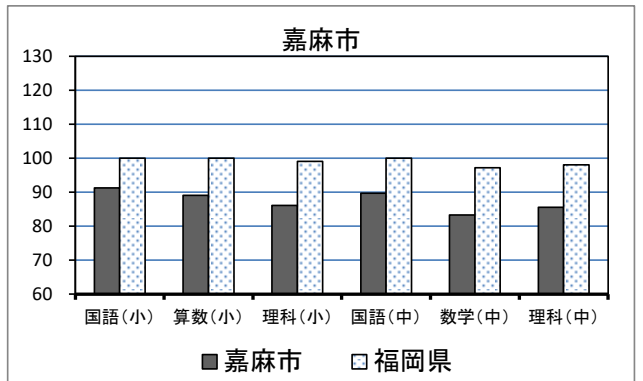
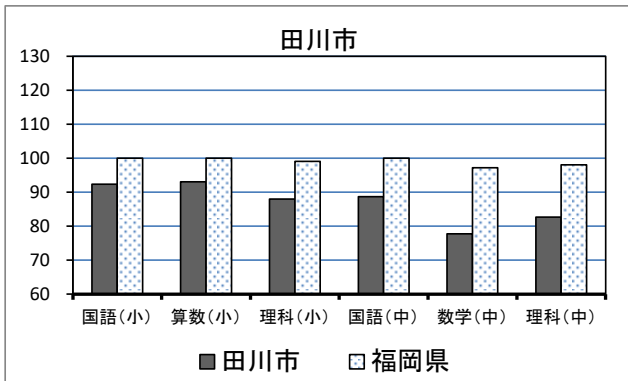
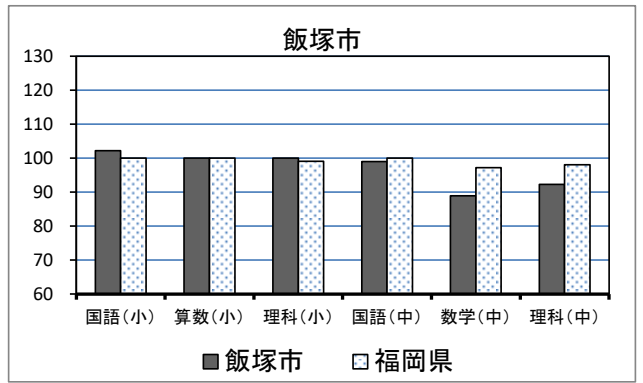
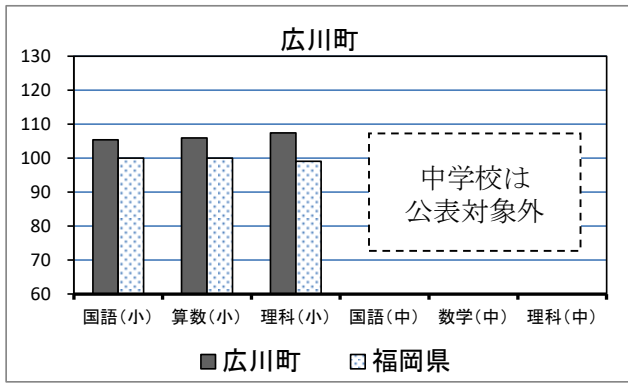
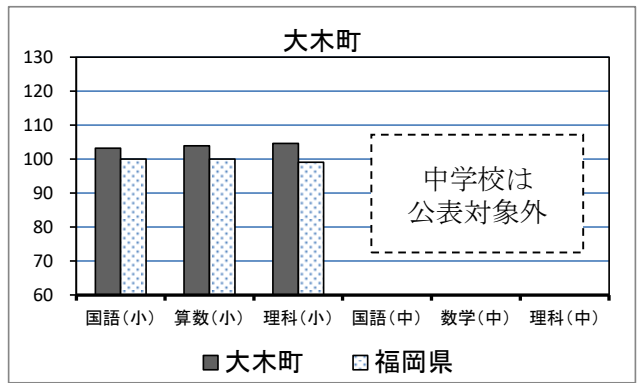
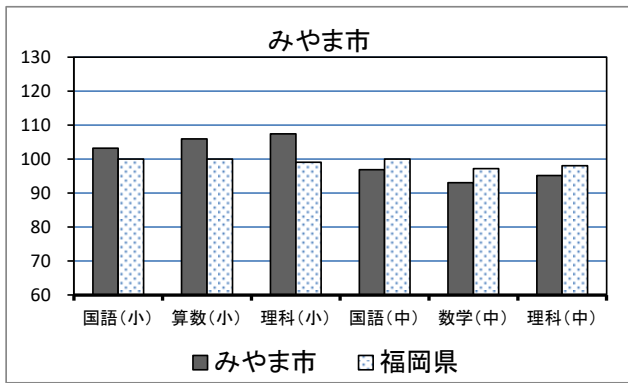
また、各グラフの値は、全国の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した「標準化得点」である。

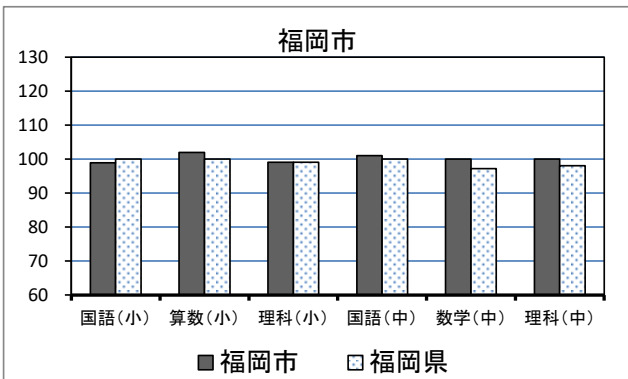
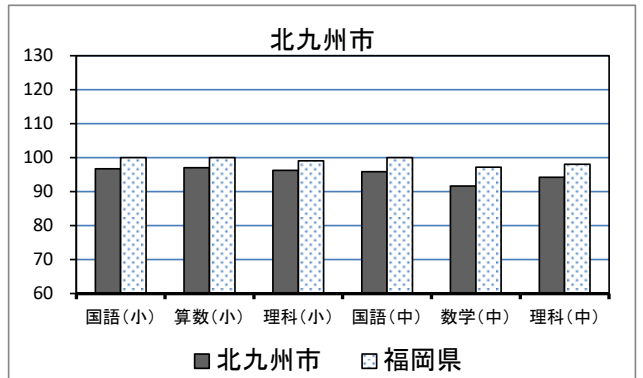
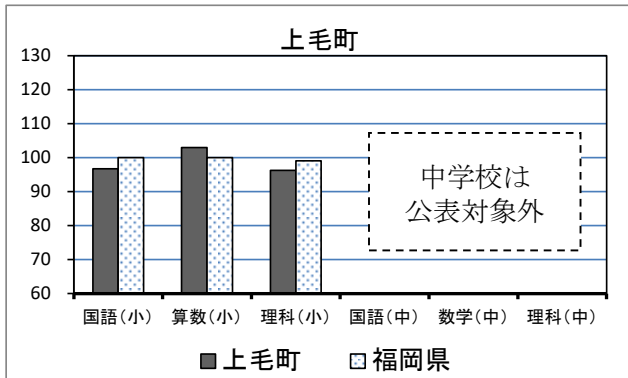
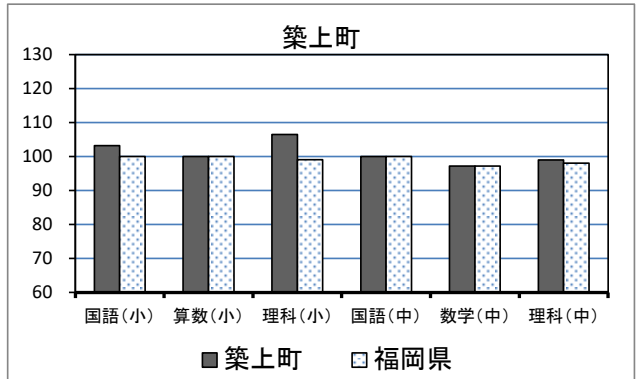
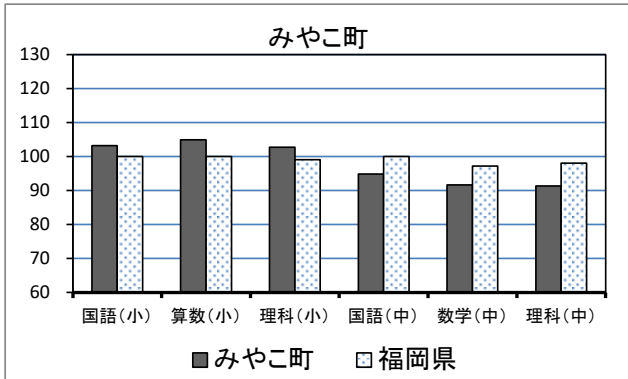
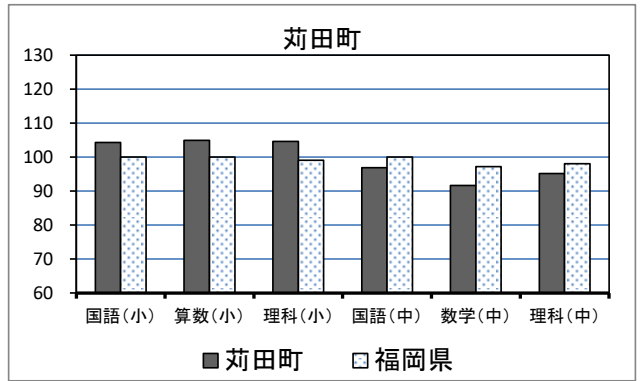
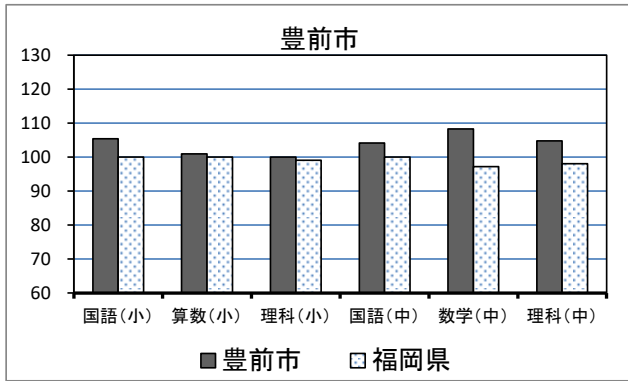
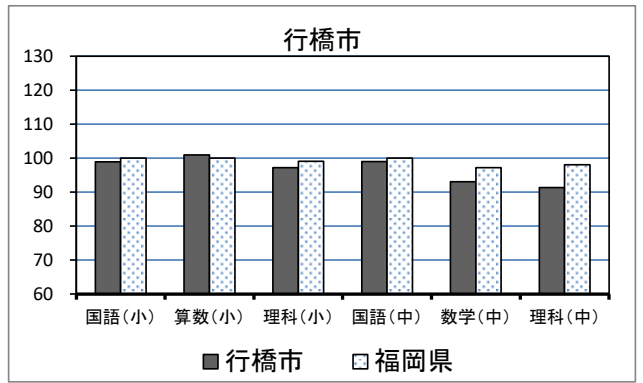
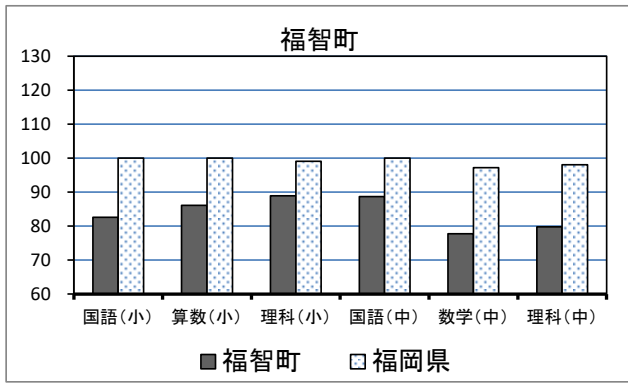












2 児童生徒質問紙の回答状況



- ◆ 基本的な生活習慣等は、教科の正答率への影響も大きい傾向にあります。特に平日の**テレビゲームやSNS、動画視聴時間の長時間化傾向には注意**が必要です。
- ◆ 挑戦心、達成感、自己有用感等は、自分のよさを自覚しながら粘り強くやり遂げようとする児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向にあります。
- ◆ 学習習慣、学習環境等では、家庭での計画的な学習や毎日の学習時間(量)が確保できている児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向にあります。
- ◆ ICTを活用した学習状況では、全国と比較して活用機会が低い傾向にあります。また、地区間や校種間で活用機会に差が見られます。**活用機会を増やしていく中で教科の特質に応じた効果的な活用を探っていく**ような取組が求められます。
- ◆ 授業改善に関する取組状況では、全国と比較して肯定的な回答が低い傾向があり、**課題解決や話し合う活動の充実**が求められます。
- ◆ 教科の興味関心や理解度は、教科の正答率への影響も大きいいため、児童生徒の学習状況等を評価しながら指導に生かす取組が求められます。

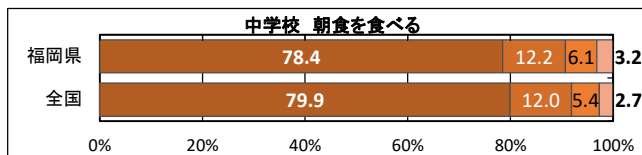
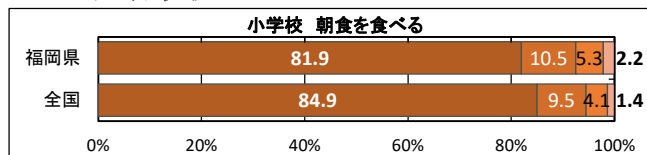
※ 表の数字は、質問番号(小・中共通)

基本的な生活習慣等に関する特徴的な質問項目

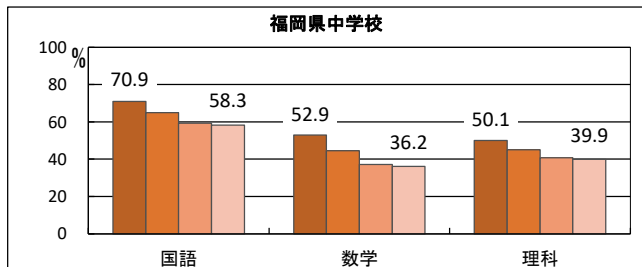
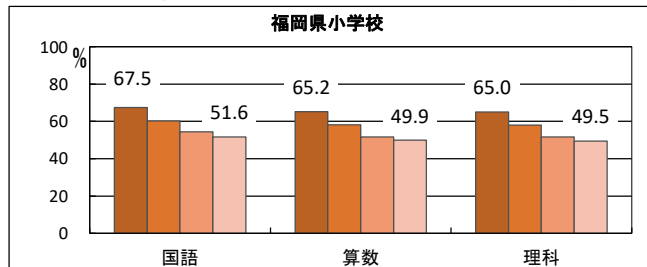
1	朝食を毎日食べていますか
---	--------------

回答状況

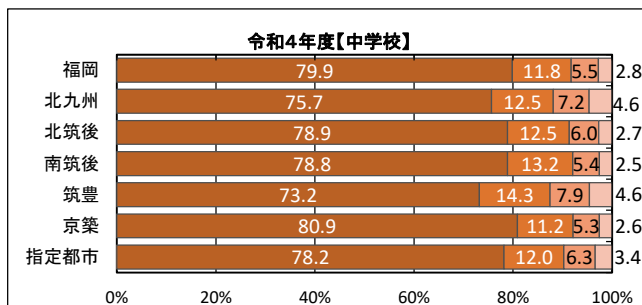
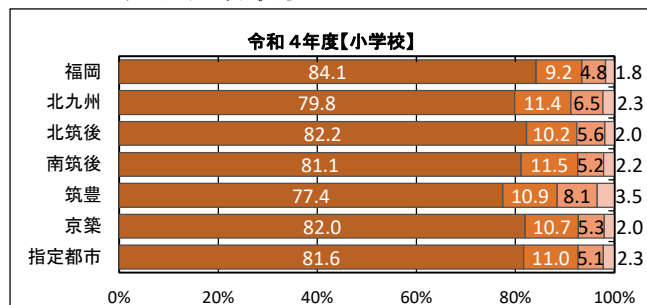
■ している ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全くしていない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

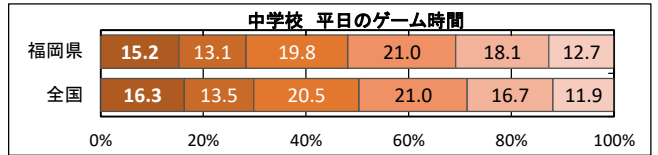
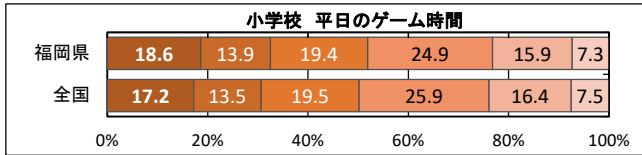


5

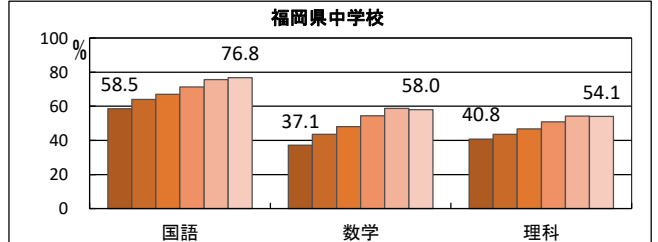
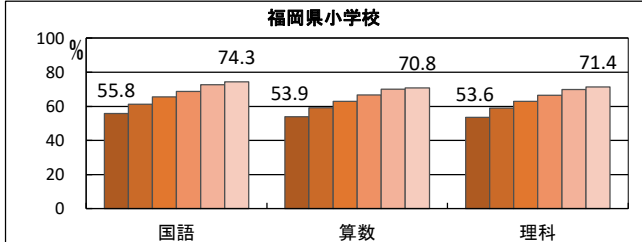
普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ、携帯式、携帯電話やスマートフォンのゲームも含む）をしますか

■ 回答状況

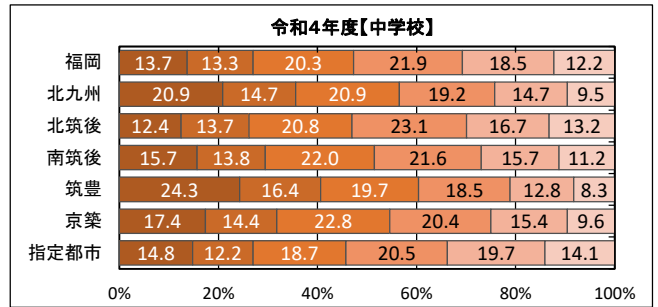
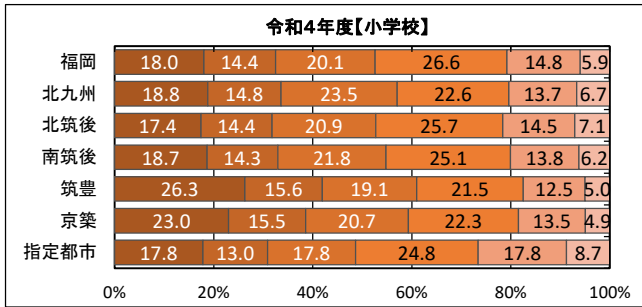
■ 4時間以上 ■ 3時間以上 ■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 1時間未満 ■ 全く



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

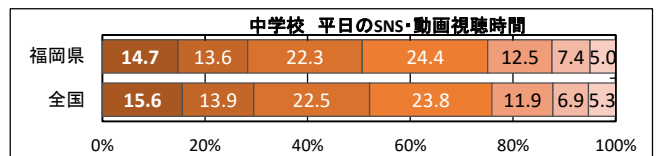
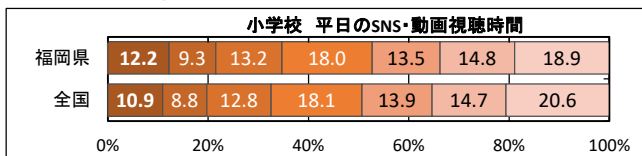


6

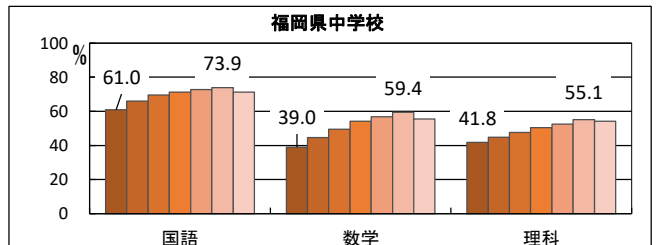
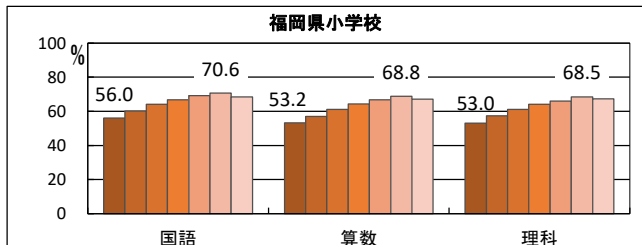
普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか

■ 回答状況

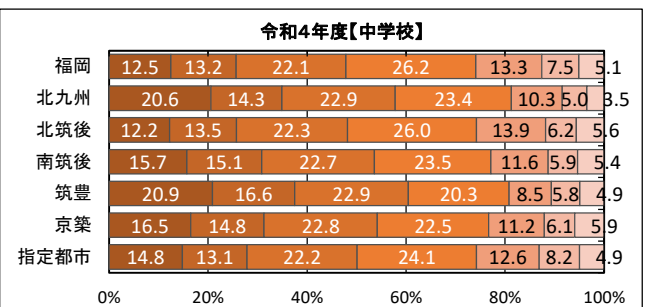
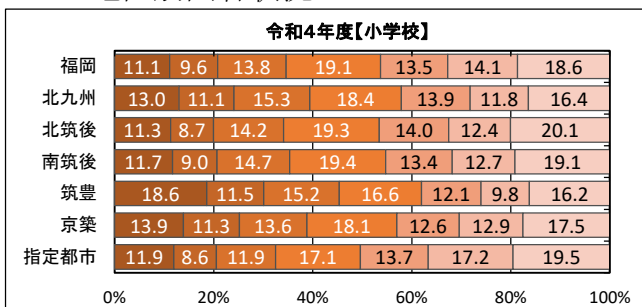
■ 4時間以上 ■ 3時間以上 ■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 30分以上 ■ 30分未満 ■ 持っていない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

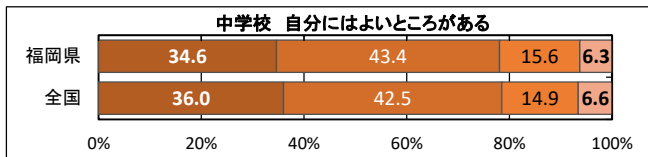
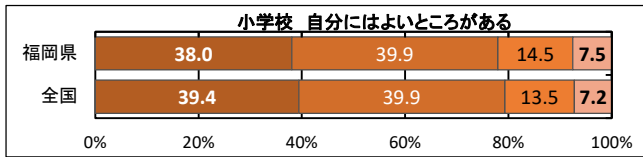


挑戦心、達成感、自己有用感等に関する特徴的な質問項目

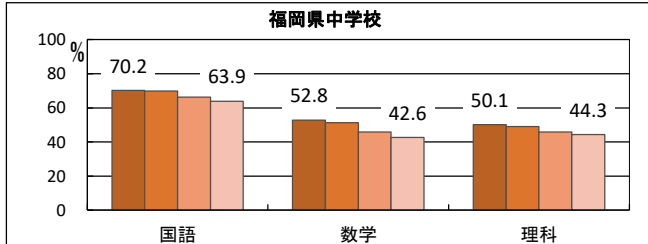
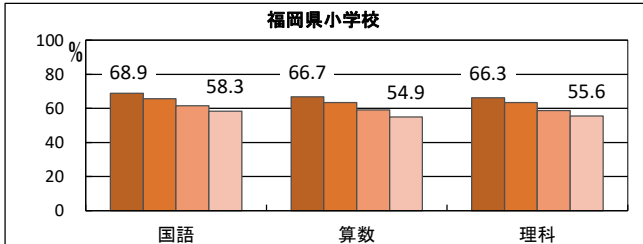
7 自分には、よいところがあると思いますか

回答状況

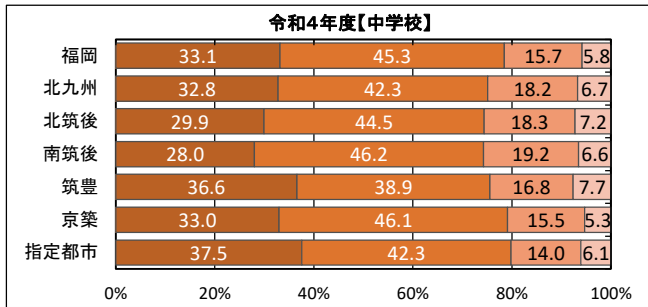
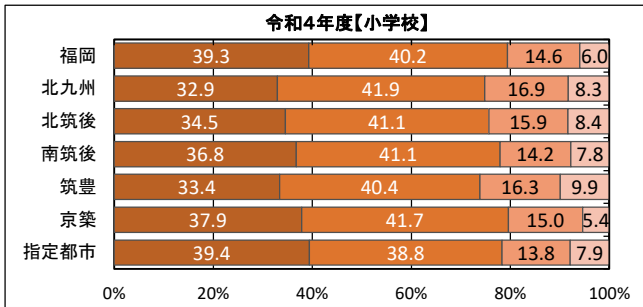
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



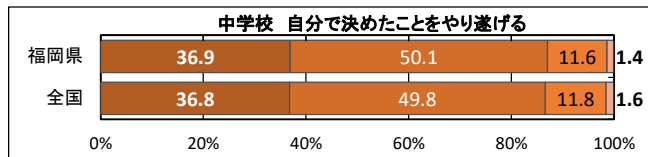
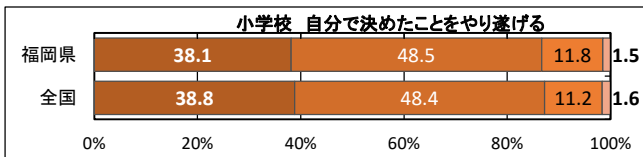
地区別回答状況



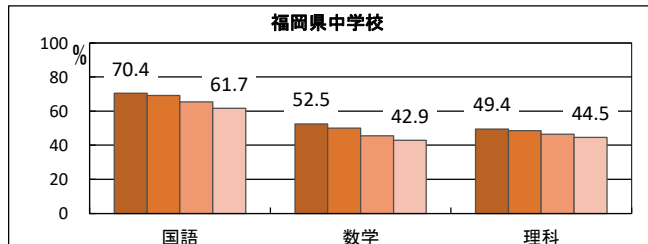
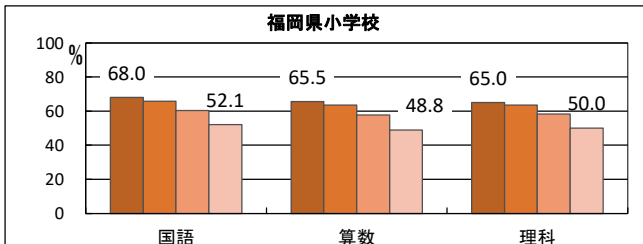
10 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか

回答状況

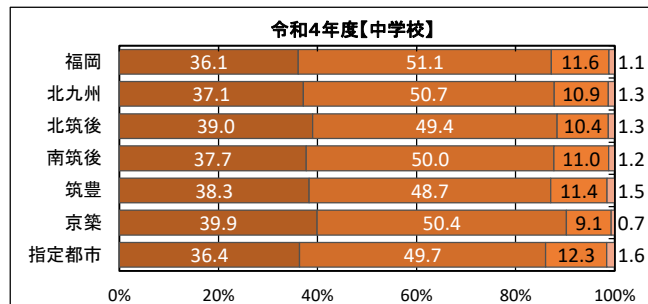
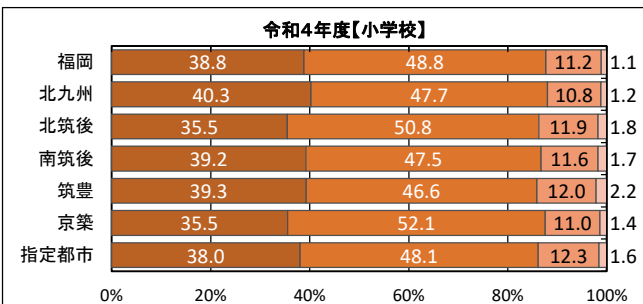
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

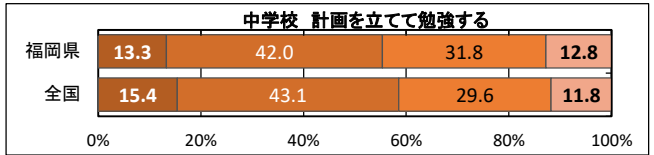
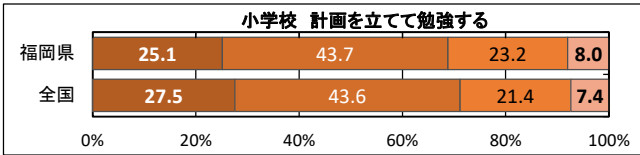


学習習慣・学習環境等に関する特徴的な質問項目

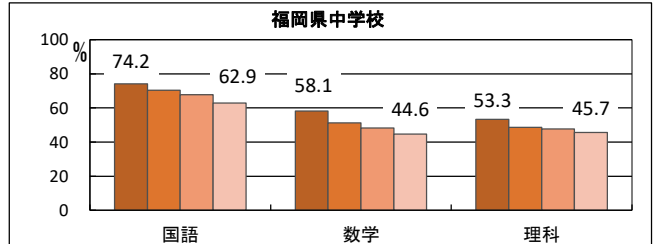
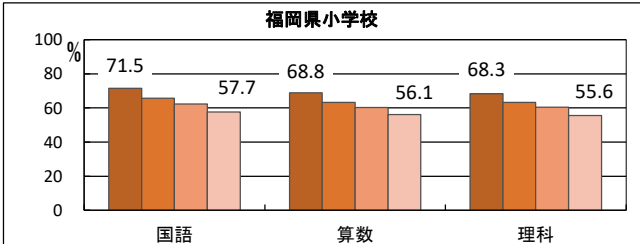
20 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

回答状況

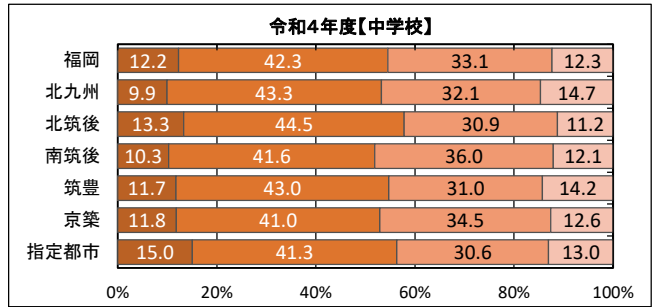
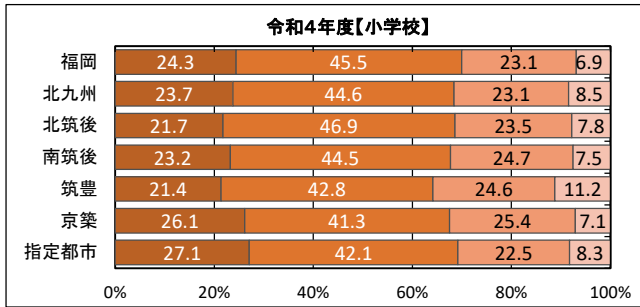
よくしている ときどき あまり 全くしていない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



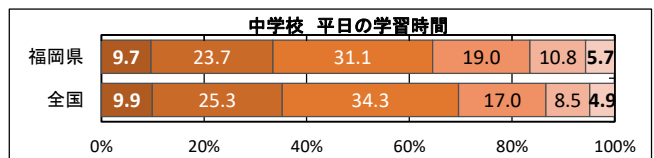
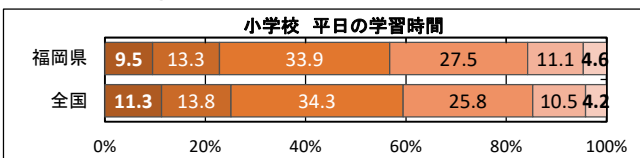
地区別回答状況



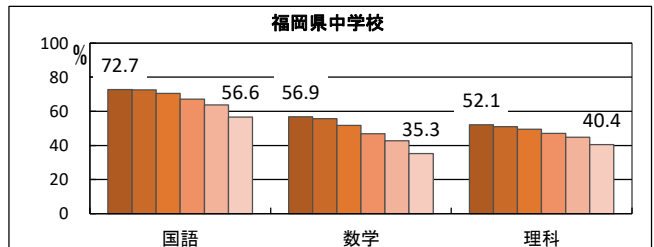
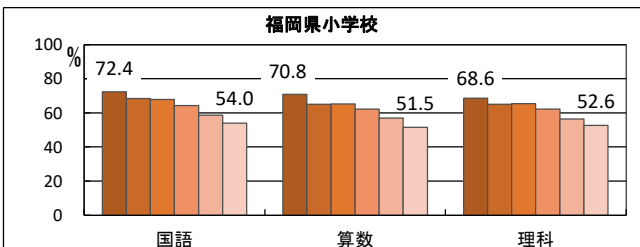
21 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）

回答状況

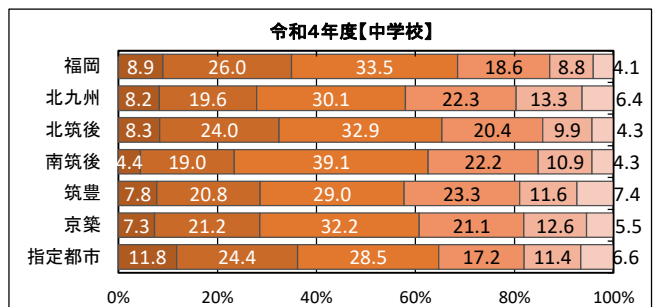
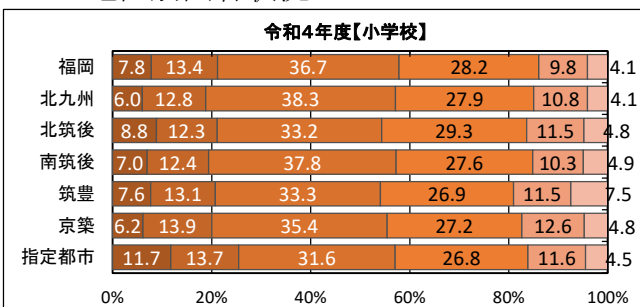
3時間以上 2時間以上 1時間以上 30分以上 30分未満 全く



回答状況と教科の正答率のクロス分析



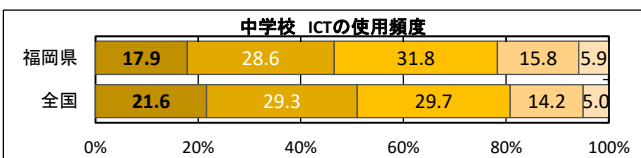
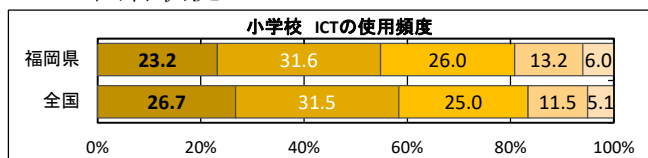
地区別回答状況



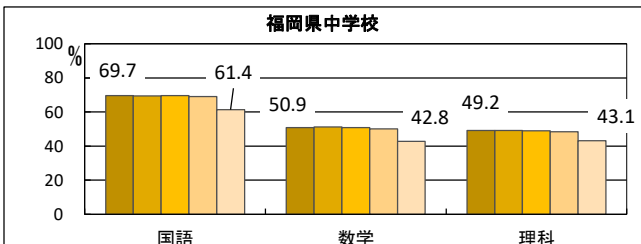
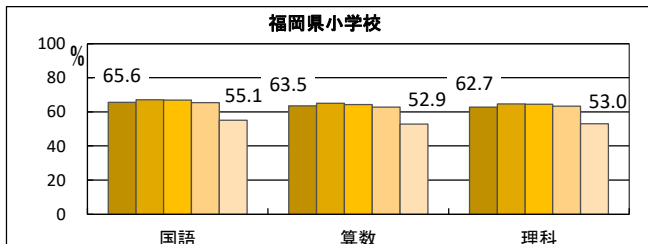
ICTを活用した学習状況に関する特徴的な質問項目

3 2 授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

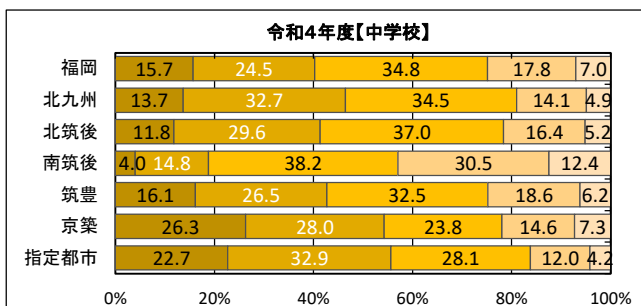
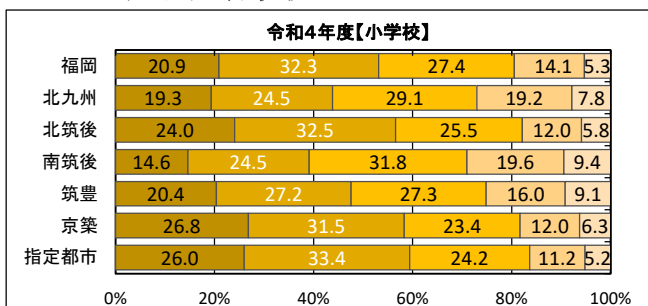
■ 回答状況 ■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



回答状況と教科の正答率のクロス分析

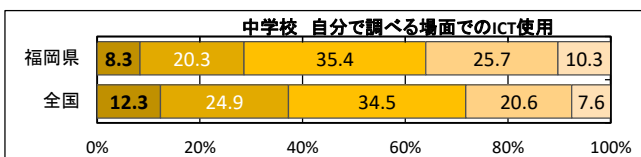
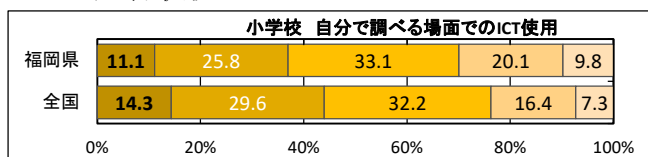


地区別回答状況

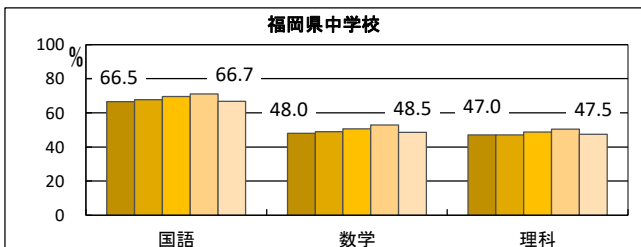
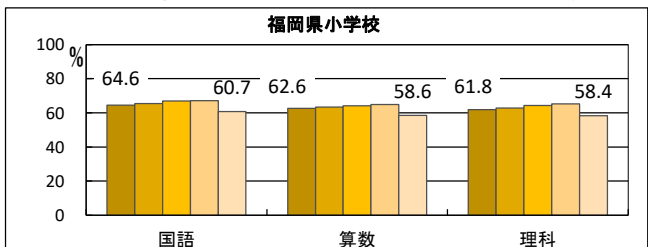


3 3 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか

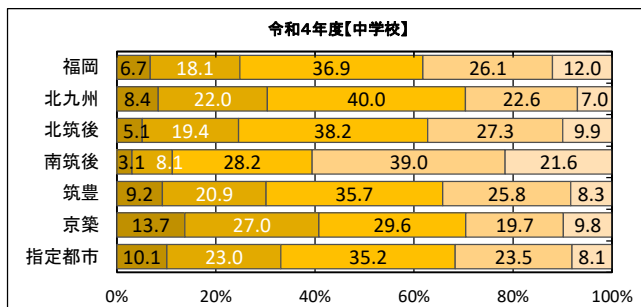
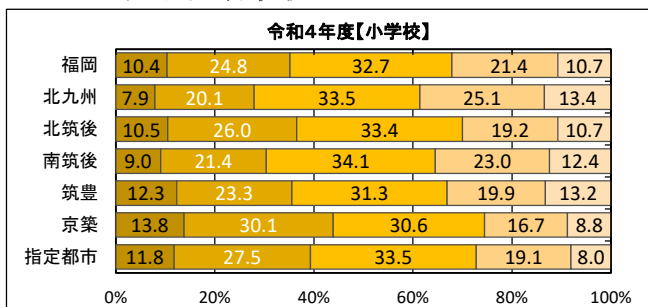
■ 回答状況 ■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

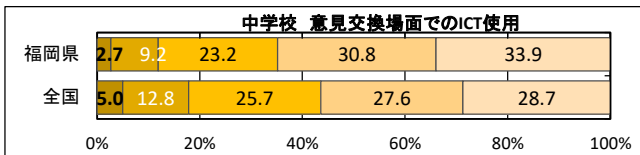
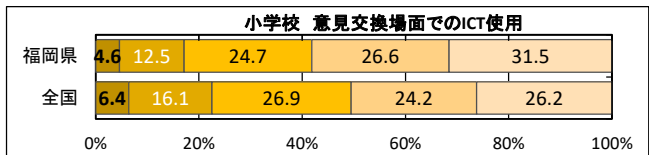


3 4

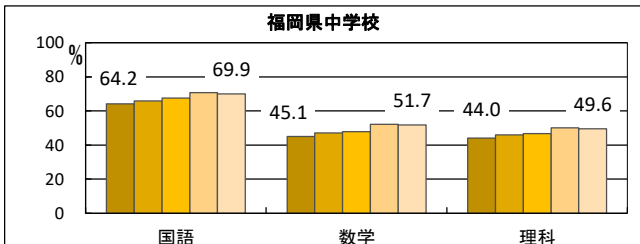
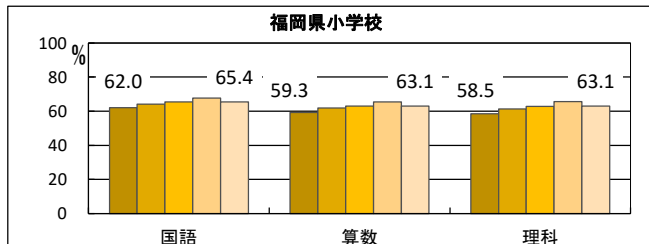
学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか

■ 回答状況

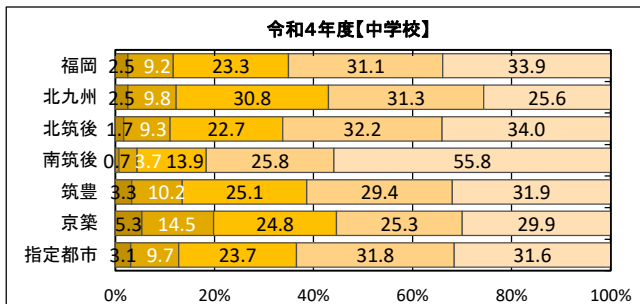
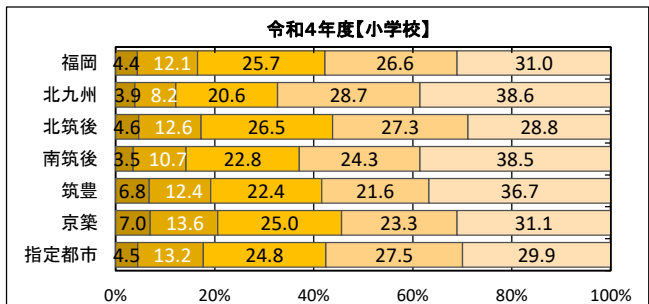
■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

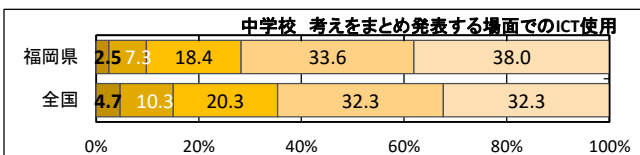
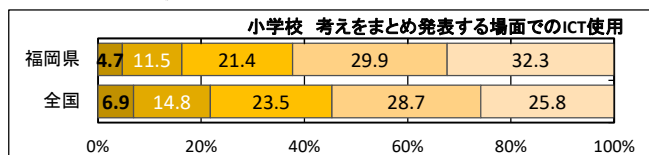


3 5

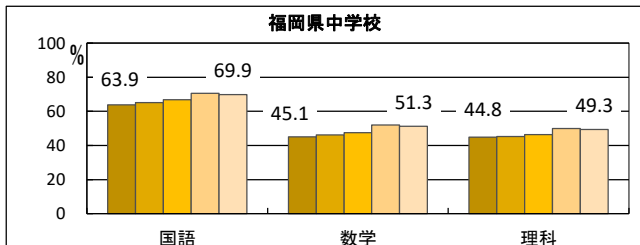
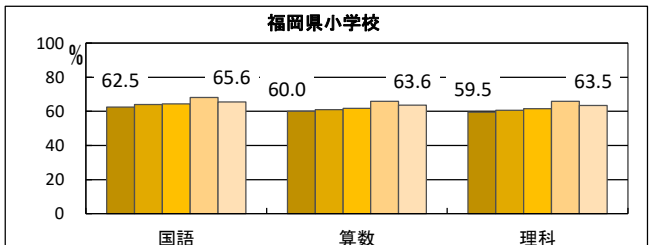
学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか

■ 回答状況

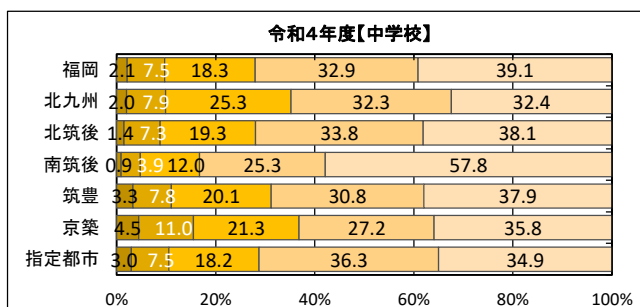
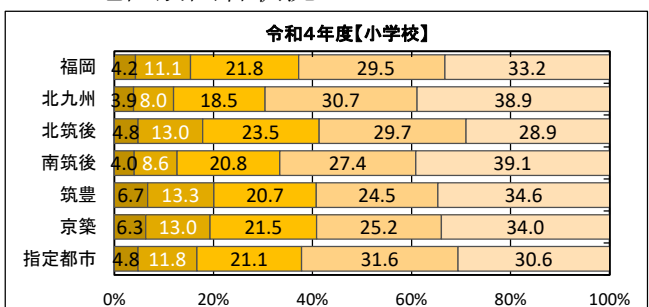
■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

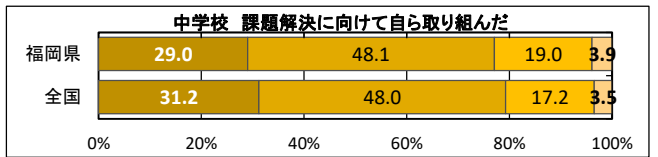
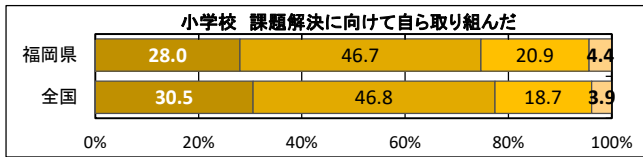


授業改善に向けた取組状況に関する特徴的な質問項目

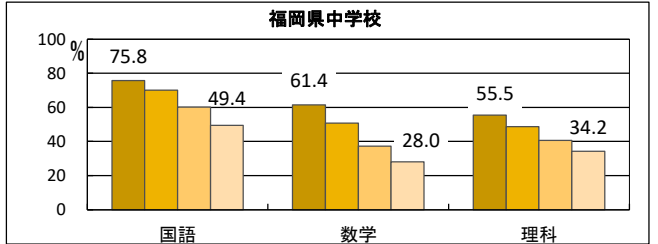
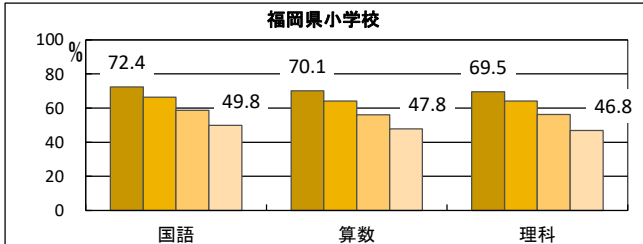
39 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

回答状況

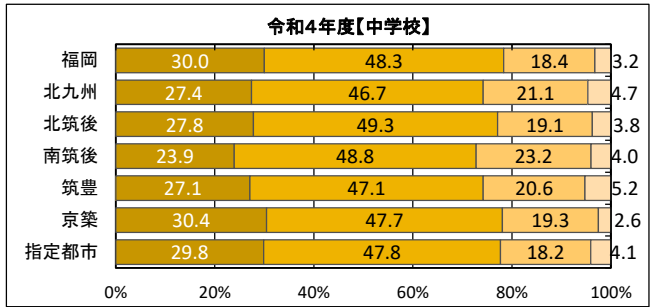
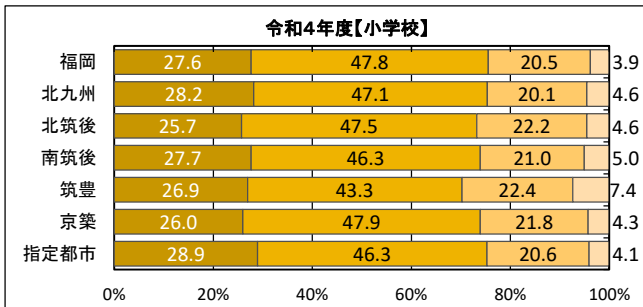
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

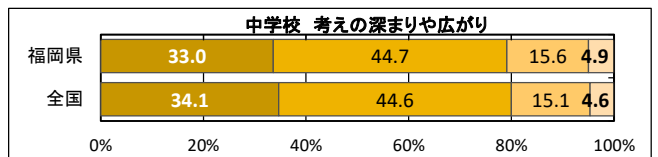
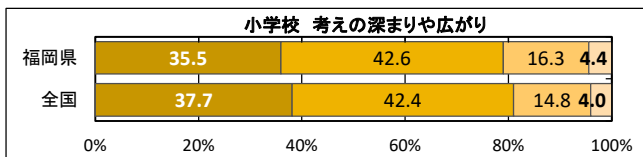


43 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

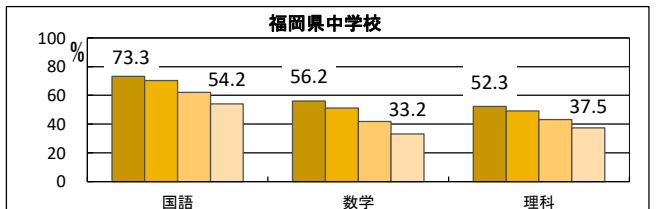
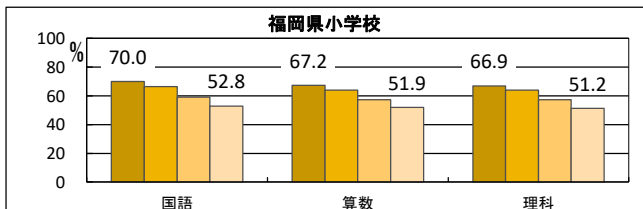
※「話し合う活動を行っていない」と回答した結果は除いているため数値の合計が100%とならない

回答状況

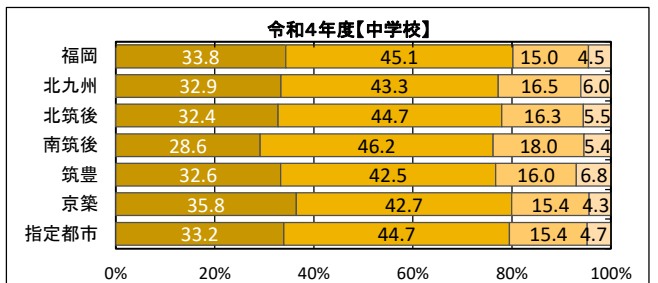
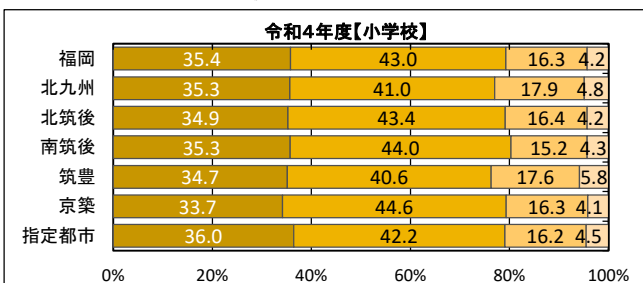
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

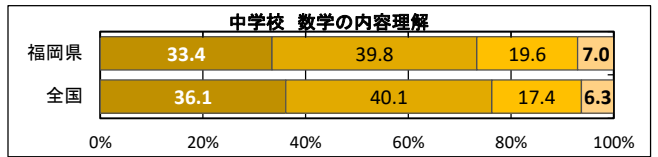
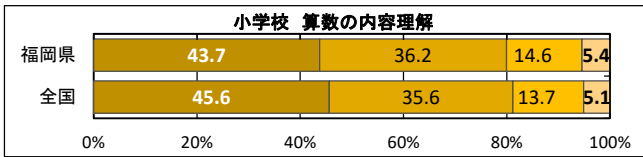


教科の興味関心や理解度に関する特徴的な質問項目

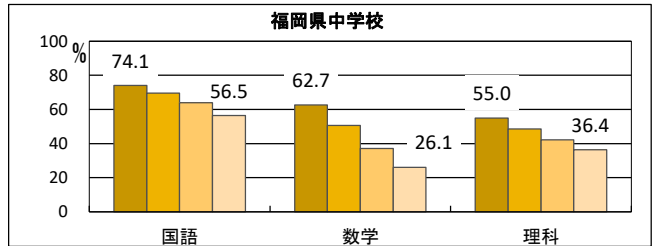
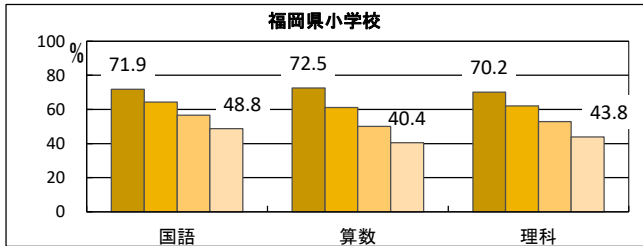
55 算数／数学の授業の内容はよく分かりますか

回答状況

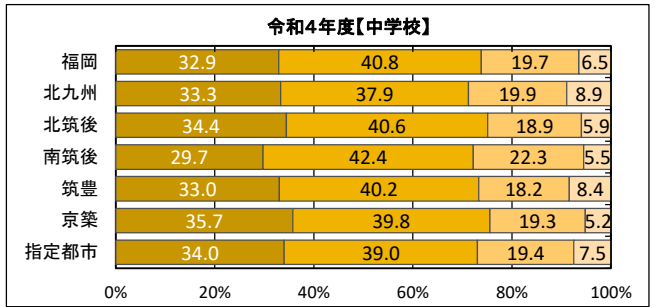
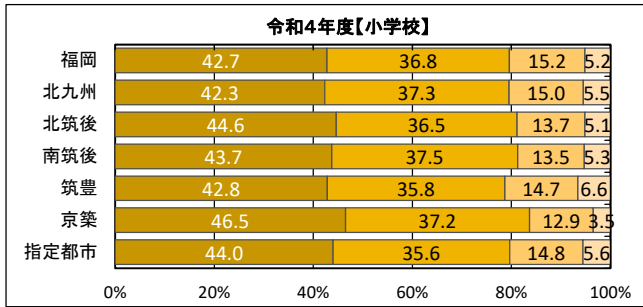
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



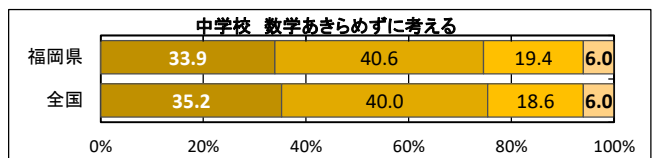
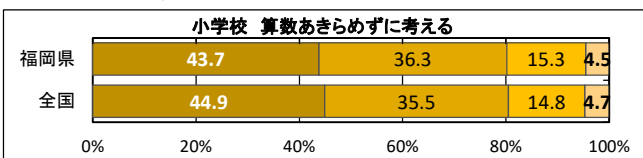
地区別回答状況



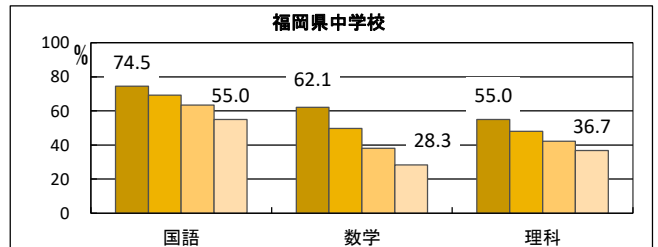
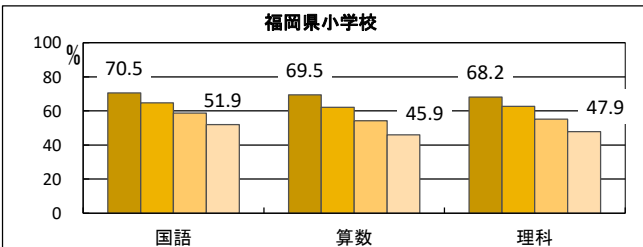
58 算数／数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

回答状況

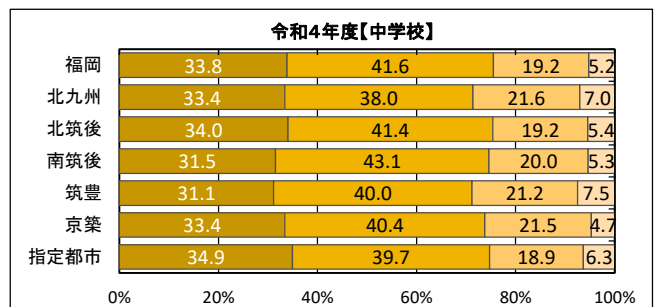
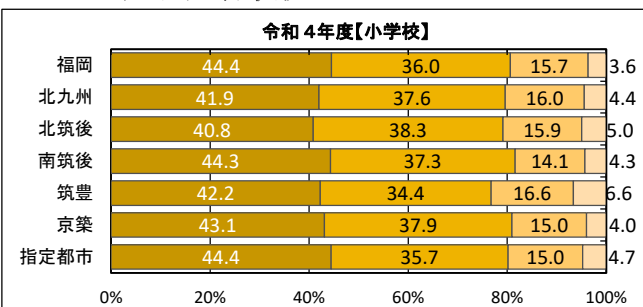
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況



3 学校質問紙の回答状況



- ◆学校運営では、PDCAサイクルの確立について全国と比較して肯定的な回答をしている学校が多い傾向にあり、**検証改善の取組が推進されています。**
- ◆生徒指導等では、授業中の落ち着きや児童生徒を褒める取組について、地区間や校種間での差が表れやすい傾向にあります。**児童生徒の努力やよさを認めていくことは学力向上の取組を進める上で大切です。**
- ◆授業改善に関する取組では、全国と比較して肯定的な回答が低い傾向にあります。主体的・対話的で深い学びを視点にした授業改善では、**児童生徒が発表、説明、話し合う(アウトプットする)活動を充実させていくことが大切です。**
- ◆家庭・地域との連携では、児童生徒が自分で家庭学習ができるように、**課題の配布だけでなく、学習方法等の具体例を示していくことが求められます。**

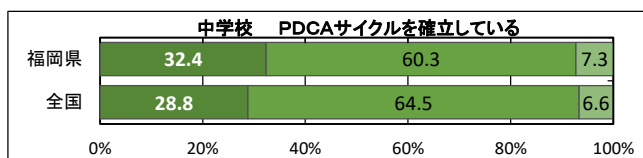
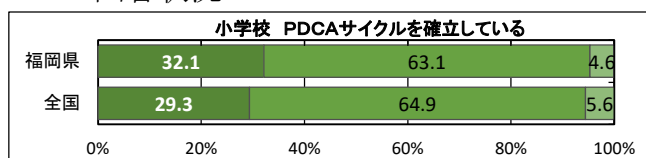
※ 表の数字は、質問番号（小・中共通）

※ 全体の傾向を捉えるため「1%未満の回答は非表示」とし、合計が100%にならないことがある

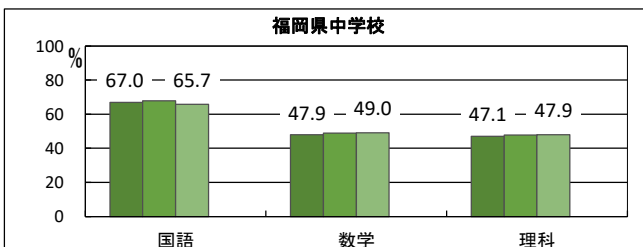
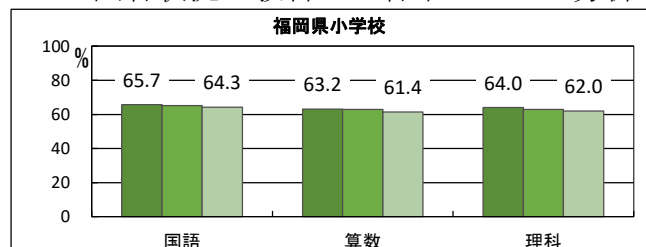
学校運営に関する特徴的な質問項目

17 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

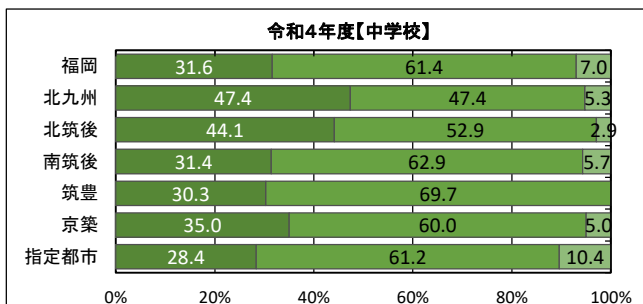
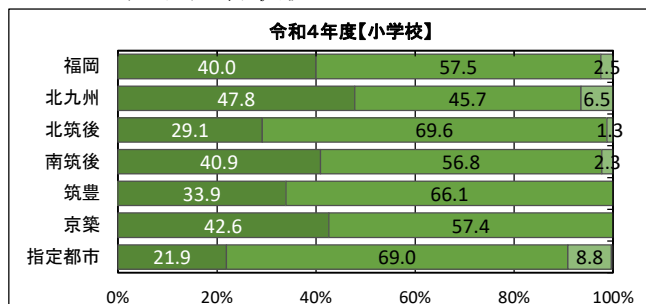
■ 回答状況 ■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全くしていない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

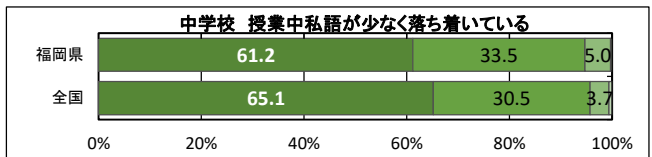
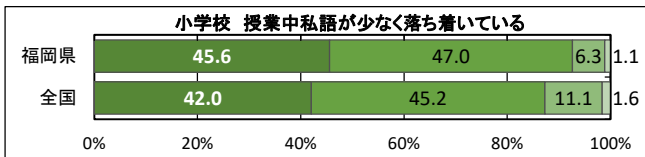


生徒指導等に関する特徴的な質問項目

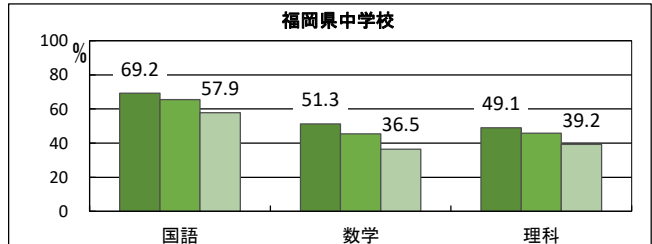
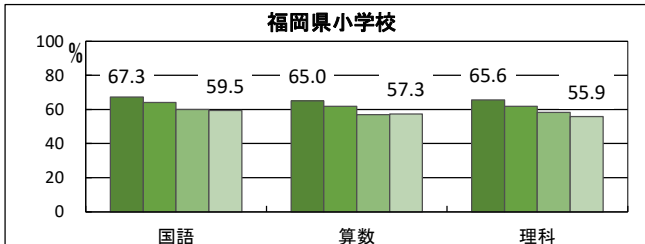
7 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

回答状況

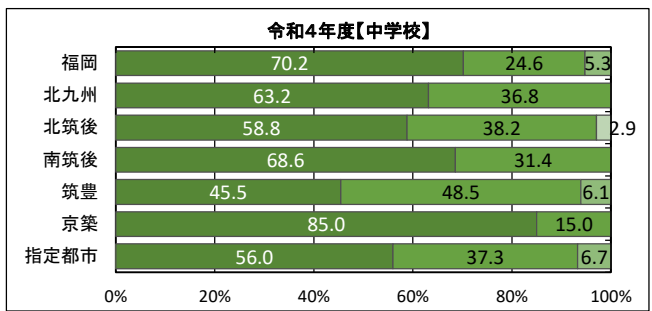
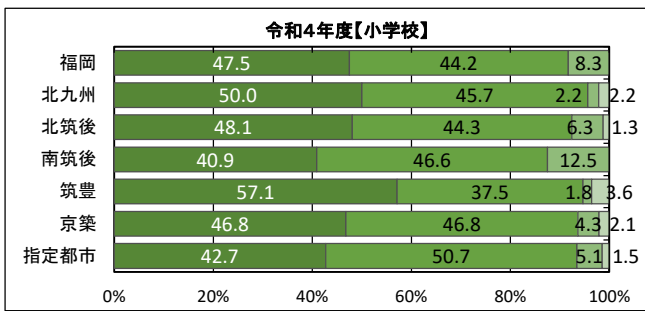
■ そう思う ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



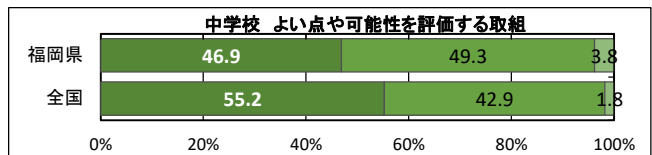
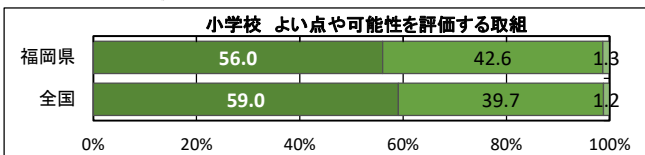
地区別回答状況



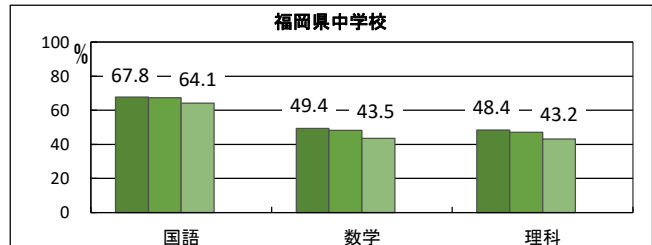
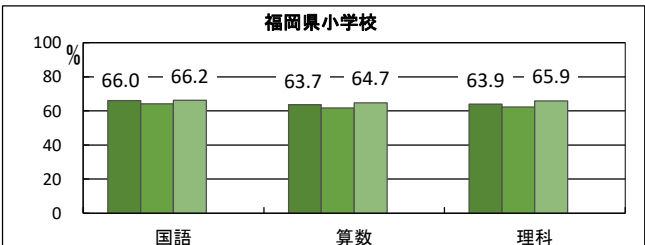
10 前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

回答状況

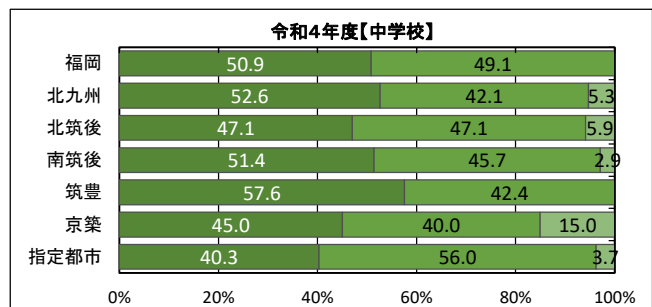
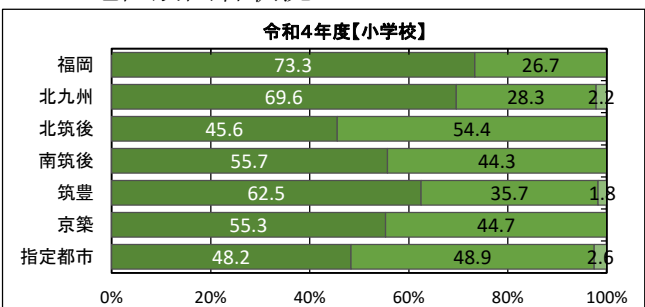
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全く行わなかった



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

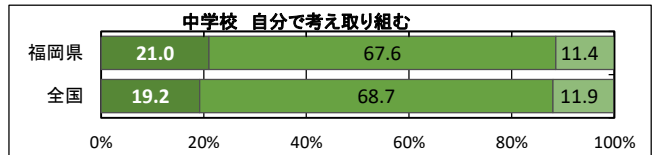
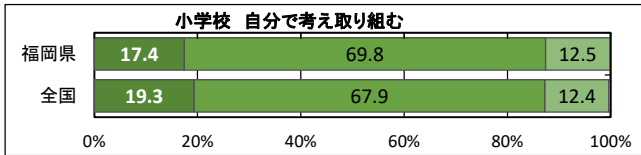


授業改善に関する特徴的な質問項目

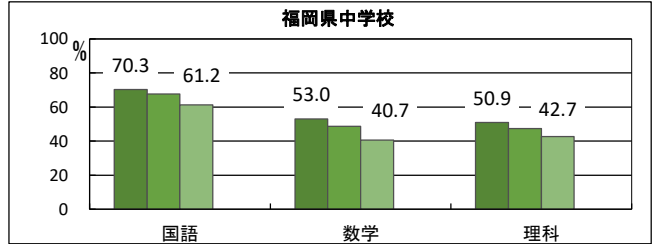
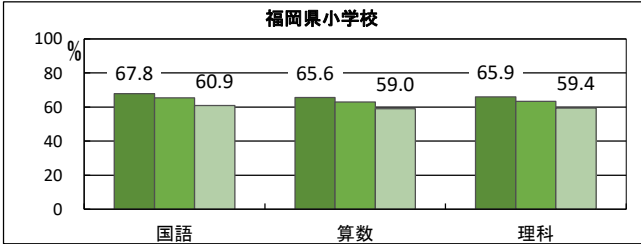
23 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

回答状況

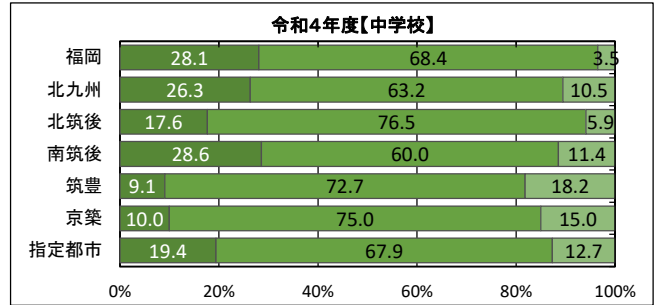
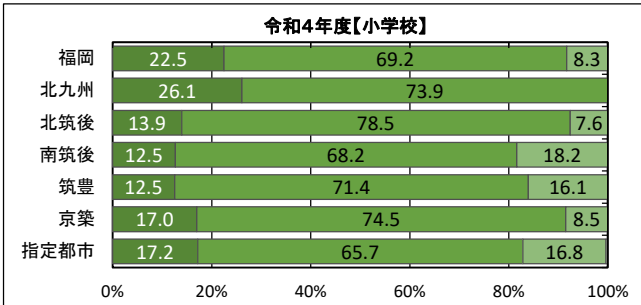
■ そう思う ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



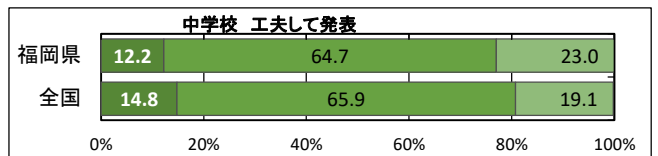
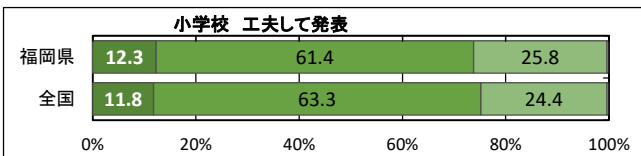
地区別回答状況



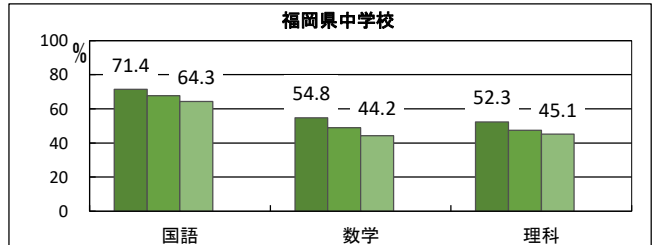
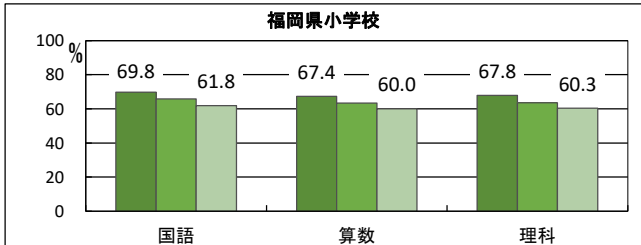
24 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

回答状況

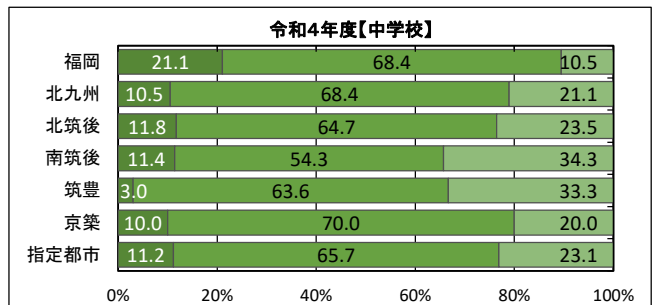
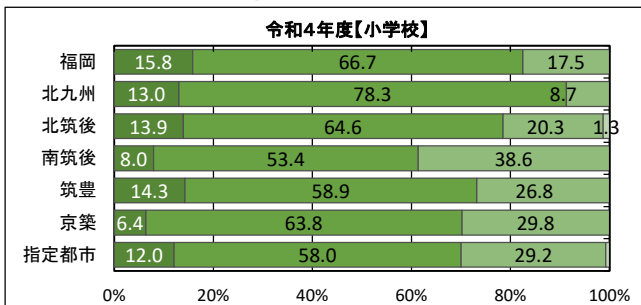
■ そう思う ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



地区別回答状況

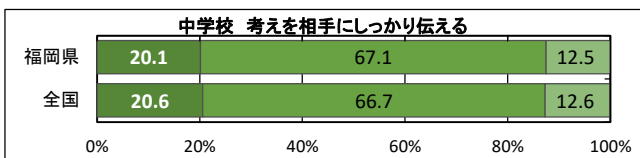
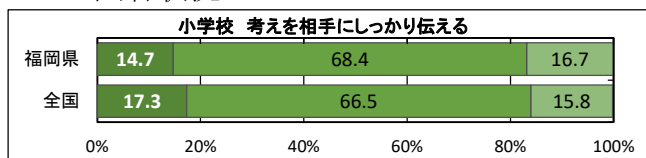


25

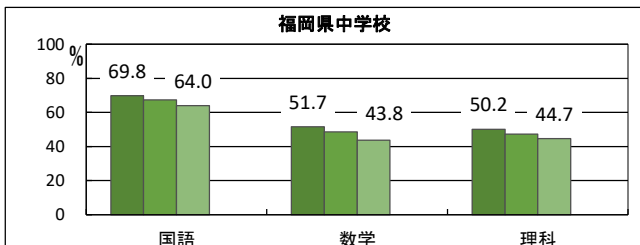
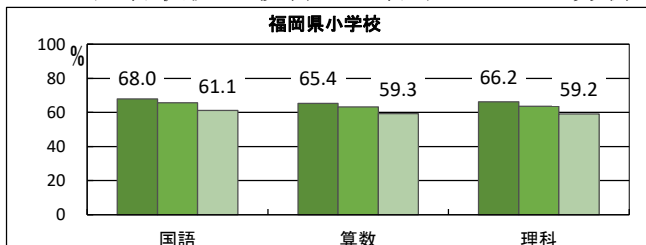
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

■ 回答状況

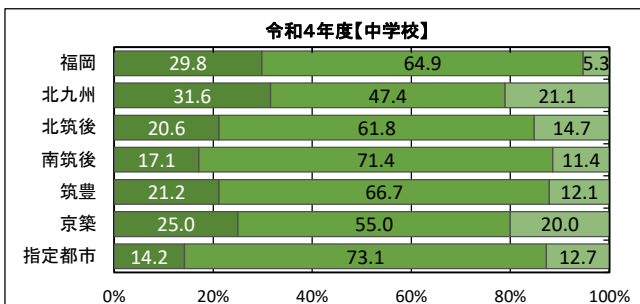
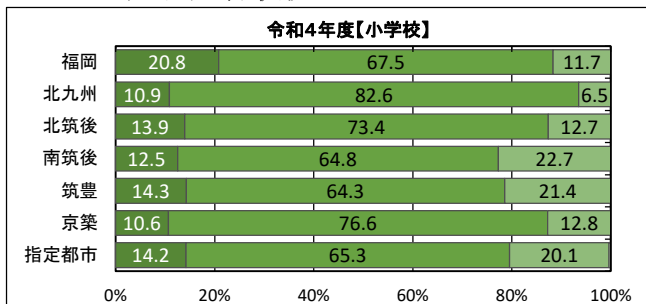
■ そう思う ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

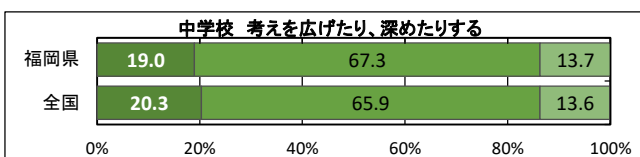
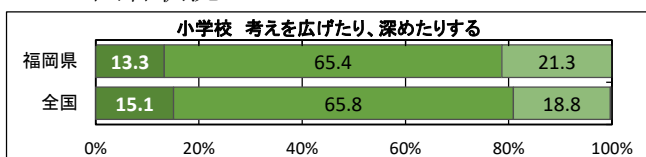


26

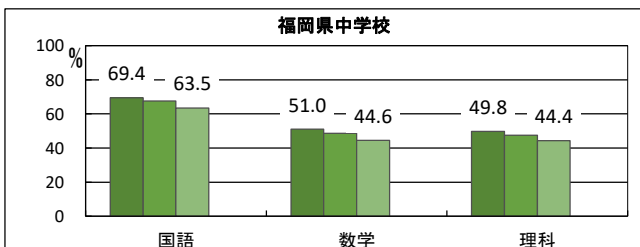
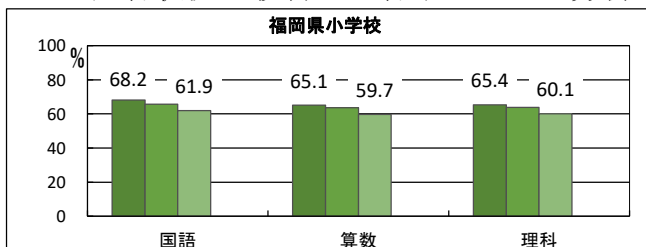
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

■ 回答状況

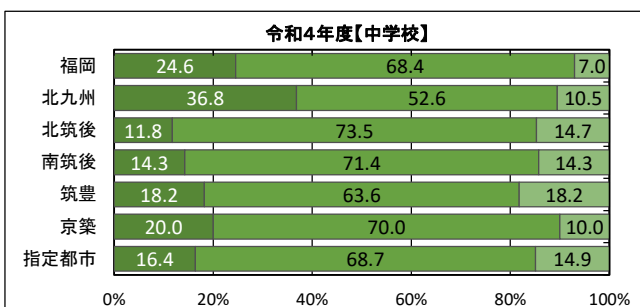
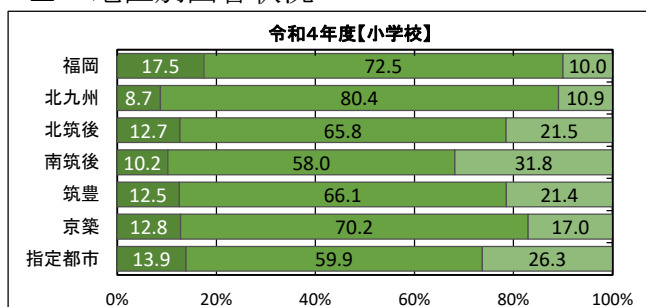
■ そう思う ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

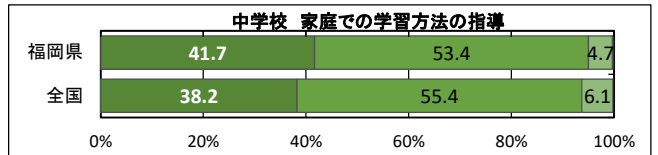
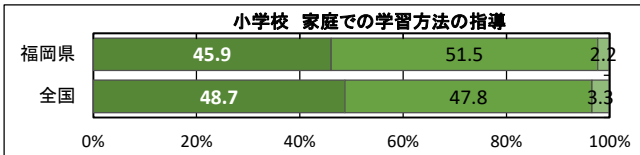


家庭・地域との連携に関する特徴的な質問項目

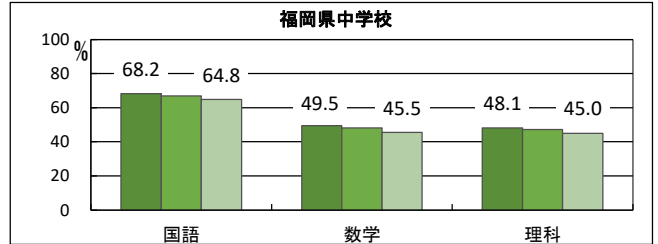
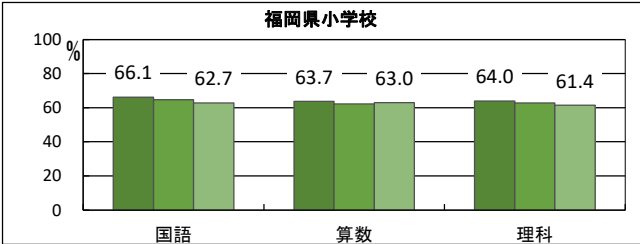
小77 前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体
中75 例を挙げながら教えましたか

■ 回答状況

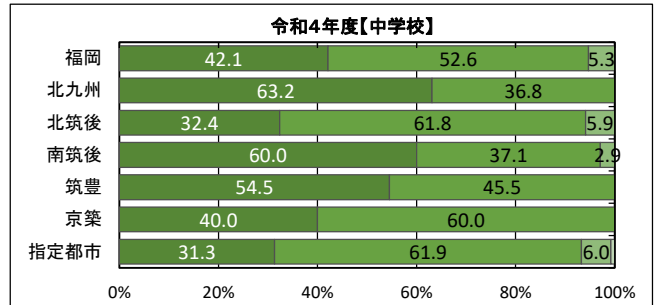
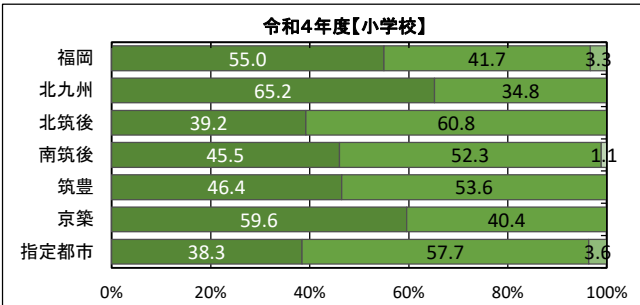
■よくしている ■どちらかといえば ■あまり ■全くしていない



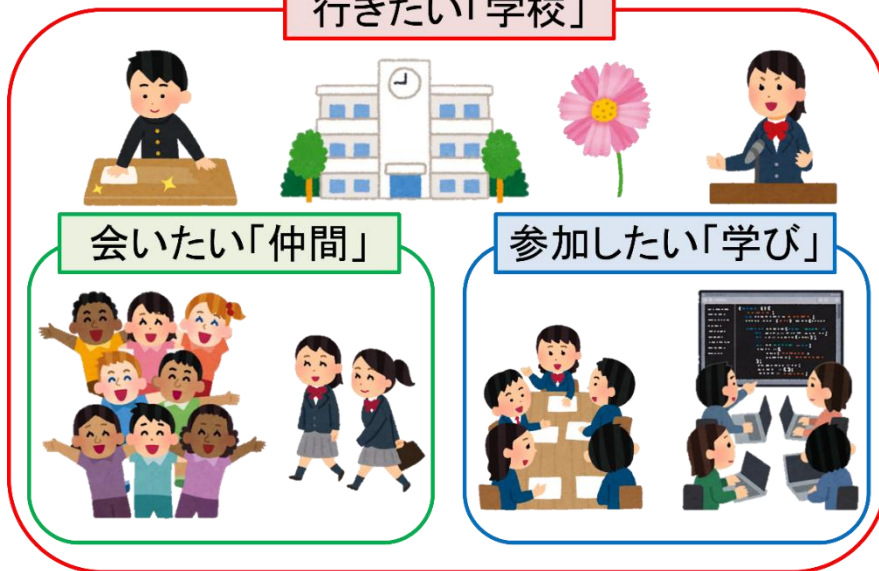
■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況



行きたい「学校」



上の図は、基本的な考え方として大切にしたい学校イメージです。児童生徒にとって「行きたい学校」にするには、「会いたい仲間」と「参加したい学び」が必要だと考えています。そして、この2つの鍵となるのが「教師」です。

「教師」が児童生徒に接する姿勢や態度は、「会いたい仲間」づくりにも、「参加したい学び」づくりにも大きく影響します。各学校では、教師の前向きで児童生徒に元気を与えられる姿勢や態度を今後も大切にいただき、そのことが、結果として児童生徒の学力向上にもよい影響を与え、効果を発揮すると考えています。



4 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の比較

(※ 表の数字は、各質問紙調査の質問番号)

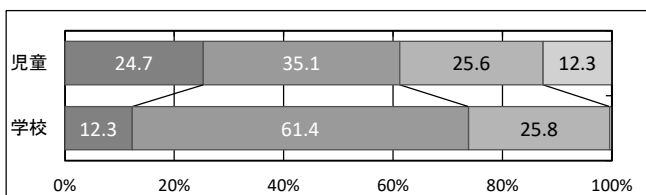


児童生徒質問紙と学校質問紙で共通の内容や関連する内容の質問について、児童生徒と教師の意識には差があります。そのため、児童生徒と教師とで学習の目標を共有したり児童生徒に取組の意図を説明したりしながら進めていくことが求められます。

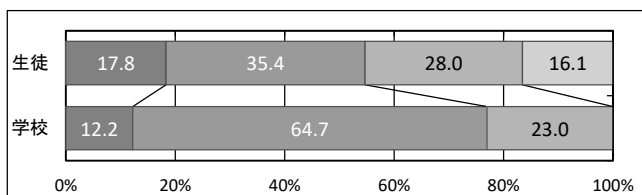
児童生徒 質問紙	小38 中38	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか ■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない
学校 質問紙	小24 中24	児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか ■そう思う ■どちらかといえば ■あまり ■そう思わない

※ 児童生徒質問紙は、「発表する機会がなかった」と回答した結果は除いているため、数値の合計が100%とならない。

■ 小学校

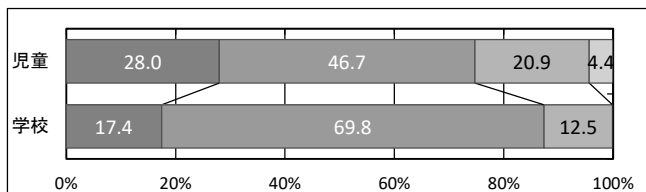


■ 中学校

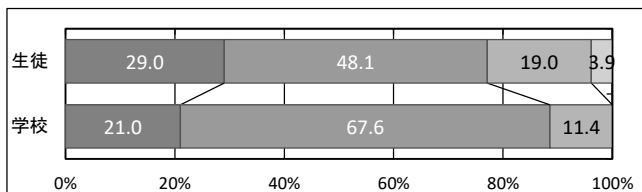


児童生徒 質問紙	小39 中39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか ■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない
学校 質問紙	小23 中23	児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか ■そう思う ■どちらかといえば ■あまり ■そう思わない

■ 小学校



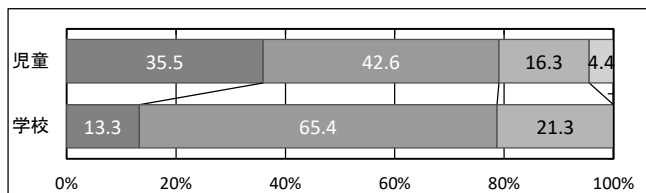
■ 中学校



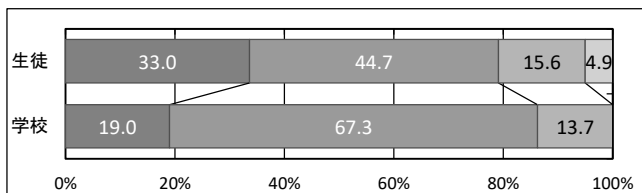
児童生徒 質問紙	小43 中43	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか ■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない
学校 質問紙	小26 中26	児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか ■そう思う ■どちらかといえば ■あまり ■そう思わない

※ 児童生徒質問紙は、「話し合う活動を行っていない」と回答した結果は除いているため、数値の合計が100%とならない。

■ 小学校

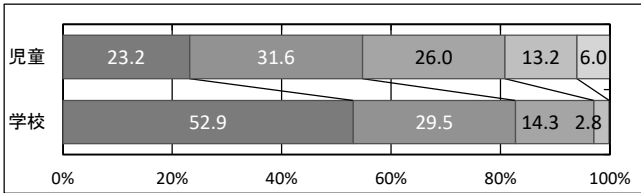


■ 中学校

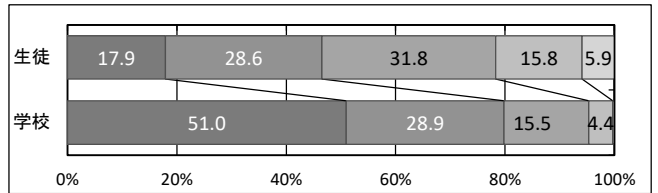


児童生徒 質問紙	小3 2 中3 2	授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満
学校 質問紙	小5 9 中5 7	児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか ■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満

■ 小学校

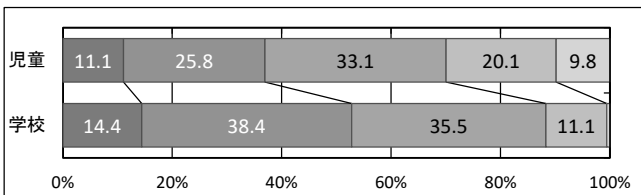


■ 中学校

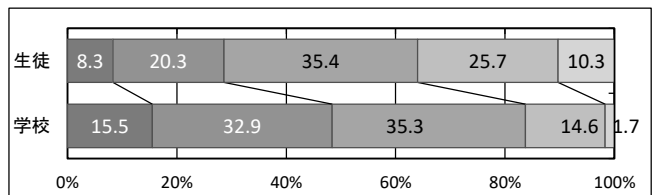


児童生徒 質問紙	小3 3 中3 3	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など） ■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満
学校 質問紙	小6 0 中5 8	児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満

■ 小学校

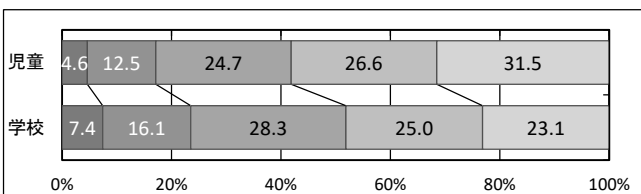


■ 中学校

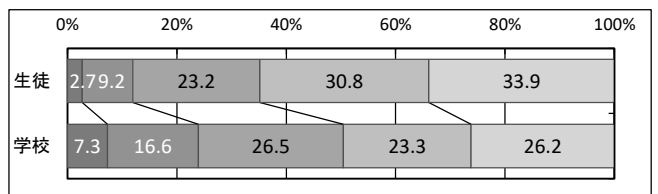


児童生徒 質問紙	小3 4 中3 4	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満
学校 質問紙	小6 3 中6 1	児童生徒同士がやりとりする場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満

■ 小学校

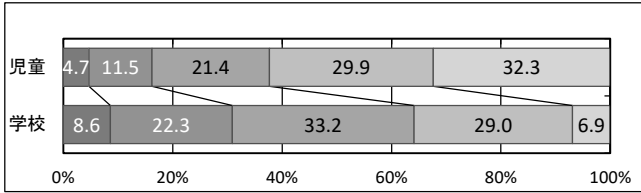


■ 中学校

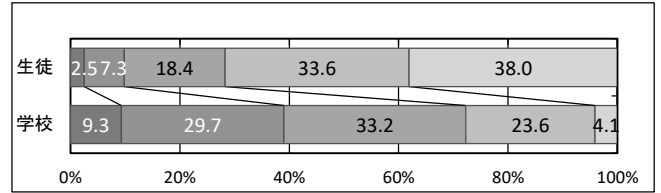


児童生徒 質問紙	小35 中35	学校で、 <u>自分の考えをまとめ、発表する場面</u> で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満
学校 質問紙	小61 中59	児童生徒が <u>自分の考えをまとめ、発表・表現する場面</u> では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満

■ 小学校

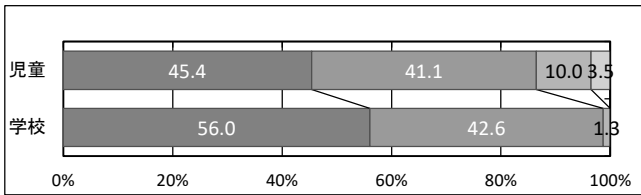


■ 中学校

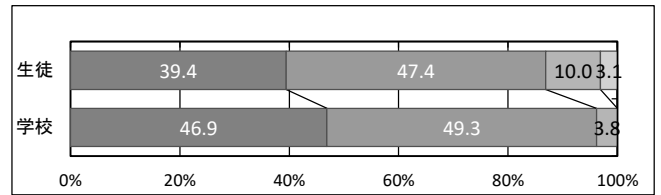


児童生徒 質問紙	小8 中8	先生は、 <u>あなたのよいところを認めてくれている</u> と思いますか ■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない
学校 質問紙	小10 中10	児童生徒に対して、 <u>学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組</u> を行いましたか ■そう思う ■どちらかといえば ■あまり ■そう思わない

■ 小学校

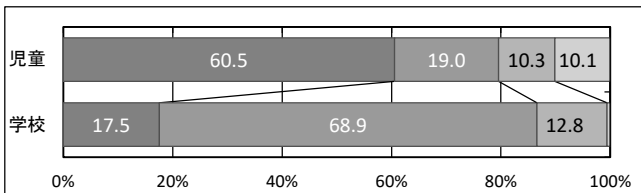


■ 中学校

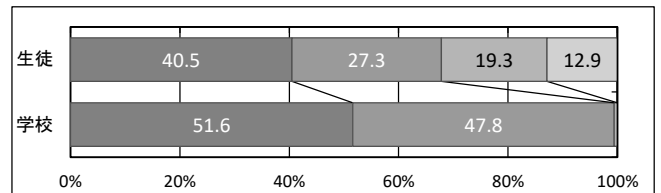


児童生徒 質問紙	小9 中9	<u>将来の夢や目標</u> を持っていますか ■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない
学校 質問紙	小8 中8	<u>将来就きたい仕事や夢</u> について考えさせる指導をしましたか ■そう思う ■どちらかといえば ■あまり ■そう思わない

■ 小学校

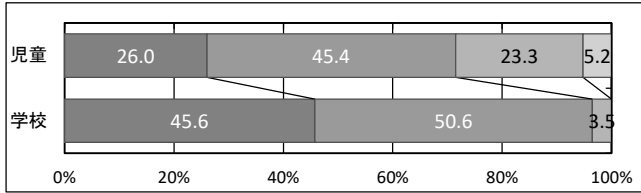


■ 中学校

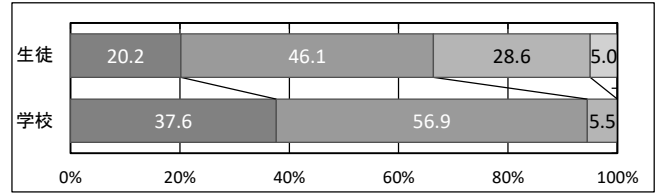


児童生徒 質問紙	小11 中11	難しいことでも、失敗を恐れ <u>ないで挑戦</u> していますか ■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない
学校 質問紙	小9 中9	児童生徒に対して、学級全員で取り組んだり <u>挑戦</u> したりする課題やテーマを与えましたか ■そう思う ■どちらかといえば ■あまり ■そう思わない

■ 小学校

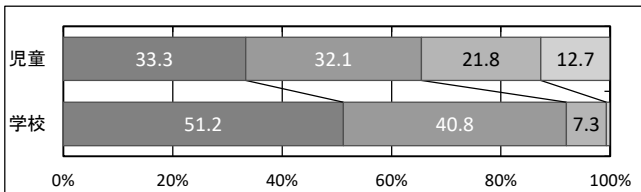


■ 中学校

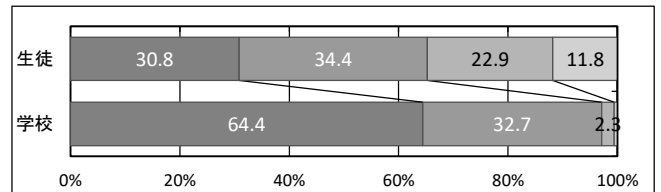


児童生徒 質問紙	小14 中14	困りごとや不安がある時に、 <u>先生や学校</u> にいる大人にいつでも相談できますか ■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない
学校 質問紙	小11 中11	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、 <u>児童生徒が相談したい時に相談</u> できる体制となっていますか ■そう思う ■どちらかといえば ■あまり ■そう思わない

■ 小学校

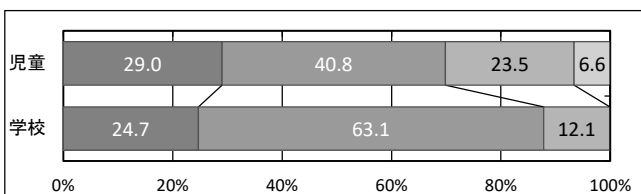


■ 中学校

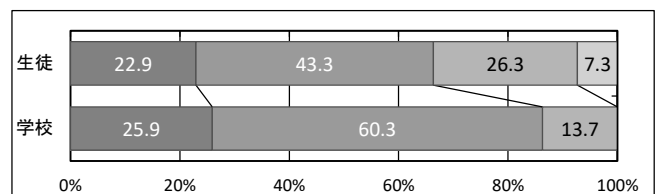


児童生徒 質問紙	小45 中45	総合的な学習の時間では、 <u>自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表</u> するなどの学習活動に取り組んでいますか ■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない
学校 質問紙	小33 中33	児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、 <u>課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程</u> を意識した指導をしていますか ■そう思う ■どちらかといえば ■あまり ■そう思わない

■ 小学校



■ 中学校



5 小学校と中学校の質問紙回答状況の比較

同一集団



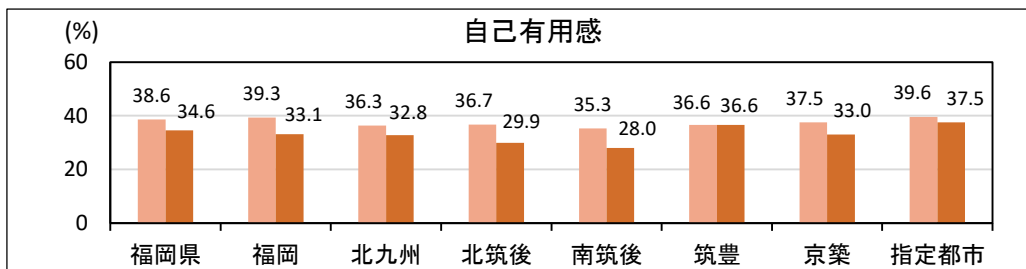
指導に当たっては、児童生徒の発達段階を捉え、個々の児童生徒の状況に配慮した指導の充実が大切になります。

※棒グラフの値は「そう思う」など、「①」と回答した児童生徒の割合

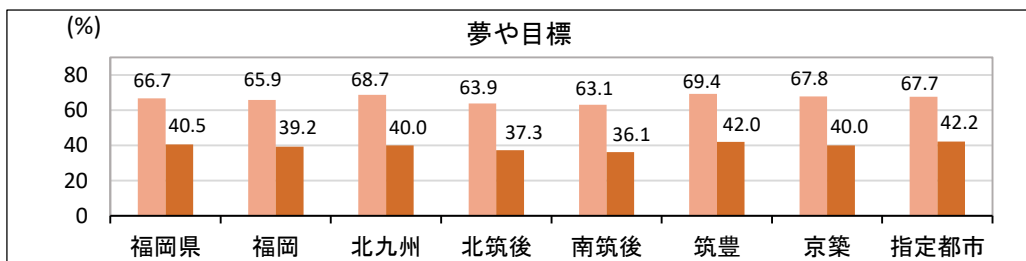
(※ 表の数字は、実施年度の各質問紙調査の質問番号)

(1) 児童生徒質問紙【R1小学6年生→R4中学3年生】

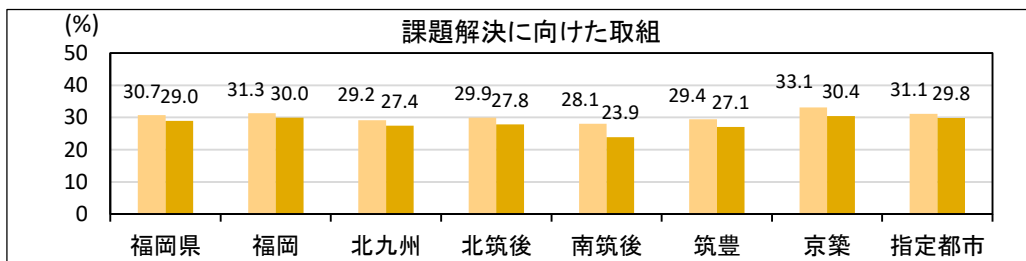
小5 (R1) 中7 (R4)	自分には、よいところがあると思いますか
--------------------	---------------------



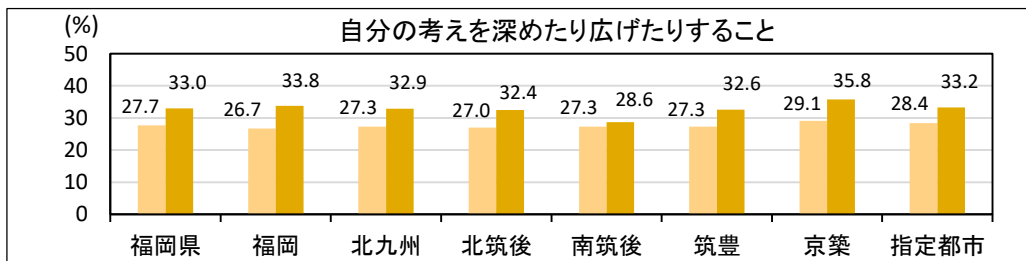
小8 (R1) 中9 (R4)	将来の夢や目標を持っていますか
--------------------	-----------------



小35 (R1) 中39 (R4)	5年生/1・2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
----------------------	---



小29 (R1) 中43 (R4)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
----------------------	---



取組に当たっては、「小・中9年間を通して児童生徒を育てる」という認識に立ち、「児童生徒観」「授業観」を共有しながら、小中連携による取組の推進が求められます。



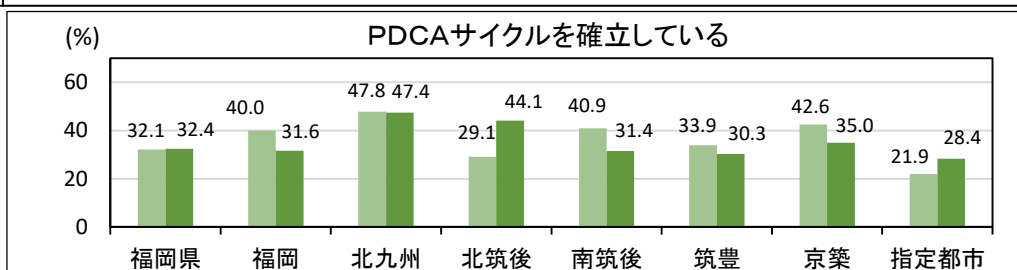
※棒グラフの値は「よくしている」など、「①」と回答した学校の割合

(※ 表の数字は、各質問紙調査の質問番号)

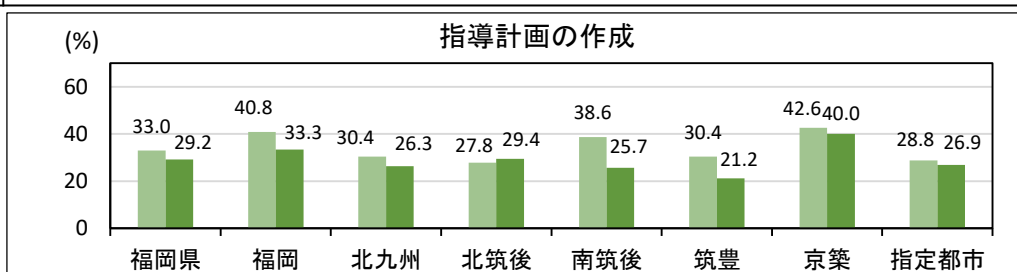
(2) 学校質問紙

■ 小学校 ■ 中学校

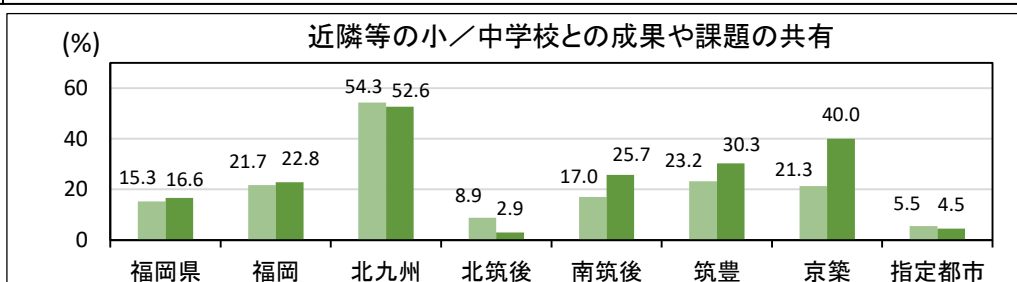
小17 中17	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか
------------	--



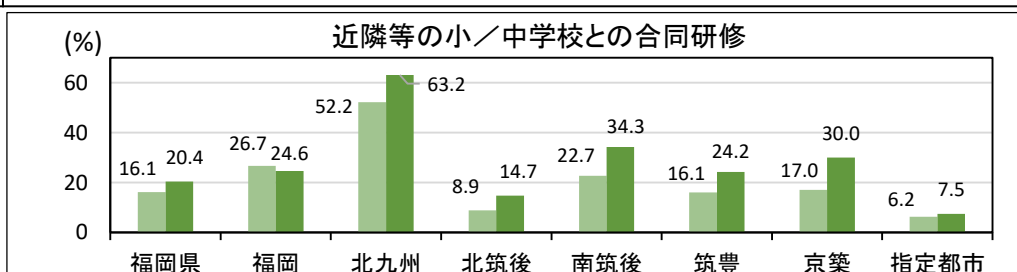
小16 中16	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか
------------	--



小71 中69	令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小／中学校と成果や課題を共有しましたか
------------	--



小70 中68	前年度までに、近隣等の小／中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか
------------	---



X まとめと今後の取組

1 まとめ

福岡県教育委員会では、「日常的・組織的な『授業改善』による学力向上」を掲げ、「学力アップ推進事業」をはじめとした取組を通じて、市町村（学校組合）教育委員会や学校への支援を行ってきた。

取組や本年度の調査結果から、以下のような「成果と課題」を整理することができる。

<成果>

- 国語、算数・数学において、小学校では、全国平均水準を堅調に維持し、中学校では、全国平均水準が定着しつつあることから、児童生徒の確かな学力の育成が図られてきている。
- 国語、算数・数学、理科において、児童生徒の無解答率は全国よりも低い傾向となり、粘り強く問題に取り組んでいる児童生徒が増えている。
- 学校質問紙において、学校運営ではPDCAサイクルの確立について全国と比較して肯定的な回答をしている学校の割合が高い傾向にあり、県内の学校で検証改善の取組が推進されてきている。

<課題>

- 中学校数学は、特に、生徒の学力差、学校間差、地区間差が生じやすいことから、小学校段階からの重点的な指導や個に応じた支援をさらに充実していく必要がある。
- 記述問題の無解答率の減少が、正答率に結び付いていない傾向にあることから、今後は、「質」(条件に合った適切さ)を意識した書く活動を充実する必要がある。
- 児童生徒質問紙において、授業改善に関する取組状況では、全国と比較して肯定的な回答をしている児童生徒の割合が低い傾向にあることから、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をさらに推進していく必要がある。

成果と課題を踏まえ、次年度も「日常的・組織的な『授業改善』による学力向上」を進めるため、次の3つの視点から市町村（学校組合）教育委員会及び学校への支援を行う。

- 「授業づくり」への支援
 - ・ 授業チェックリストや授業アンケートを活用した授業改善の実施
 - ・ 質を意識した「書く活動」の充実による思考力、判断力、表現力等の育成
 - ・ 学力向上に資するICTの効果的な活用の推進
- 「人材育成」への支援
 - ・ 学校の中核となり、具体的な取組の質を向上させるミドルリーダーの育成
 - ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する教科等の専門性を持った教師の育成
- 「マネジメント」への支援
 - ・ 小中9年間を意識した学力向上プランに基づく検証改善サイクルの充実
 - ・ 教師の同僚性が発揮され、効果的な取組を推進する組織マネジメントの充実

2 今後の取組



